

令和5年度 第1回市民意識調査 報告書

調査期間:令和5年6月23日(金)～7月7日(金)

テーマ

- 1 札幌市民の自転車利用について
- 2 応急手当について
- 3 札幌市立大学について
- 4 健康寿命の延伸について
- 5 雪対策に関する取り組みについて
- 6 さぽーとほっと基金について

札幌市

目 次

1 調査実施の概要	
(1) 目的	2
(2) 項目	2
(3) 設計	2
(4) 回収結果	2
(5) 回答者の特性	2
(6) 集計・分析上の注意事項	3
2 調査結果の詳細	
(1) 札幌市民の自転車利用について	
自転車利用時の交通ルールで知っていたもの	7
自転車を利用する頻度	8
自転車の利用目的	9
自転車利用時の様子について	10
自転車利用中の歩行者との接触経験の有無	14
自転車損害賠償保険の加入の有無	15
自転車利用時のヘルメットの着用の有無	16
自転車利用時にヘルメットを着用する理由	17
自転車利用時にヘルメットを着用しない理由	18
自転車利用者のルール遵守	19
(2) 応急手当について	
応急手当を学んだ方法	20
受けてみたい応急手当の講習について	21
応急手当の可否	22
応急手当で不安に思うこと	23
応急手当をしようとする際に受けたいサポート	24
(3) 札幌市立大学について	
札幌市立大学の認知度	25
札幌市立大学について知っていること	26
札幌市立大学を知ったきっかけ	27
札幌市立大学の地域貢献の認知度	28
札幌市立大学に期待する大学像	29
札幌市立大学に期待する活動	30
関心のある札幌市立大学の研究や活動	31
(4) 健康寿命の延伸について	
健康上の問題による日常生活への影響の有無	32
ここ1か月の間における日常生活への影響の有無	33
自身が感じる現在の健康状態	34
1週間の外出頻度	36
外出した日に歩く時間	38
外出する目的	39

話す機会があった相手-----	40
新型コロナウイルス感染拡大前と現在の行動頻度の変化-----	48
健康寿命の延伸につながる取り組みへの興味の有無-----	49
健康寿命の延伸を意識した行動の有無-----	50
きっかけや働きかけがあれば行うと思う取り組みについて-----	51
(5) 雪対策に関する取り組みについて	
札幌市で除雪を強化している道路・場所のうち、力を入れてほしい道路・場所-----	58
冬期間の生活道路の状況改善のために重視すべき点-----	59
除雪の対象となっている歩道の状況について重視すべき点-----	60
大雪時や大雪が想定されるときにとる行動-----	61
公園を雪置き場として利用しているか-----	62
雪の処理のための設備の設置・購入を検討しているか-----	63
雪の処理のために設置・購入を検討している設備-----	64
有料除排雪サービスの利用の有無-----	65
取り組んだことがある除雪ボランティアの種類-----	66
「雪を道路に出してはいけない」というルールへの遵守について-----	67
「路上駐車をしてはいけない」というルールへの遵守について-----	68
見たことのある冬の暮らしに関する情報-----	69
(6) さぼーとほっと基金について	
さぼーとほっと基金の認知度-----	70
さぼーとほっと基金を知ったきっかけ-----	71
さぼーとほっと基金への寄付の有無-----	72
今後のさぼーとほっと基金への寄付-----	73
寄付をする際に重要だと思うこと-----	74
寄付の方法や機会について-----	75
寄付したい分野・テーマ-----	76
資料：令和5年度第1回市民意識調査票-----	77

調査実施の概要

1 調査実施の概要

(1) 目的

この調査は、昭和49年度から毎年実施しており、市政や市民生活に関して、市民の意識、関心、要望の傾向などを測定し、市政の参考とするものである。令和5年度第1回調査では、「札幌市立大学」「雪対策」などをテーマとして設問を構成している。

(2) 項目

札幌市民の自転車利用について
 応急手当について
 札幌市立大学について
 健康寿命の延伸について
 雪対策に関する取り組みについて
 さぼーとほっと基金について

(3) 設計

調査地域 札幌市内
 調査対象 満18歳以上の男女個人
 標本数 5,000人
 調査方法 調査票を郵送し、返信用封筒で回収
 調査期間 令和5年(2023年)6月23日(金)～7月7日(金)
 抽出方法 住民基本台帳から「等間隔無作為抽出」
 (対象者の抽出は、本市の電算システムにて行う。)

(4) 回収結果

発送数 5,000
 回収数(率) 2,427 (48.5%)

(5) 回答者の特性

区分	実数	比率(%)	男性	比率(%)	女性	比率(%)	その他	比率(%)	無回答	比率(%)	合計	比率(%)
対象者全体	2,427	100.0	993	40.9	1,406	57.9	9	0.4	19	0.8	2,427	100.0
【性別】												
男性	993	40.9	993	100.0	-	-	-	-	-	-	993	100.0
女性	1,406	57.9	-	-	1,406	100.0	-	-	-	-	1,406	100.0
その他	9	0.4	-	-	-	-	9	100.0	-	-	9	100.0
無回答	19	0.8	-	-	-	-	-	-	19	100.0	19	100.0
【年代】												
29歳以下	161	6.6	59	36.6	101	62.7	1	0.6	-	-	161	100.0
30～39歳	262	10.8	80	30.5	180	68.7	2	0.8	-	-	262	100.0
40～49歳	400	16.5	150	37.5	248	62.0	2	0.5	-	-	400	100.0
50～59歳	411	16.9	164	39.9	245	59.6	1	0.2	1	0.2	411	100.0
60～69歳	468	19.3	207	44.2	261	55.8	-	-	-	-	468	100.0
70歳以上	707	29.1	333	47.1	369	52.2	3	0.4	2	0.3	707	100.0
無回答	18	0.7	-	-	2	11.1	-	-	16	88.9	18	100.0
【居住区】												
中央区	288	11.9	109	37.8	178	61.8	1	0.3	-	-	288	100.0
北区	323	13.3	139	43.0	183	56.7	-	-	1	0.3	323	100.0
東区	326	13.4	143	43.9	181	55.5	1	0.3	1	0.3	326	100.0
白石区	249	10.3	103	41.4	145	58.2	1	0.4	-	-	249	100.0
厚別区	164	6.8	68	41.5	95	57.9	-	-	1	0.6	164	100.0
豊平区	263	10.8	94	35.7	168	63.9	1	0.4	-	-	263	100.0
清田区	169	7.0	72	42.6	97	57.4	-	-	-	-	169	100.0
南区	164	6.8	66	40.2	96	58.5	2	1.2	-	-	164	100.0
西区	275	11.3	109	39.6	163	59.3	2	0.7	1	0.4	275	100.0
手稲区	186	7.7	88	47.3	97	52.2	1	0.5	-	-	186	100.0
無回答	20	0.8	2	10.0	3	15.0	-	-	15	75.0	20	100.0

区分	実数	比率(%)	男性	比率(%)	女性	比率(%)	その他	比率(%)	無回答	比率(%)	合計	比率(%)
対象者全体	2,427	100.0	993	40.9	1,406	57.9	9	0.4	19	0.8	2,427	100.0
【職業】												
会社員	726	29.9	399	55.0	325	44.8	1	0.1	1	0.1	726	100.0
公務員	84	3.5	51	60.7	33	39.3	-	-	-	-	84	100.0
自営業	133	5.5	82	61.7	50	37.6	1	0.8	-	-	133	100.0
パート・アルバイト	381	15.7	75	19.7	303	79.5	3	0.8	-	-	381	100.0
主婦・主夫	412	17.0	1	0.2	408	99.0	1	0.2	2	0.5	412	100.0
学生	47	1.9	20	42.6	26	55.3	1	2.1	-	-	47	100.0
無職	510	21.0	304	59.6	206	40.4	-	-	-	-	510	100.0
その他	100	4.1	54	54.0	44	44.0	2	2.0	-	-	100	100.0
無回答	34	1.4	7	20.6	11	32.4	-	-	16	47.1	34	100.0
【同居家族】												
配偶者	1,505	62.0	701	46.6	798	53.0	4	0.3	2	0.1	1,505	100.0
乳幼児(0～2歳程度)	70	2.9	21	30.0	48	68.6	1	1.4	-	-	70	100.0
就学前児童(3～5歳程度)	107	4.4	30	28.0	76	71.0	1	0.9	-	-	107	100.0
小学生(6～12歳程度)	219	9.0	76	34.7	141	64.4	2	0.9	-	-	219	100.0
中学生(13～15歳程度)	143	5.9	55	38.5	86	60.1	2	1.4	-	-	143	100.0
高校生(16～18歳程度)	129	5.3	50	38.8	78	60.5	1	0.8	-	-	129	100.0
大学(院)・専門学校生	108	4.4	49	45.4	57	52.8	1	0.9	1	0.9	108	100.0
65歳以上の高齢者	329	13.6	101	30.7	224	68.1	3	0.9	1	0.3	329	100.0
上記「1」～「8」以外の方	466	19.2	182	39.1	281	60.3	3	0.6	-	-	466	100.0
いない	405	16.7	157	38.8	247	61.0	1	0.2	-	-	405	100.0
無回答	39	1.6	3	7.7	20	51.3	16	41.0	-	-	39	100.0
【居住形態】												
戸建て住宅	1,154	47.5	510	44.2	638	55.3	4	0.3	2	0.2	1,154	100.0
集合住宅	1,201	49.5	461	38.4	735	61.2	4	0.3	1	0.1	1,201	100.0
その他	30	1.2	13	43.3	17	56.7	-	-	-	-	30	100.0
無回答	42	1.7	9	21.4	16	38.1	1	2.4	16	38.1	42	100.0

(6) 集計・分析上の注意事項

報告書内の図表において、各設問の有効回答数は、無回答を含め「N」で標記している。また、図表中の構成比(%)は、小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計は必ずしも100.0%になっていない場合がある。

なお、個々の選択肢比率を合算する場合(「そう思う」と「ある程度そう思う」の合計など)は、個々の回答者数の合計をNで除して百分率を求め、小数第2位を四捨五入した。このため、本文やグラフの比率を単純合計したものにはならない場合がある。

調査結果の詳細

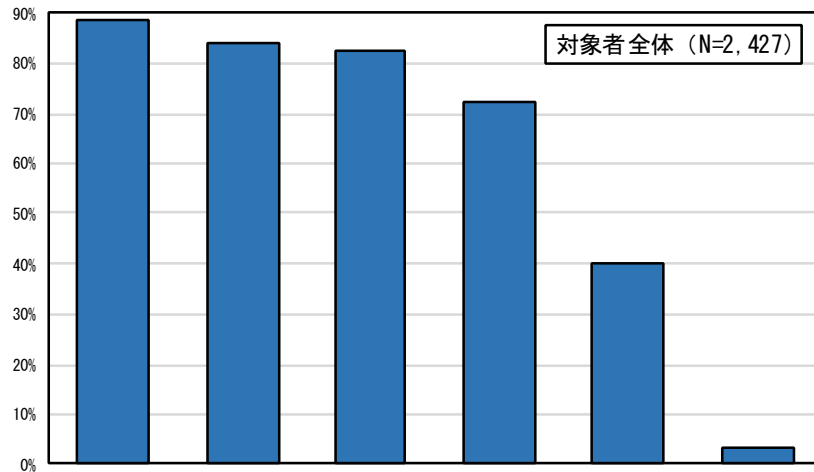
2 調査結果の詳細

(1) 札幌市民の自転車利用について

◇自転車利用時の交通ルールで知っていたもの

問1 自転車利用時の交通ルールについてお聞きします。以下に示した正しいルールのうち、あなたが知っていたものにいくつでも○をつけてください。

自転車利用時の交通ルールで知っていたものは「原則として自転車は車道の左側を走る」が88.5%



		対象者数	原則として自転車は車道の左側を走る (%)	優先として自転車は歩道を走る時は歩行者が優先 (%)	全年齢の自転車利用者が自転車乗車用ヘルメットの着用を努めなければならない (%)	歩行者の妨げにならないように自転車が歩行者の停止する (%)	自転車は歩道を走る時は歩道の車道側を走る (%)	無回答 (%)
対象者全体		2,427	88.5	84.2	82.3	72.0	40.3	3.3
性別	男性	993	90.9	84.7	83.4	72.0	41.9	2.5
	女性	1,406	87.1	83.9	81.7	72.1	39.2	3.6
	その他	9	88.9	88.9	88.9	66.7	33.3	11.1
年代別	29歳以下	161	91.9	89.4	78.9	73.9	54.7	0.6
	30~39歳	262	91.2	89.3	79.4	72.5	45.0	0.8
	40~49歳	400	89.0	87.0	84.8	72.3	35.3	2.3
	50~59歳	411	92.9	87.1	84.2	72.3	37.2	1.9
	60~69歳	468	89.1	81.8	82.3	73.1	35.5	3.6
	70歳以上	707	83.9	79.5	82.0	70.3	42.9	5.7

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】自転車利用時の交通ルールで知っていたものは「原則として自転車は車道の左側を走る」が88.5%、「自転車は歩道を走る時は歩行者が優先」が84.2%、「全年齢の自転車利用者が自転車乗車用ヘルメットの着用を努めなければならない」が82.3%となっている。

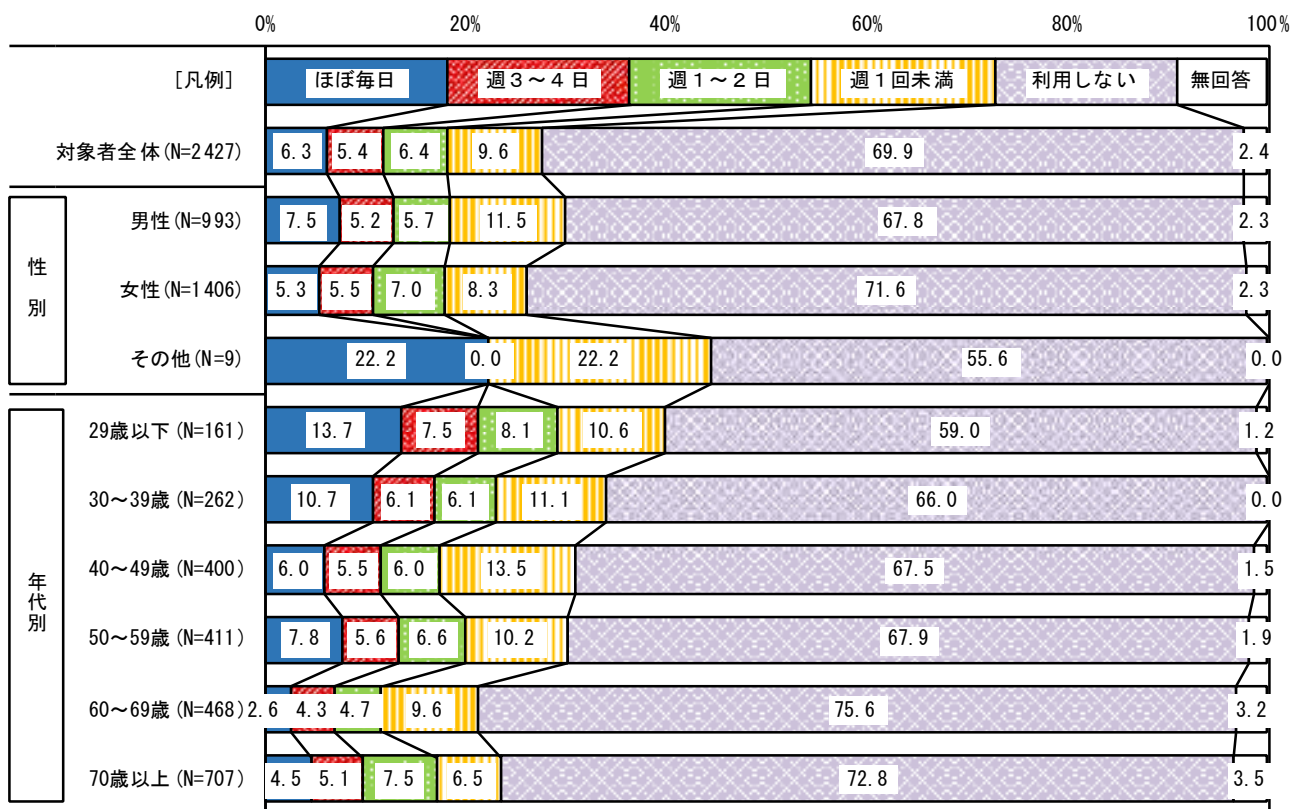
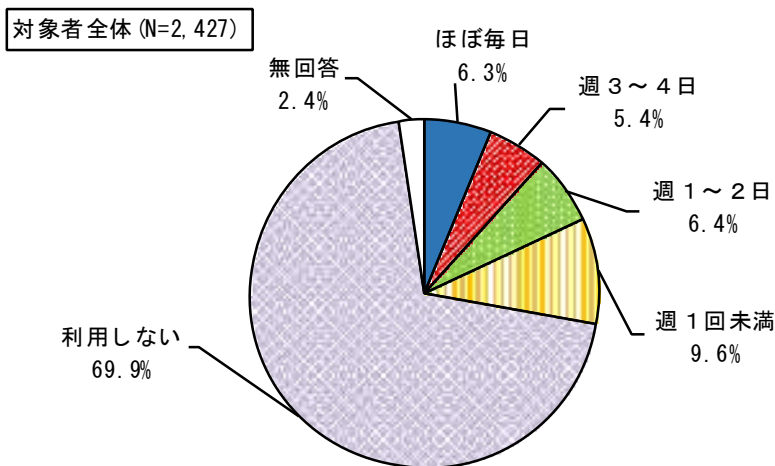
【性別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「自転車は歩道を走る時は歩道の車道側を走る」は29歳以下（54.7%）で最も高く、最も低い40歳代（35.3%）と比べると19.4ポイントの差となっている。

◇自転車を利用する頻度

問2 あなたが自転車を利用する頻度はどのくらいですか。夏期（4月～10月）の状況について、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

自転車を利用する頻度は「利用しない」が69.9%



【全体】 自転車を利用する頻度は「利用しない」が69.9%、「週1回未満」が9.6%、「週1～2日」が6.4%となっている。

【性別】 男女で大きな差は見られない。

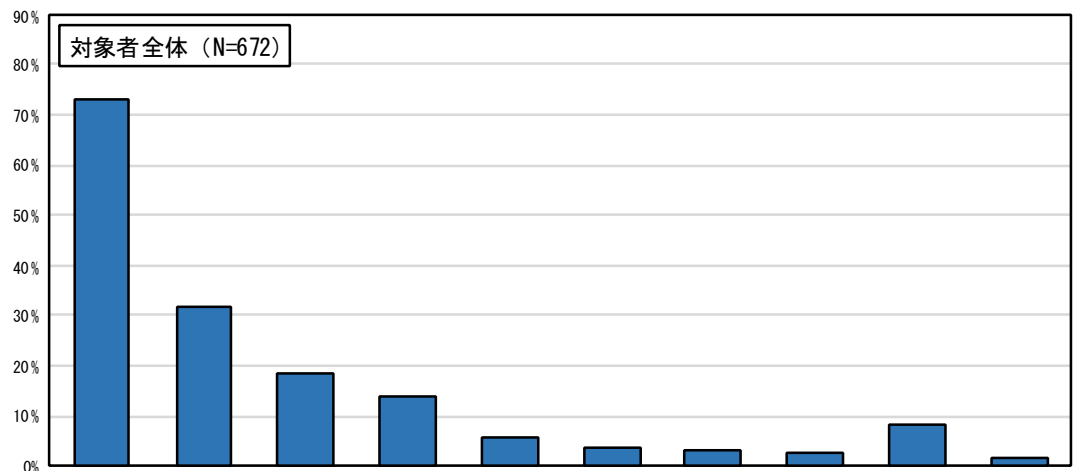
【年代別】 「ほぼ毎日」が29歳以下（13.7%）で最も高く、最も低い60歳代（2.6%）と比べると11.1ポイントの差となっている。

◇自転車の利用目的

《問2で「1～4」のいずれかに○をつけた方にお聞きします。》

問3 あなたの自転車の利用目的について、あてはまるものにもいくつでも○をつけてください。

自転車の利用目的は「買い物」が72.9%



		対象者数	買い物	通勤	レジャー	通院	習い事	仕事・業務	通学	送迎	その他	無回答
		(%)										
対象者全体		672	72.9	31.7	18.2	14.0	5.7	3.7	2.8	2.7	8.0	1.6
性別	男性	297	65.7	33.0	24.2	11.4	3.0	4.4	3.7	0.3	8.8	0.3
	女性	367	78.7	30.8	12.8	15.8	7.4	3.0	2.2	4.6	7.1	2.7
	その他	4	100.0	-	50.0	50.0	25.0	-	-	-	25.0	-
年代別	29歳以下	64	64.1	45.3	14.1	6.3	4.7	4.7	23.4	-	4.7	-
	30～39歳	89	70.8	49.4	20.2	10.1	4.5	3.4	1.1	11.2	1.1	-
	40～49歳	124	66.1	37.1	24.2	7.3	5.6	1.6	1.6	6.5	4.8	1.6
	50～59歳	124	71.8	45.2	16.1	12.9	2.4	3.2	-	-	6.5	3.2
	60～69歳	99	75.8	28.3	16.2	9.1	6.1	4.0	-	-	7.1	3.0
	70歳以上	167	82.0	4.2	16.8	28.1	8.4	4.8	0.6	-	16.8	1.2

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】自転車の利用目的は「買い物」が72.9%、「通勤」が31.7%、「レジャー」が18.2%となっている。

【性別】「買い物」は女性が78.7%と、男性の65.7%より13ポイント高くなっている。また、「レジャー」は、男性が24.2%と、女性の12.8%より11.4ポイント高くなっている。

【年代別】「通院」は、70歳以上（28.1%）で最も高く、最も低い29歳以下（6.3%）と比べると21.8ポイントの差となっている。

◇自転車利用時の様子について

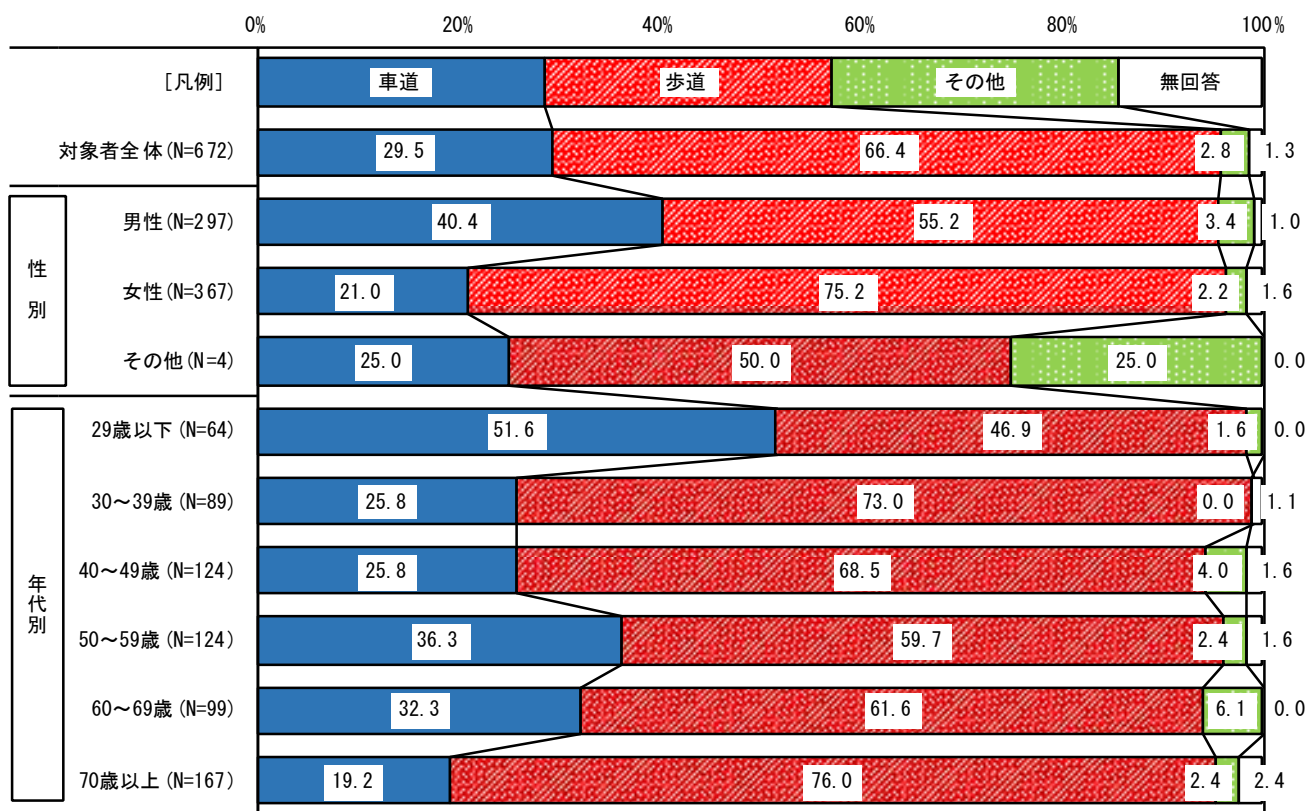
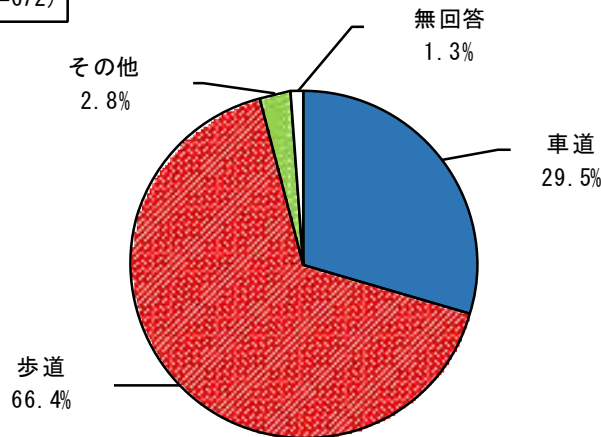
《問2で「1～4」のいずれかに○をつけた方にお聞きします。》

問4 あなたの自転車利用時の様子について、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

ア あなたが自転車利用時に、原則として走行する場所

自転車利用時に、原則として走行する場所は「歩道」が66.4%

対象者全体 (N=672)



【全体】自転車利用時に、原則として走行する場所は、「車道」が29.5%、「歩道」が66.4%となっている。

【性別】「車道」は、男性が40.4%と、女性の21.0%より19.4ポイント高くなっている。一方で、「歩道」は、女性が75.2%と、男性の55.2%より20.0ポイント高くなっている。

【年代別】29歳以下では「車道」が、30歳以上では「歩道」が最も高くなっている。

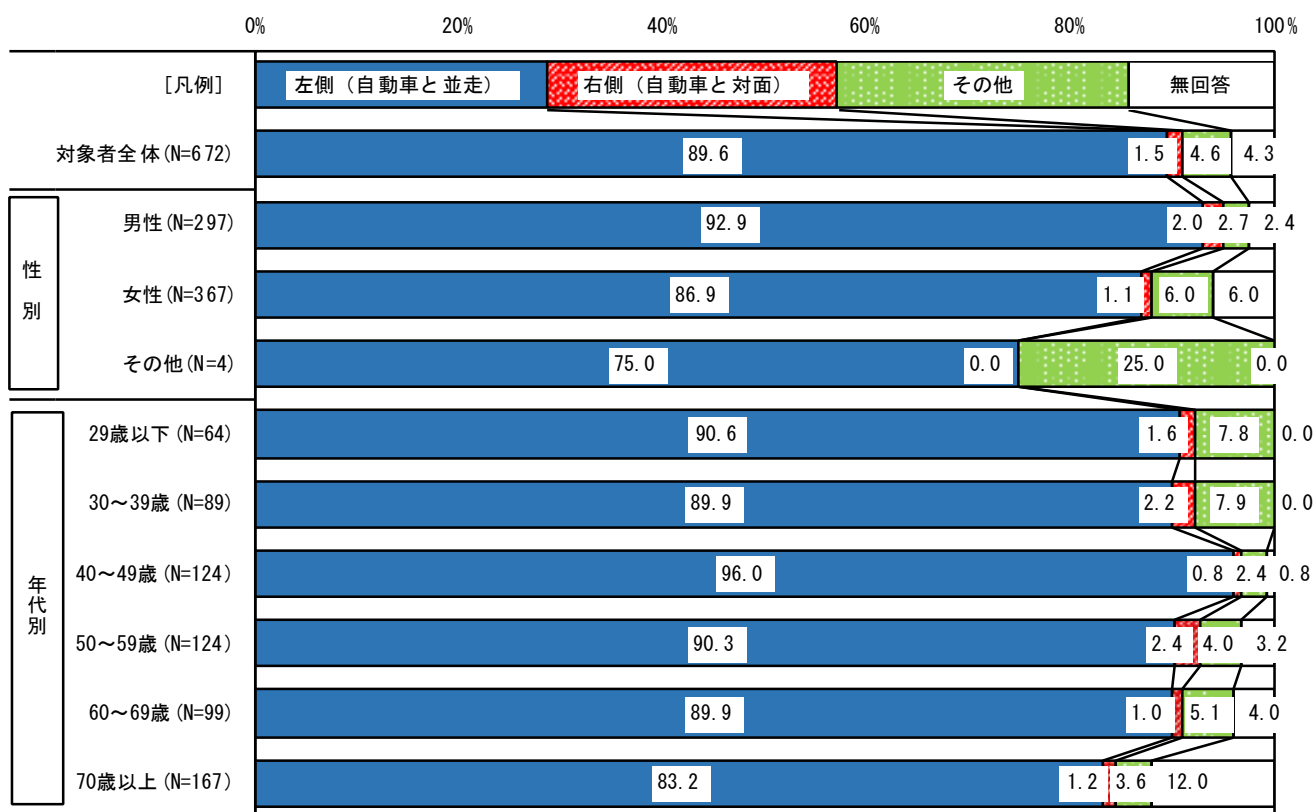
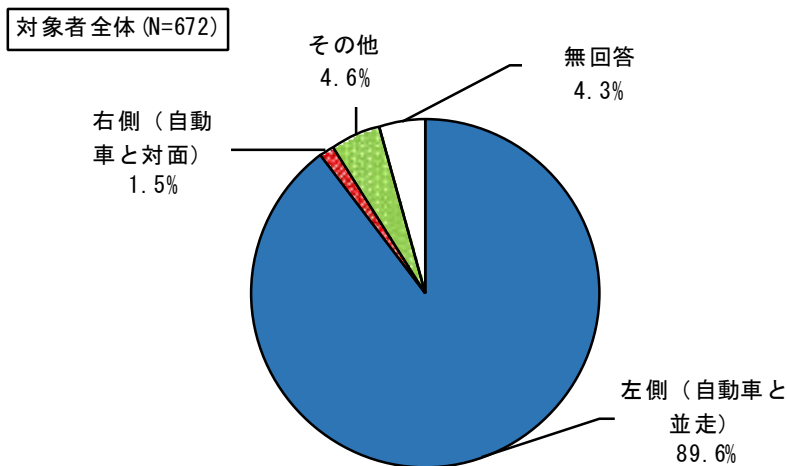
◇自転車利用時の様子について

《問2で「1～4」のいずれかに○をつけた方にお聞きします。》

問4 あなたの自転車利用時の様子について、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

イ あなたが自転車で車道を走る時の走行位置

自転車で車道を走る時の走行位置は「左側（自動車と並走）」が 89.6%



【全体】自転車で車道を走る時の走行位置は、「左側（自動車と並走）」が 89.6%、「右側（自動車と対面）」が 1.5%となっている。

【性別】「左側（自動車と並走）」は、男性が 92.9%と、女性の 86.9%より 6.0ポイント高くなっている。

【年代別】「左側（自動車と並走）」が 40歳代（96.0%）で最も高く、次いで 29歳以下（90.6%）、50歳代（90.3%）となっている。

◇自転車利用時の様子について

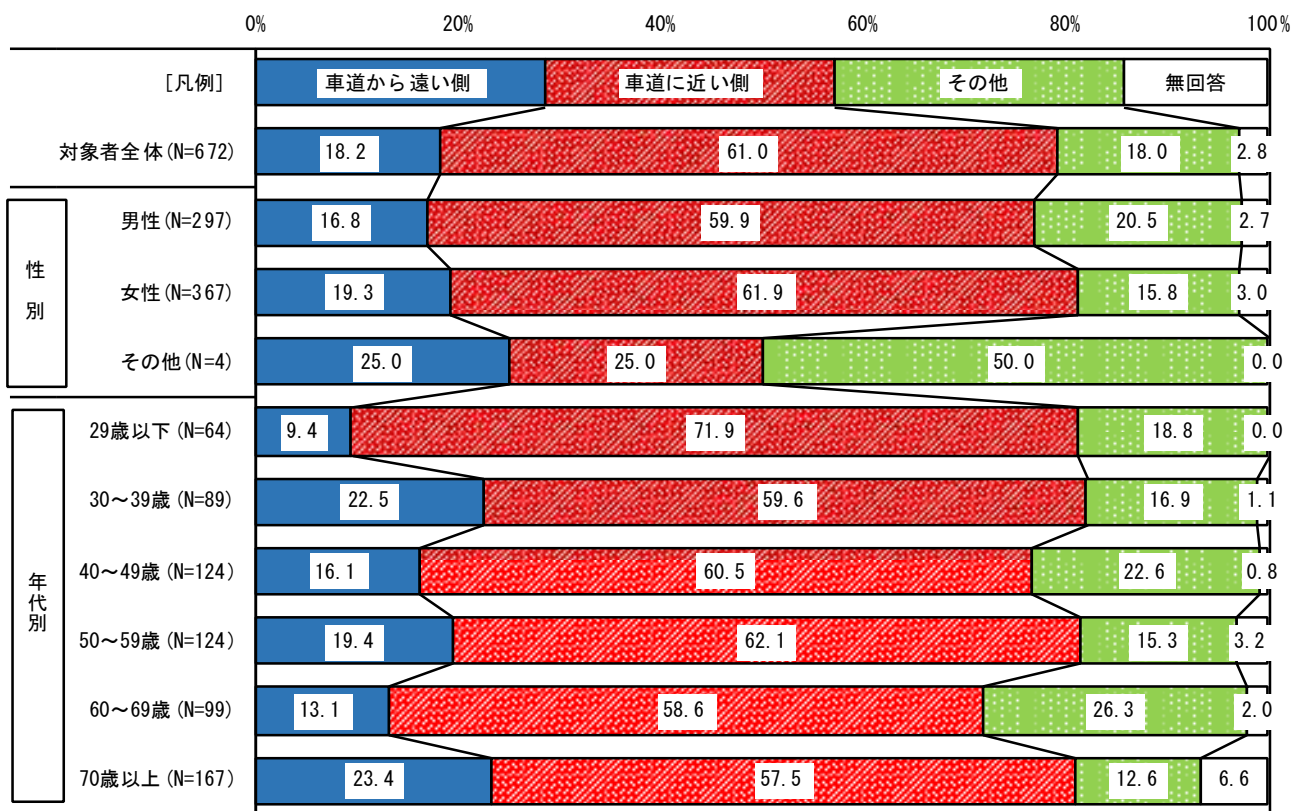
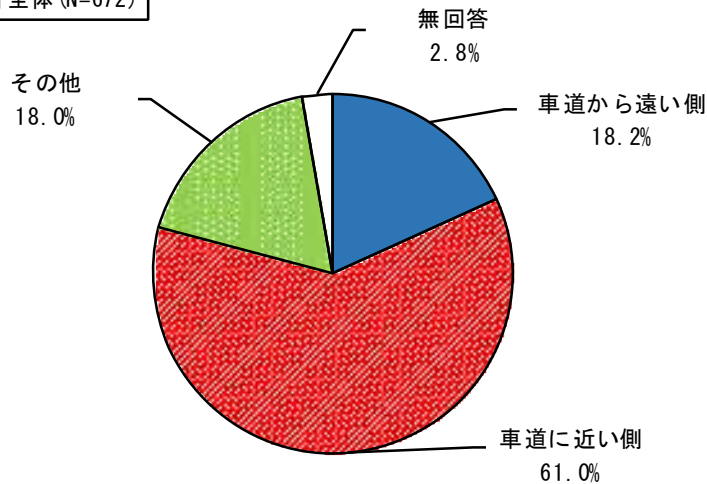
《問2で「1～4」のいずれかに○をつけた方にお聞きします。》

問4 あなたの自転車利用時の様子について、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

ウ あなたが自転車で歩道を走る時の走行位置

自転車で歩道を走る時の走行位置は「車道に近い側」が61.0%

対象者全体 (N=672)



【全体】自転車で車道を走る時の走行位置は、「車道に近い側」が61.0%、「車道から遠い側」が18.2%となっている。

【性別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「車道に近い側」が29歳以下（71.9%）で最も高く、次いで50歳代（62.1%）、40歳代（60.5%）となっている。

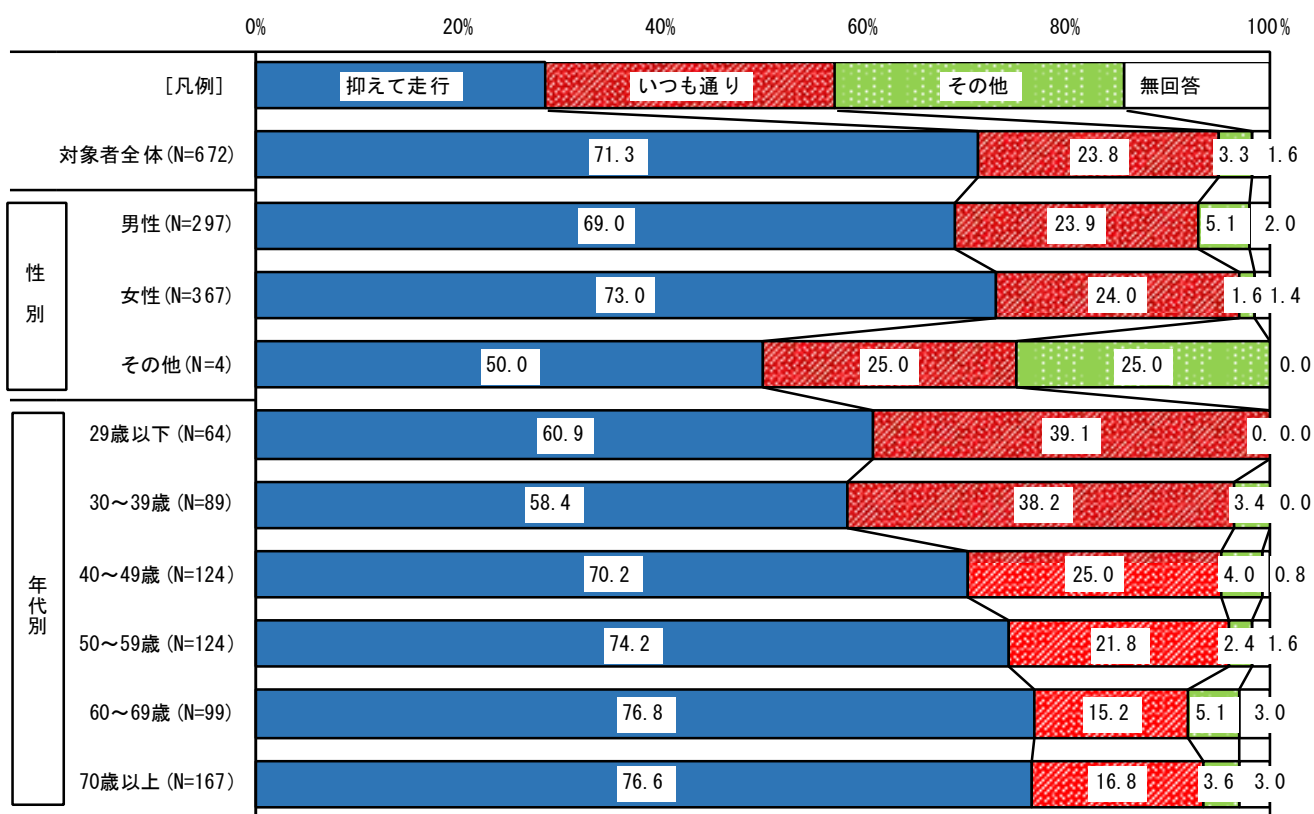
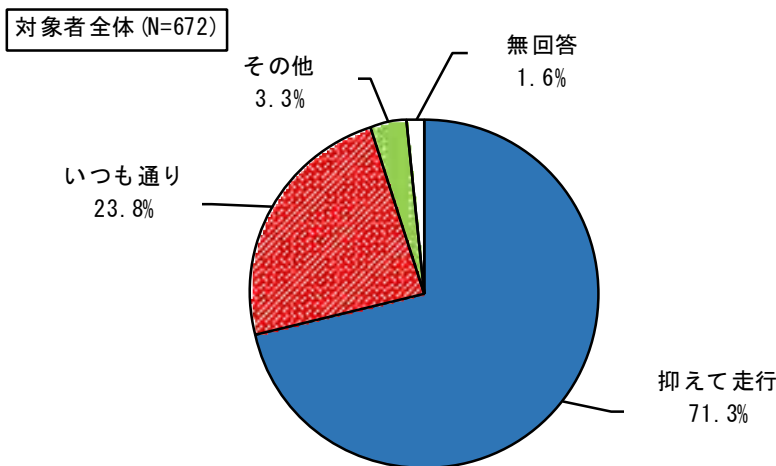
◇自転車利用時の様子について

《問2で「1～4」のいずれかに○をつけた方にお聞きします。》

問4 あなたの自転車利用時の様子について、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

エ あなたが自転車で歩道を走る時のスピード

自転車で歩道を走る時のスピードは「抑えて走行」が71.3%



【全体】自転車で歩道を走る時のスピードは、「抑えて走行」が71.3%、「いつも通り」が23.8%となっている。

【性別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「抑えて走行」が60歳代(76.8%)で最も高く、次いで70歳以上(76.6%)、50歳代(74.2%)となっている。

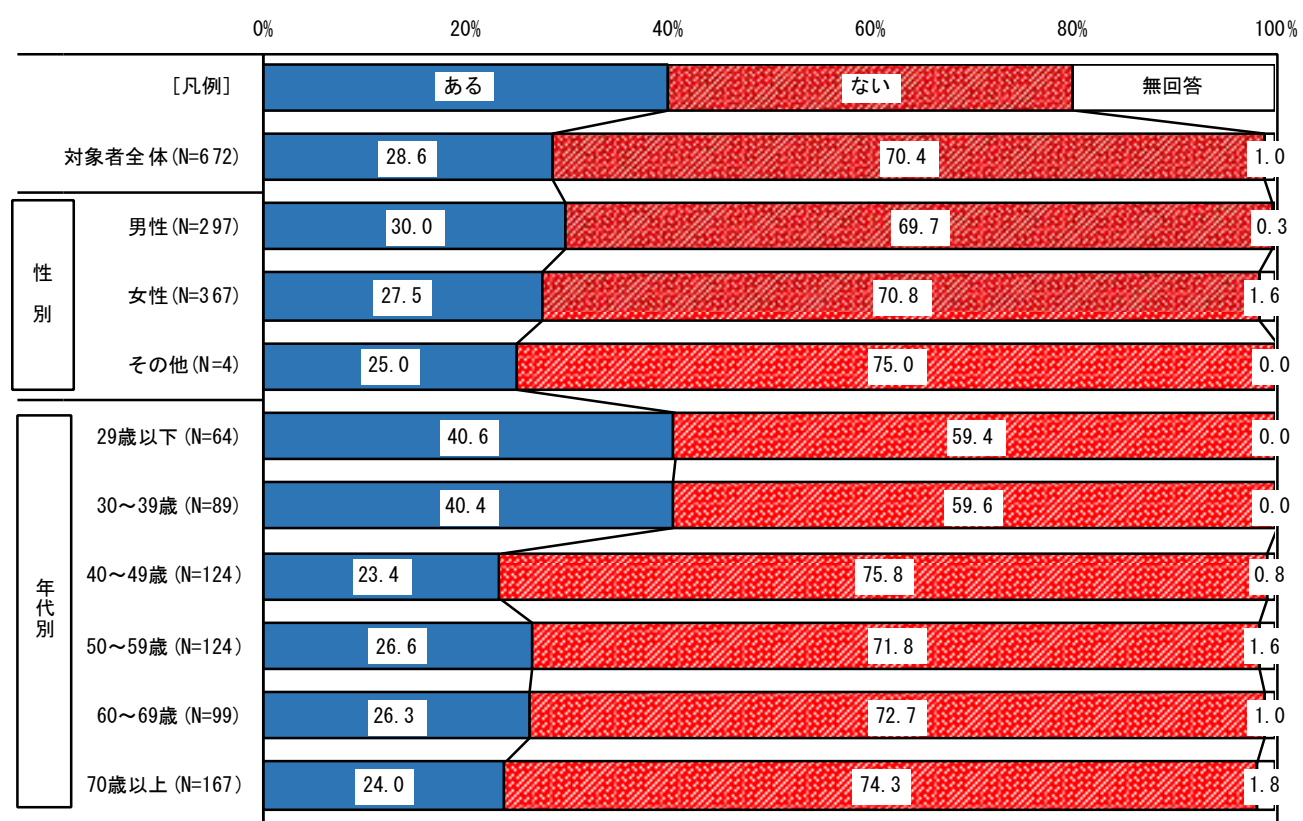
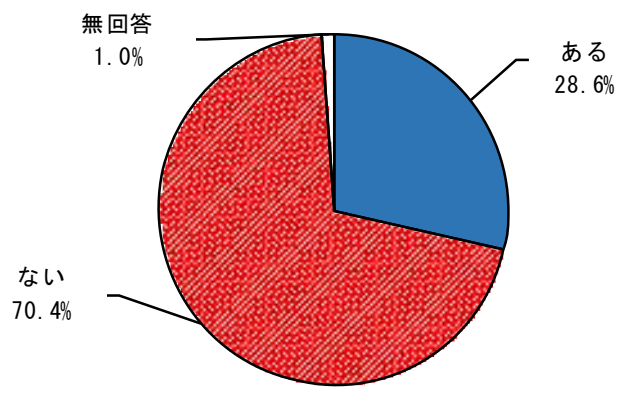
◇自転車利用中の歩行者との接触経験の有無

《問2で「1～4」のいずれかに○をつけた方にお聞きします。》

問5 あなたは、自転車の利用中に歩行者と接触したり、接触しそうになったことがありますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

自転車の利用中に歩行者と接触したり、接触しそうになったことが「ある」が28.6%

対象者全体 (N=672)



【全 体】 自転車の利用中に歩行者と接触したり、接触しそうになったことが「ある」が28.6%、「ない」が70.4%となっている。

【性 別】 男女で大きな差は見られない。

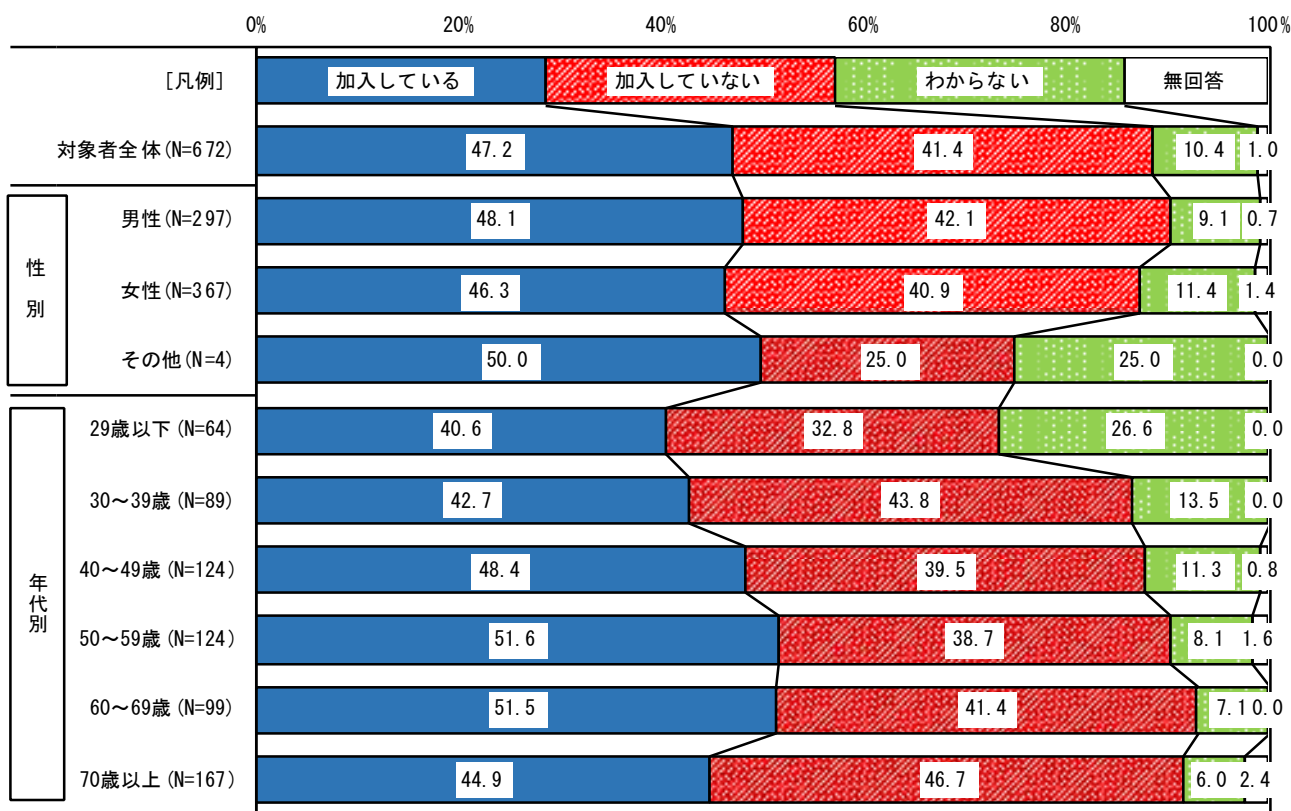
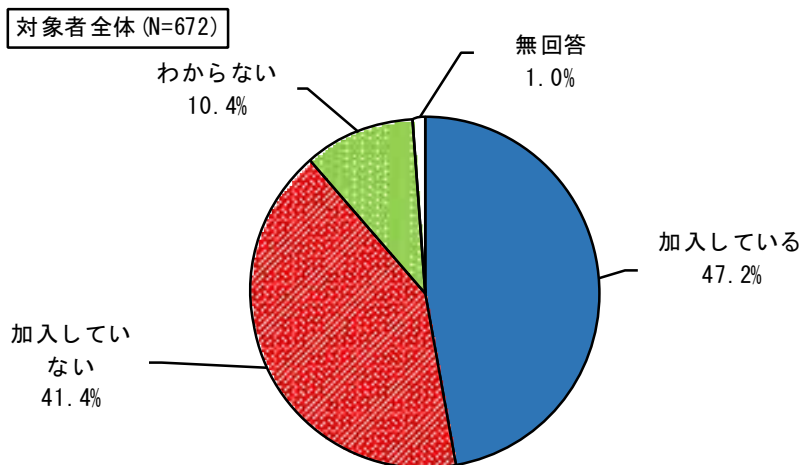
【年代別】 「ある」が29歳以下(40.6%)で最も高く、次いで30歳代(40.4%)、50歳代(26.6%)となっている。

◇自転車損害賠償保険の加入の有無

《問2で「1～4」のいずれかに○をつけた方にお聞きます。》

問6 あなたは自転車損害賠償保険（他の保険に付帯されているものも含む）に加入していますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

自転車損害賠償保険の加入の有無は「加入している」が47.2%



【全体】自転車損害賠償保険の加入の有無は、「加入している」が47.2%、「加入していない」が41.4%となっている。

【性別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「加入している」が50歳代(51.6%)で最も高く、次いで60歳代(51.5%)、40歳代(48.4%)となっている。

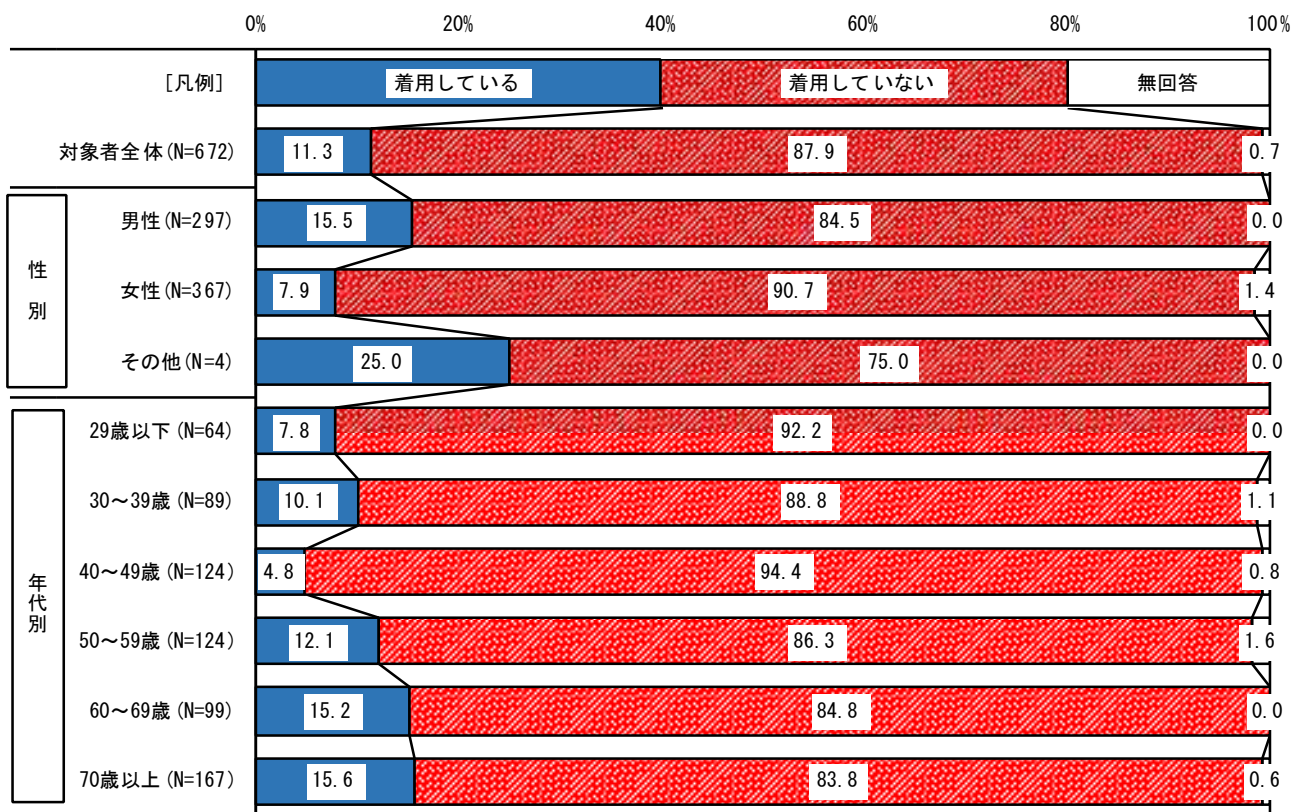
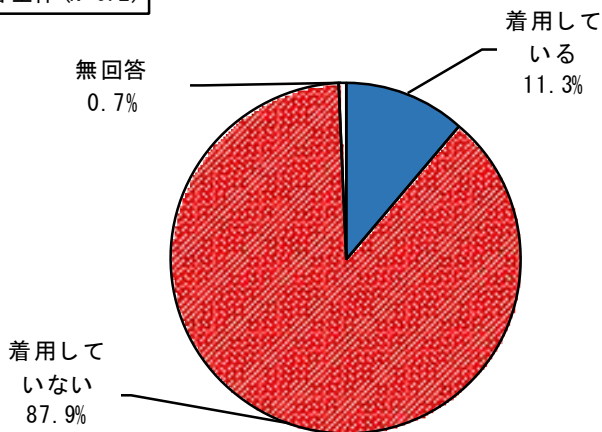
◇自転車利用時のヘルメットの着用の有無

《問2で「1～4」のいずれかに○をつけた方にお聞きします。》

問7 あなたは、自転車の利用時にヘルメットを着用していますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

自転車利用時のヘルメットの着用の有無は「着用している」が11.3%

対象者全体 (N=672)



【全体】ヘルメットの着用の有無は「着用している」が11.3%、「着用していない」が87.9%となっている。

【性別】「着用している」は男性が15.5%と、女性の7.9%より7.6ポイント高くなっている。

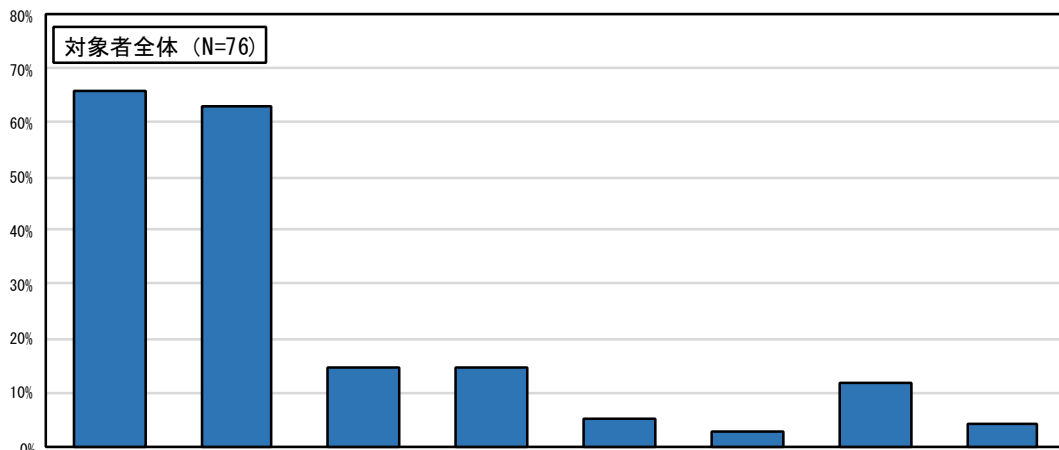
【年代別】「着用している」は70歳以上(15.6%)で最も高く、最も低い40～49歳(4.8%)と比べると10.8ポイントの差となっている。

◇自転車利用時にヘルメットを着用する理由

《問7で「1 着用している」と答えた方にお聞きします。》

問7-1 あなたがヘルメットを着用している理由としてあてはまるものにいくつでも○をつけてください。

自転車利用時にヘルメットを着用する理由は「着用が努力義務化されたため」が65.8%



対象者数		着用が努力義務化されたため	交通事故の被害を軽減させるため	テレビや新聞で話題になったため	子どもの見本になるため	学校・会社等から指示されたため	なんとなく	その他	無回答	
		(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	
対象者全体		76	65.8	63.2	14.5	14.5	5.3	2.6	11.8	3.9
性別	男性	46	65.2	69.6	13.0	15.2	6.5	2.2	13.0	4.3
	女性	29	69.0	55.2	17.2	13.8	3.4	3.4	6.9	3.4
	その他	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-
年代別	29歳以下	5	60.0	60.0	20.0	20.0	20.0	20.0	-	-
	30~39 歳	9	55.6	44.4	11.1	22.2	-	-	11.1	22.2
	40~49 歳	6	66.7	33.3	16.7	-	-	-	16.7	16.7
	50~59 歳	15	46.7	93.3	20.0	20.0	6.7	-	20.0	-
	60~69 歳	15	86.7	53.3	13.3	20.0	-	-	6.7	-
	70 歳以上	26	69.2	65.4	11.5	7.7	7.7	3.8	11.5	-

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】 ヘルメット着用理由は、「着用が努力義務化されたため」が65.8%、「交通事故の被害を軽減させるため」が63.2%、「テレビや新聞で話題になったため」及び「子どもの見本になるため」が14.5%となっている。

【性別】 「交通事故の被害を軽減させるため」は、男性が69.6%と、女性の55.2%より14.4ポイント高くなっている。

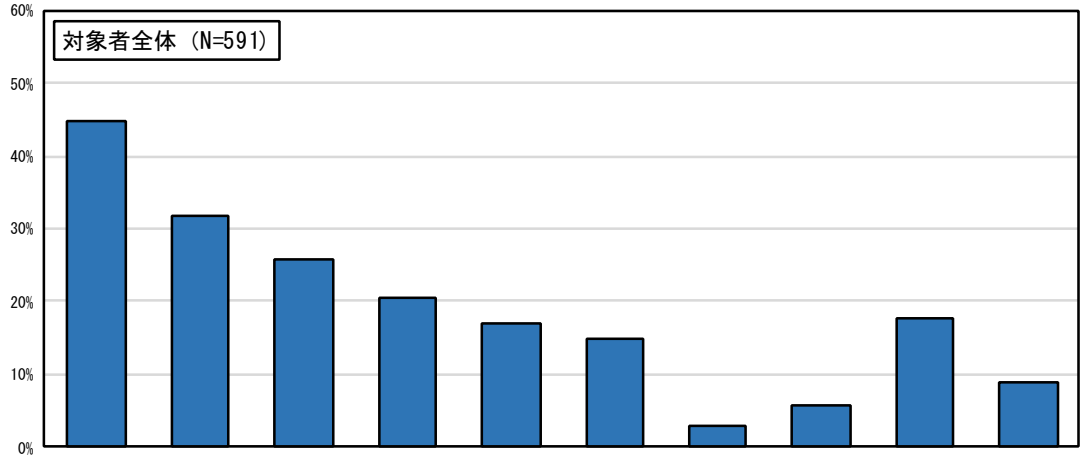
【年代別】 「着用が努力義務化されたため」が60歳代(86.7%)で最も高く、最も低い50歳代(46.7%)と比べると40.0ポイントの差となっている。

◇自転車利用時にヘルメットを着用しない理由

《問7で「2 着用していない」と答えた方にお聞きします。》

問7-2 あなたがヘルメットを着用していない理由としてあてはまるものにいくつでも○をつけてください。

自転車利用時にヘルメットを着用しない理由は「持ち歩くのが面倒なため」が44.7%



		対象者数	持ち歩くのが面倒なため	販売価格が高いため	頭髪が乱れるため	必要性を感じないため	周りの人が着用していないため	気に入ったデザインがないため	着用の努力義務化を知らなかったため	なんとなく	その他	無回答
		(%)										
対象者全体		591	44.7	32.0	25.7	20.5	17.1	14.7	2.9	5.8	17.8	8.8
性別	男性	251	43.0	27.1	20.7	29.5	12.4	9.6	2.4	5.2	18.3	10.4
	女性	333	45.9	35.7	29.7	14.1	20.7	18.6	3.3	6.3	17.1	7.5
	その他	3	33.3	66.7	-	-	33.3	-	-	-	33.3	-
年代別	29歳以下	59	59.3	28.8	44.1	25.4	27.1	8.5	8.5	3.4	13.6	5.1
	30~39歳	79	48.1	30.4	27.8	26.6	19.0	12.7	5.1	6.3	8.9	3.8
	40~49歳	117	50.4	33.3	32.5	18.8	22.2	15.4	0.9	9.4	10.3	8.5
	50~59歳	107	44.9	35.5	30.8	19.6	13.1	15.0	4.7	3.7	17.8	12.1
	60~69歳	84	56.0	31.0	21.4	20.2	14.3	16.7	1.2	2.4	21.4	7.1
	70歳以上	140	24.3	31.4	9.3	17.9	12.9	16.4	0.7	7.1	28.6	11.4

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】 ヘルメットを着用しない理由は、「持ち歩くのが面倒なため」が44.7%、「販売価格が高いため」が32.0%、「頭髪が乱れるため」が25.7%となっている。

【性別】 「販売価格が高いため」、「頭髪が乱れるため」、「周りの人が着用していないため」、「気に入ったデザインがないため」は、女性が男性より8.3ポイント以上高くなっている。一方、「必要性を感じないため」は、男性が女性より15.4ポイント高くなっている。

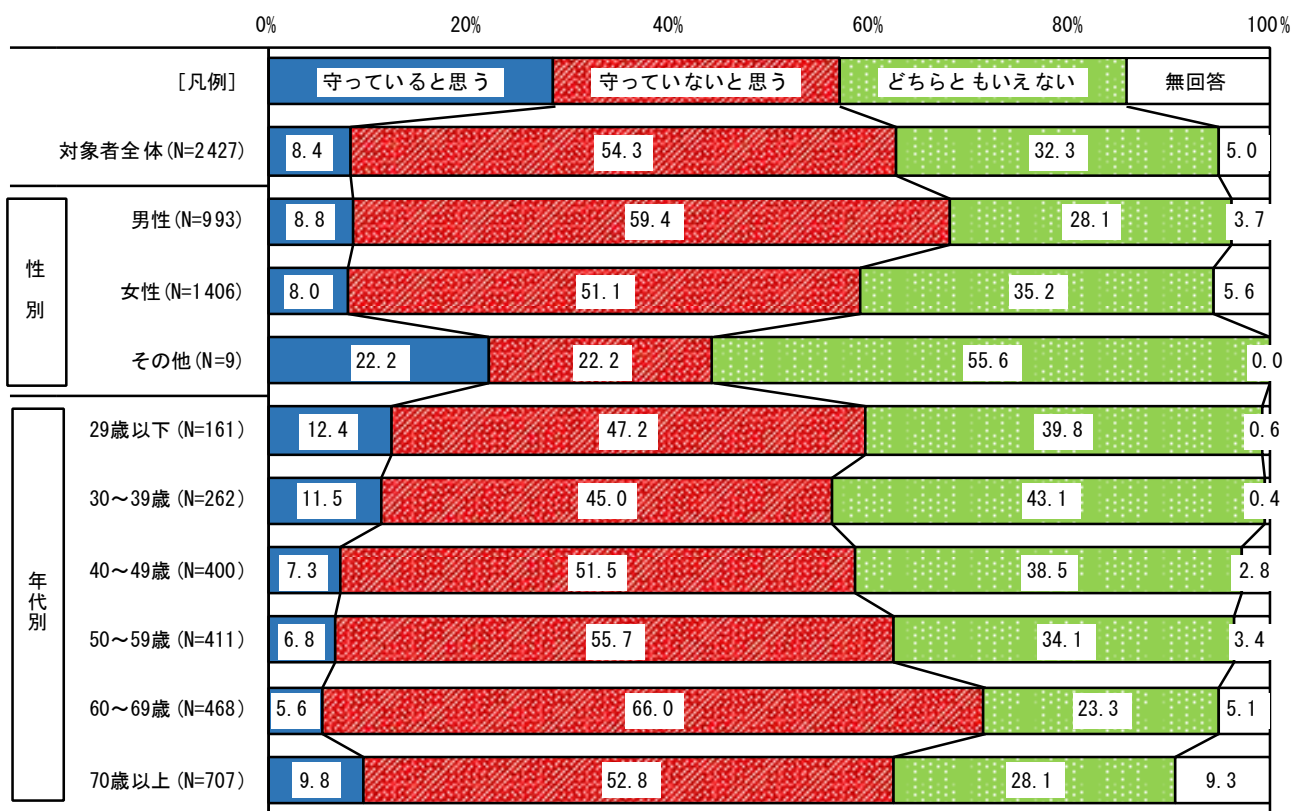
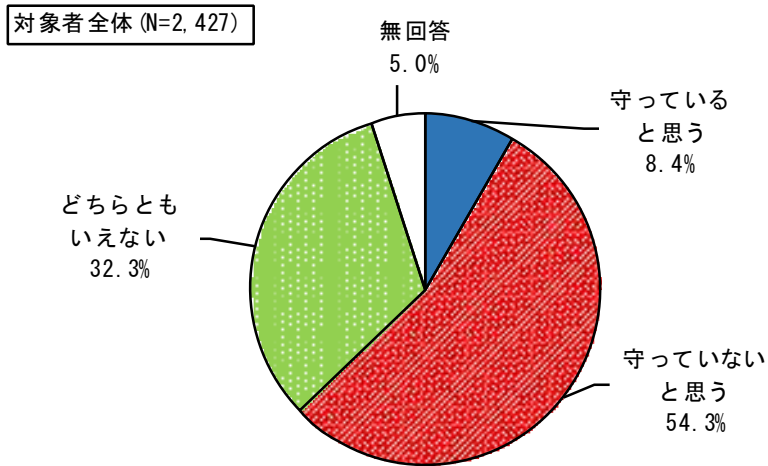
【年代別】 「持ち歩くのが面倒なため」が29歳以下(59.3%)で最も高く、最も低い70歳以上(24.3%)と比べると35.0ポイントの差となっている。

◇自転車利用者のルール遵守

《全員にお聞きします。》

問8 あなたは、札幌市内を走行する自転車利用者は交通ルールを守っていると思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

自転車利用者のルール遵守については「守っていないと思う」が54.3%



【全体】 自転車利用者のルール遵守については、「守っていないと思う」が54.3%、「どちらともいえない」が32.3%、「守っていると思う」が8.4%となっている。

【性別】 「守っていないと思う」は、男性が59.4%と、女性の51.1%より8.3ポイント高くなっている。また、「どちらともいえない」は、女性が35.2%と、男性の28.1%より7.1ポイント高くなっている。

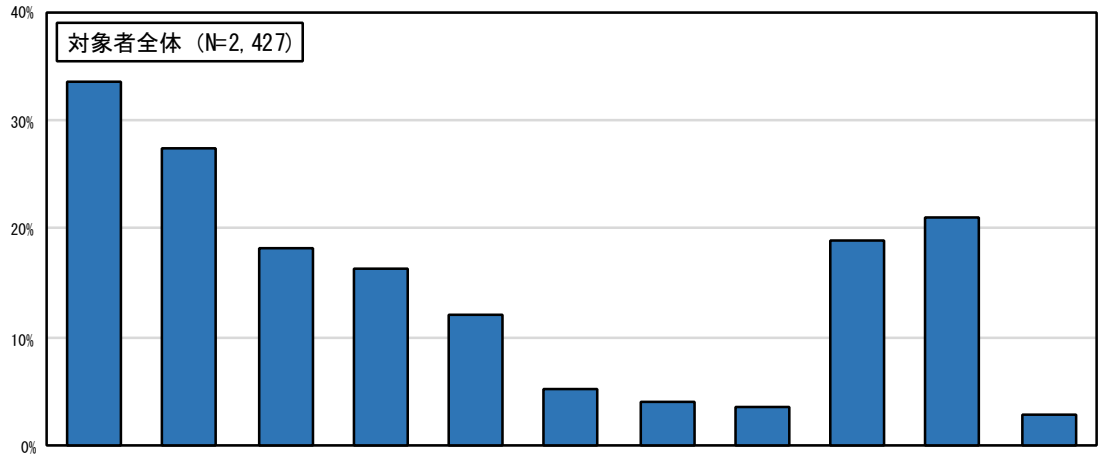
【年代別】 「守っていると思う」が29歳以下(12.4%)で最も高く、次いで30歳代(11.5%)、70歳以上(9.8%)となっている。

(2) 応急手当について

◇ 応急手当を学んだ方法

問9 あなたは、これまでに、どのような方法で応急手当を学んだことがありますか。あてはまるものについて、いくつでも○をつけてください。

応急手当を学んだ方法は「**運転免許教習の応急救護講習**」が**33.5%**



対象者数 (%)		運転免許教習の応急救護講習	職場での研修	小・中学校及び高等学校の授業	消防局が行っている応急手当講習	医療・介護・福祉に関する資格取得時	応急手当WEB講習や関連動画の視聴	日本赤十字社が行っている救急法などの講習	その他	学んだことはあるが、方法は覚えていない	学んだことはない	無回答	
対象者全体		2,427	33.5	27.3	18.1	16.4	12.1	5.2	4.2	3.6	19.0	21.1	2.9
性別	男性	993	33.8	31.7	14.7	16.8	6.6	4.5	4.0	3.8	17.0	19.9	2.6
	女性	1,406	33.3	24.5	20.7	16.1	16.1	5.7	4.3	3.5	20.4	21.8	2.6
	その他	9	22.2	11.1	22.2	-	-	-	11.1	11.1	-	33.3	-
年代別	29歳以下	161	68.9	25.5	72.0	5.6	22.4	4.3	1.2	3.1	9.9	3.1	1.9
	30~39歳	262	72.1	38.9	42.7	9.5	20.2	3.4	5.3	1.5	17.2	4.6	0.4
	40~49歳	400	60.3	33.8	23.0	15.3	15.8	3.0	2.5	3.8	22.8	7.0	1.3
	50~59歳	411	30.4	29.9	12.7	19.5	11.9	4.4	5.8	6.8	18.5	19.5	1.5
	60~69歳	468	16.5	31.8	8.5	22.0	9.8	3.2	4.9	5.3	19.4	23.3	1.9
	70歳以上	707	8.8	15.4	3.7	16.4	6.5	3.8	4.0	6.8	19.4	38.9	5.7

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】 応急手当を学んだ方法は、「**運転免許教習の応急救護講習**」が**33.5%**、「**職場での研修**」が**27.3%**、「**小・中学校及び高等学校の授業**」が**18.1%**となっている。

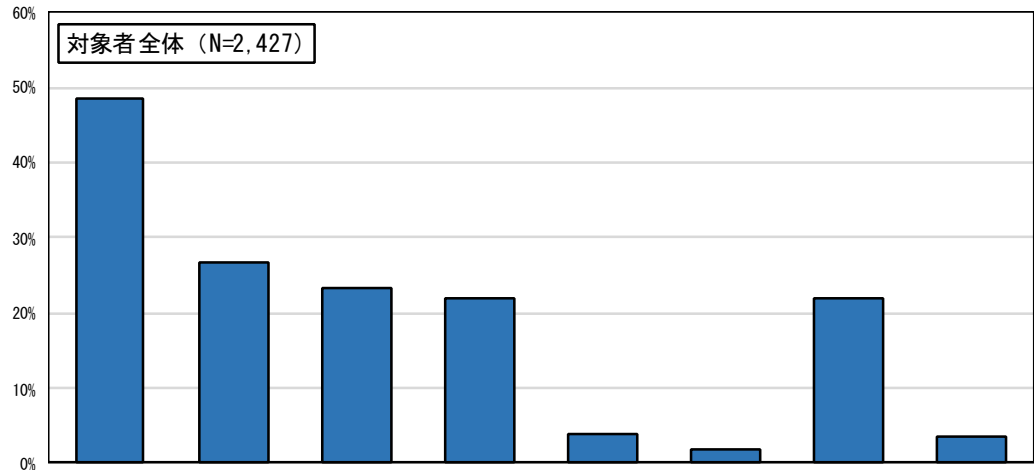
【性別】 「**職場での研修**」は、男性が**31.7%**と、女性の**24.5%**より**7.2**ポイント高くなっている。また、「**小・中学校及び高等学校の授業**」、「**医療・介護・福祉に関する資格取得時**」は、女性が男性より**6.0**ポイント以上高くなっている。

【年代別】 「**小・中学校及び高等学校の授業**」、「**医療・介護・福祉に関する資格取得時**」は年代が下がるにつれて割合が高くなっている。

◇受けてみたい応急手当の講習

問10 あなたが、これから消防局が行う応急手当講習を受けるとしたら、どのような講習を受けてみたいと思いますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

受けてみたい応急手当の講習は「救命入門コース(45分間で胸骨圧迫・AEDの使い方を学ぶ短時間講習)」が48.5%



対象者数 (%)		救命入門コース(45分間で胸骨圧迫・AEDの使い方を学ぶ短時間講習)	普通救命講習 I (成人に対する応急手当を学ぶ3時間の講習)	普通救命講習 III (小児・乳幼児に対する応急手当を学ぶ3時間の講習)	応急手当WEB講習 (パソコンやスマートフォンなどで動画を見ながら学べるコンテンツ)	講習システムをつかった非対面式のZOOMなどのWEB会議	その他	特に受けてみたい講習はない	無回答	
対象者全体		2,427	48.5	26.9	23.3	22.0	3.9	1.8	22.0	3.7
性別	男性	933	48.8	27.0	20.1	22.4	4.7	1.2	24.8	2.1
	女性	1,406	48.5	26.8	25.6	21.8	3.3	2.0	20.1	4.6
	その他	9	33.3	44.4	44.4	11.1	-	-	33.3	-
年代別	29歳以下	161	42.9	35.4	37.3	28.0	7.5	0.6	19.3	1.9
	30~39歳	262	50.4	29.4	42.7	32.4	6.5	0.4	15.6	1.1
	40~49歳	400	55.8	33.0	34.8	27.8	5.0	1.0	14.3	2.0
	50~59歳	411	54.7	31.6	22.6	27.0	4.9	1.7	16.5	1.5
	60~69歳	468	51.1	27.8	19.7	21.4	3.2	0.9	21.2	1.5
	70歳以上	707	39.7	17.4	9.6	10.9	1.4	3.3	33.5	8.3

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】受けてみたい応急手当の講習は、「救命入門コース(45分間で胸骨圧迫・AEDの使い方を学ぶ短時間講習)」が48.5%、「普通救命講習 I (成人に対する応急手当を学ぶ3時間の講習)」が26.9%、「普通救命講習 III (小児・乳幼児に対する応急手当を学ぶ3時間の講習)」が23.3%となっている。

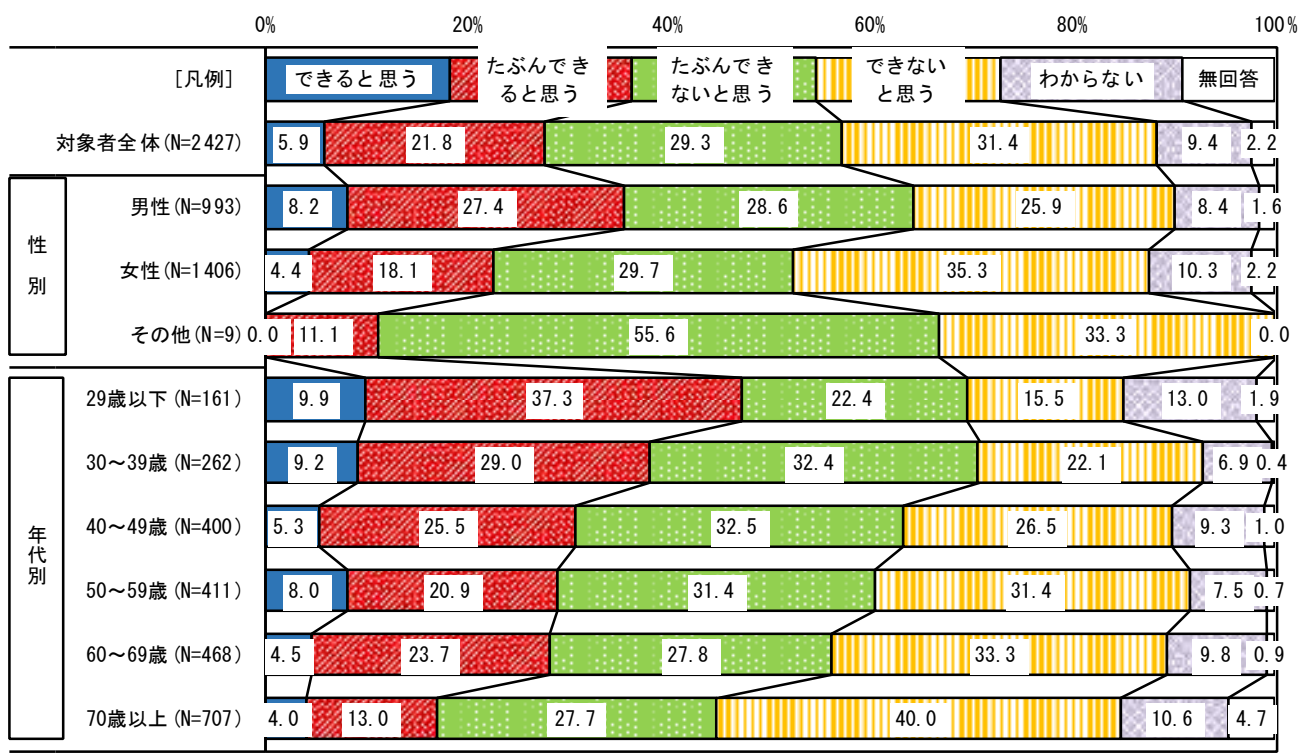
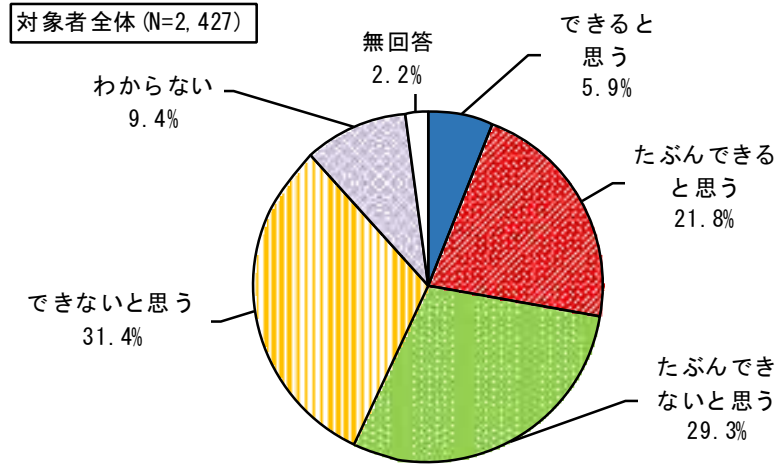
【性別】「普通救命講習 III (小児・乳幼児に対する応急手当を学ぶ3時間の講習)」は、女性が25.6%と、男性の20.1%より5.5ポイント高くなっている。

【年代別】「応急手当WEB講習(パソコンやスマートフォンなどで動画を見ながら学べるコンテンツ)」が30歳代(32.4%)で最も高く、最も低い70歳以上(10.9%)と比べると21.5ポイントの差となっている。

◇応急手当の可否

問 1 1 あなたは、外出先などの自宅外において応急手当が必要な場面に居合わせたときに、胸骨圧迫（心臓マッサージ）や、AED を使った応急手当ができると思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

応急手当の可否は「できると思う」が5.9%



【全体】 応急手当の可否は、「できると思う」が5.9%、「たぶんできると思う」が21.8%、合わせると27.7%となっている。一方で、「できないと思う」が31.4%、「たぶんできないと思う」が29.3%、合わせると60.6%となっている。

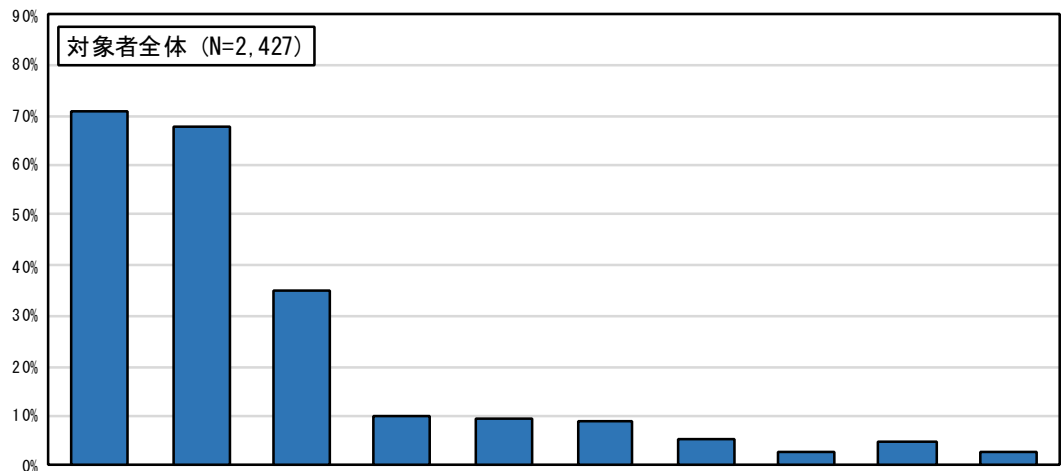
【性別】 「たぶんできると思う」は、男性が27.4%と、女性の18.1%より9.3ポイント高くなっている。また、「できないと思う」は、女性が35.3%と、男性の25.9%より9.4ポイント高くなっている。

【年代別】 「できないと思う」は年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

◇応急手当で不安に思うこと

問 1 2 あなたが、応急手当をしようとするときに、不安なことや心配に思うことは何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

応急手当で不安に思うことは「知識や技術が足りないこと」が 70.7%



		対象者数	知識や技術が足りないこと	やり方を間違えて症状を悪化させないか心配	責任を問われそうで不安	接触による感染が心配	周りの注目を集めること	他人に手を触れたくない	ストレスで自分の体調を崩さないか不安	その他	特にない	無回答
		(%)										
対象者全体		2,427	70.7	67.5	35.0	9.9	9.3	9.0	5.1	2.8	4.7	2.6
性別	男性	993	66.5	63.1	34.9	8.0	9.3	8.3	2.8	3.3	6.6	1.9
	女性	1,406	74.1	71.0	35.3	11.4	9.2	9.5	6.7	2.4	3.4	2.4
	その他	9	66.7	55.6	33.3	-	22.2	11.1	11.1	-	-	11.1
年代別	29歳以下	19	60.2	71.4	48.4	10.6	11.2	9.3	4.3	4.3	3.7	1.9
	30~39 歳	161	64.5	74.8	48.1	12.2	9.5	11.5	4.6	2.3	7.3	0.8
	40~49 歳	262	75.0	74.8	46.5	9.5	13.0	9.8	4.0	2.5	1.8	1.3
	50~59 歳	400	67.6	76.4	40.9	12.4	12.7	11.4	4.6	2.4	5.4	0.7
	60~69 歳	411	75.9	69.9	33.1	9.6	9.2	6.8	4.1	2.1	3.4	1.3
	70 歳以上	468	71.9	53.5	18.8	7.9	4.8	7.4	7.1	3.4	6.2	5.2

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】 応急手当で不安に思うことは、「知識や技術が足りないこと」が 70.7%、「やり方を間違えて症状を悪化させないか心配」が 67.5%、「責任を問われそうで不安」が 35.0%となっている。

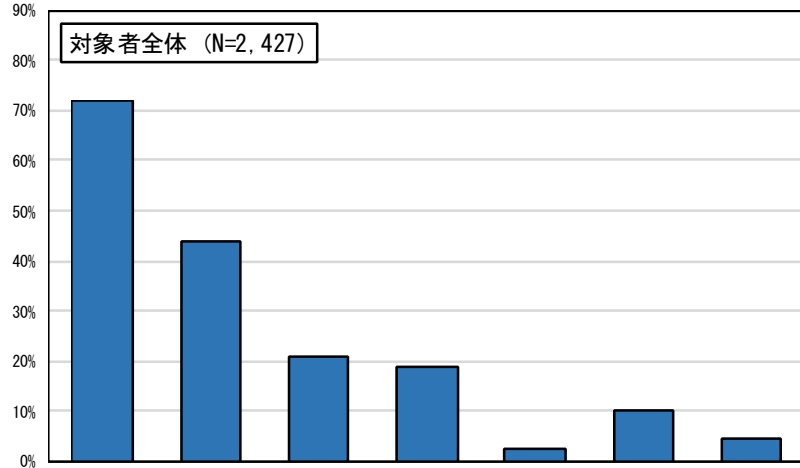
【性 別】 「知識や技術が足りないこと」、「やり方を間違えて症状を悪化させないか心配」は女性が男性より 7.6 ポイント以上高くなっている。

【年代別】 「責任を問われそうで不安」は年代が下がるにつれて割合が高くなっている。

◇応急手当をしようとする際に受けてほしいサポート

問 1 3 あなたが、応急手当をしようとする際、受けてほしいと思うサポートは何ですか。あてはまるものについて、いくつでも○をつけてください。

応急手当をしようとする際に受けてほしいサポートは「119番通報時に、消防職員から応急手当の方法を口頭で教えること」が72.3%



		対象者数	119番通報時に、消防職員から口頭で教えること (%)	119番通報時に、消防職員から近くにあるAEDの場所を口頭で教えること (%)	接触による感染が不安なときに、検査を受けられる体制があること (%)	応急手当に関わったことで起きた心身の不調を相談できる体制があること (%)	その他 (%)	特になし (%)	無回答 (%)
対象者全体		2,427	72.3	43.7	21.0	18.8	2.4	10.0	4.2
性別	男性	993	70.0	42.0	15.7	14.9	2.2	13.7	3.0
	女性	1,406	74.2	45.4	24.5	21.5	2.6	7.3	4.7
	その他	9	66.7	22.2	22.2	33.3	-	22.2	-
年代別	29歳以下	19	72.0	61.5	24.2	20.5	3.7	8.1	2.5
	30~39歳	161	85.5	56.1	25.2	18.3	0.8	4.2	1.1
	40~49歳	262	82.8	53.8	26.8	21.5	2.3	6.0	1.5
	50~59歳	400	82.0	49.6	24.3	21.9	2.2	6.3	1.7
	60~69歳	411	77.1	40.2	19.9	17.1	1.1	8.1	3.0
	70歳以上	468	53.0	29.0	14.0	16.5	3.8	18.2	8.9

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】 応急手当をしようとする際に受けてほしいサポートは、「119番通報時に、消防職員から応急手当の方法を口頭で教えること」が72.3%、「119番通報時に、消防職員から近くにあるAEDの場所を口頭で教えること」が43.7%となっている。

【性別】 「接触による感染が不安なときに、検査を受けられる体制があること」、「応急手当に関わったことで起きた心身の不調を相談できる体制があること」は、女性が男性より6.6ポイント以上高くなっている。

【年代別】 「119番通報時に、消防職員から近くにあるAEDの場所を口頭で教えること」は年代が下がるにつれて割合が高くなっている。

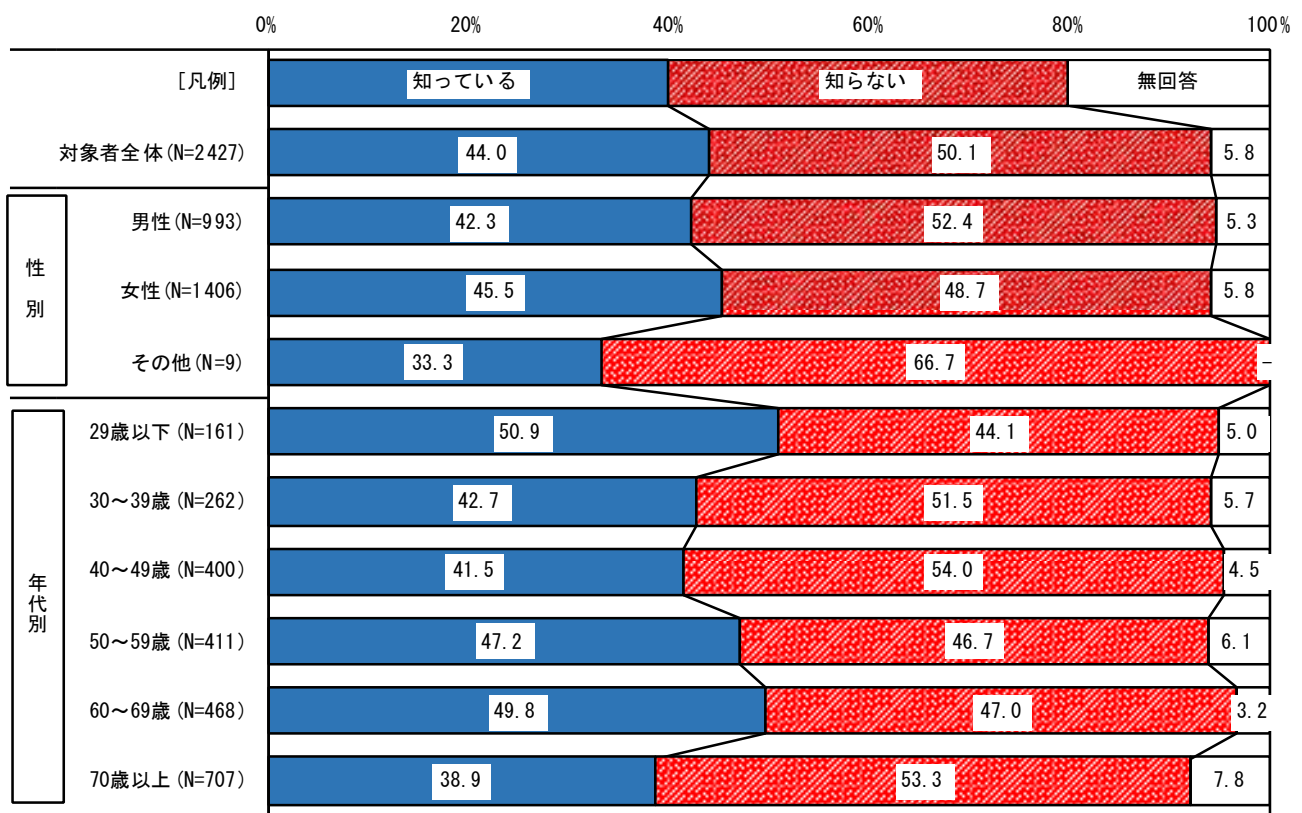
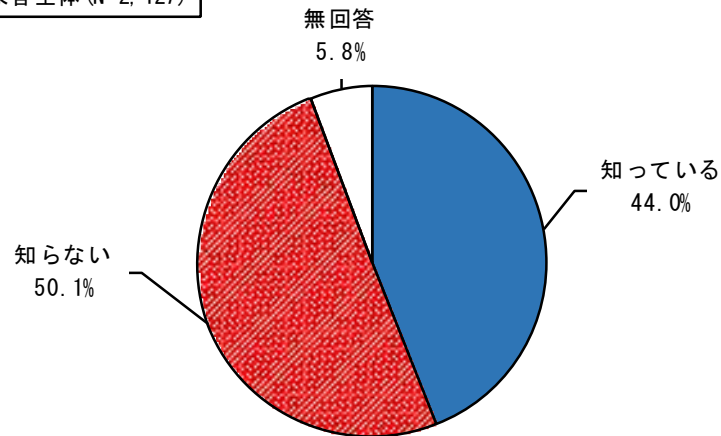
(3) 札幌市立大学について

◇札幌市立大学の認知度

問 1 4 あなたは、「札幌市立大学」を知っていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

札幌市立大学の認知度は「知っている」が44.0%

対象者全体 (N=2,427)



【全 体】札幌市立大学の認知度は、「知っている」が44%、「知らない」が50.1%となっている。

【性 別】男女で大きな差は見られない。

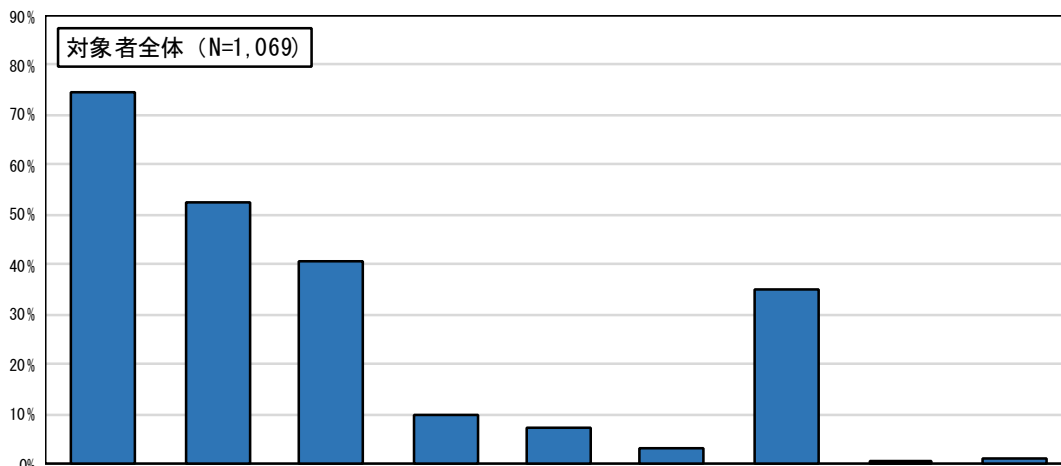
【年代別】「知っている」が29歳以下(50.9%)で最も高く、次いで60歳代(49.8%)、50歳代(47.2%)となっている。

◇札幌市立大学について知っていること

《問14で「1 知っている」と答えた方にお聞きします。》

問14-1 あなたは、札幌市立大学についてどんなことを知っていますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

札幌市立大学について知っていることは「公立大学であること」が74.6%



対象者数		公立大学であること	看護学部があること	デザイン学部があること	デザイン学部と看護学部の連携教育に力を入れていること	大学院があること	(AI・ITセンター)に関する研究を行う機関	名前は知っているが詳しくは知らない	その他	無回答	
		(%)									
対象者全体		1,069	74.6	52.4	40.7	10.0	7.5	3.0	35.2	0.6	0.9
性別	男性	420	79.0	49.0	41.2	10.0	5.2	3.8	35.0	0.5	0.5
	女性	640	71.9	54.7	40.6	10.0	8.8	2.5	35.2	0.6	1.1
	その他	3	100.0	66.7	66.7	33.3	-	-	33.3	-	-
年代別	29歳以下	82	70.7	52.4	39.0	8.5	11.0	3.7	32.9	2.4	-
	30~39歳	112	75.0	57.1	37.5	9.8	10.7	-	26.8	-	0.9
	40~49歳	166	71.1	49.4	34.3	9.6	6.0	0.6	36.7	-	0.6
	50~59歳	194	79.4	59.8	48.5	8.2	9.8	3.1	22.2	-	1.0
	60~69歳	233	79.0	55.4	47.6	11.6	6.0	3.9	31.3	0.9	0.9
	70歳以上	275	71.6	44.7	35.6	10.9	5.1	4.7	50.5	0.7	1.1

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】札幌市立大学について知っていることは、「公立大学であること」が74.6%、「看護学部があること」が52.4%、「デザイン学部があること」が40.7%となっている。

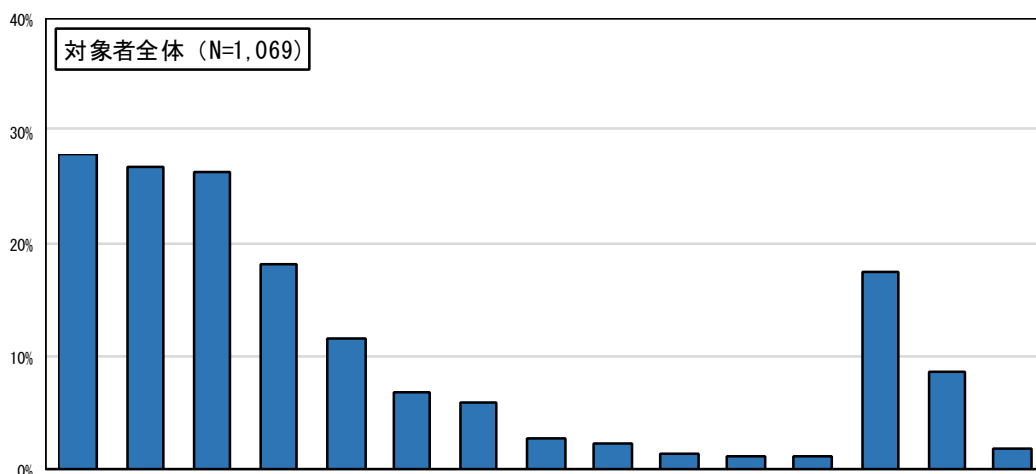
【性別】「公立大学であること」は、男性が79%と、女性の71.9%より7.1ポイント高くなっている。また、「看護学部があること」は、女性が54.7%と、男性の49.0%より5.7ポイント高くなっている。

【年代別】「デザイン学部があること」が50歳代(48.5%)で最も高く、次いで60歳代(47.6%)、29歳以下(39.0%)となっている。

◇札幌市立大学を知ったきっかけ

問 1 4 - 2 あなたは、札幌市立大学のことをどのようなことを通じて知りましたか。あてはまるものにくつでも○をつけてください。

札幌市立大学を知ったきっかけは「家族や友人、知人」が 27.8%



		対象者数	家族や友人、知人	新聞	テレビ	広報さっぽろ	インターネット	市立大学の学生	パンフレット	市立大学の教員	ラジオ	公開講座	SNS (※)	学校祭	その他	わからない	無回答
対象者全体		1,069	27.8	26.7	26.2	18.1	11.5	6.8	5.8	2.6	2.2	1.3	1.2	1.2	17.3	8.6	1.8
性別	男性	420	19.3	32.1	28.3	21.0	14.3	6.0	5.7	3.6	3.6	1.0	1.7	1.4	17.6	7.1	1.0
	女性	640	33.4	23.0	25.0	16.3	9.7	7.5	5.9	2.0	1.4	1.6	0.9	1.1	17.0	9.5	2.2
	その他	3	-	-	-	-	33.3	-	-	-	-	-	-	-	33.3	-	33.3
年代別	29歳以下	82	52.4	2.4	13.4	3.7	19.5	8.5	17.1	1.2	3.7	2.4	6.1	2.4	19.5	11.0	1.2
	30~39 歳	112	25.9	7.1	16.1	3.6	20.5	9.8	8.9	3.6	-	-	0.9	0.9	18.8	14.3	1.8
	40~49 歳	166	26.5	10.2	21.1	9.0	17.5	6.0	3.6	3.0	0.6	1.8	2.4	1.2	18.7	15.1	1.2
	50~59 歳	194	34.0	23.7	24.7	13.4	14.9	6.7	6.2	3.1	4.1	2.6	0.5	0.5	17.5	10.8	1.5
	60~69 歳	233	26.2	32.6	32.2	22.3	6.4	7.3	3.9	3.0	0.4	-	0.4	1.3	18.0	6.0	1.3
	70 歳以上	275	18.5	48.7	33.5	33.5	3.6	5.5	4.0	1.8	4.0	1.5	0.4	1.5	14.5	1.8	2.9

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】札幌市立大学を知ったきっかけは、「家族や友人、知人」が 27.8%、「新聞」が 26.7%、「テレビ」が 26.2%となっている。

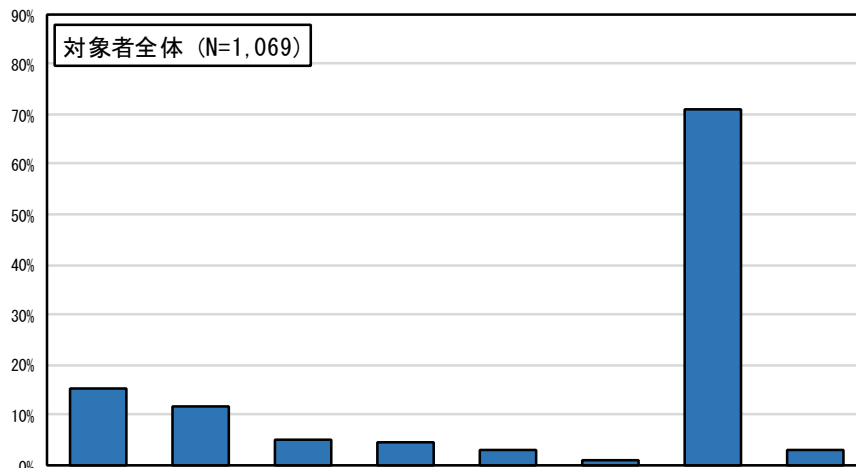
【性 別】「新聞」は、男性が 32.1%と、女性の 23%より 9.1 ポイント高くなっている。また、「家族や友人、知人」は、女性が 33.4%と、男性の 19.3%より 14.1 ポイント高くなっている。

【年代別】「新聞」、「テレビ」は年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

◇札幌市立大学の地域貢献の認知度

問 1 4 - 3 あなたは、札幌市立大学が以下のような地域貢献に取り組んでいることを知っていますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

札幌市立大学の地域貢献の認知度は「イベントや施設等のポスター、ロゴマーク、キャラクターなどの作成への協力」が 15.0%



	対象者数	の作成への協力	市民が自由に参加できる公開講座の実施	円山動物園等の施設設計や、ワークショップの開催などの協力	委員等が開催する審議会等に協力	率化に・ITを活用した行政の効率化	その他	知っていることはない	無回答
対象者全体	1,069	15.0	11.8	5.3	4.1	3.0	0.7	71.3	3.1
性別									
男性	420	15.0	15.2	6.2	5.5	4.0	1.0	66.9	2.6
女性	640	15.2	9.5	4.8	3.3	2.3	0.6	73.9	3.4
その他	3	-	33.3	-	-	-	-	66.7	-
年代別									
29歳以下	82	7.3	3.7	3.7	1.2	1.2	-	89.0	-
30～39歳	112	10.7	3.6	3.6	0.9	-	0.9	83.9	1.8
40～49歳	166	9.6	9.6	4.2	3.0	0.6	0.6	77.1	3.0
50～59歳	194	18.6	11.3	4.1	2.1	3.6	-	71.1	1.5
60～69歳	233	17.2	14.6	5.2	5.2	4.7	-	66.5	3.0
70歳以上	275	18.2	17.1	8.4	7.6	4.4	2.2	60.7	5.8

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】札幌市立大学の地域貢献の認知度は、「イベントや施設等のポスター、ロゴマーク、キャラクターなどの作成への協力」が 15.0%、「市民が自由に参加できる公開講座の実施」が 11.8%、「円山動物園等の施設設計や、ワークショップの開催などの協力」が 5.3%となっている。

【性別】「市民が自由に参加できる公開講座の実施」は、男性が 15.2%と、女性の 9.5%より 5.7ポイント高くなっている。一方で、「知っていることはない」は女性が 73.9%と男性の 66.9%より 7.0ポイント高くなっている。

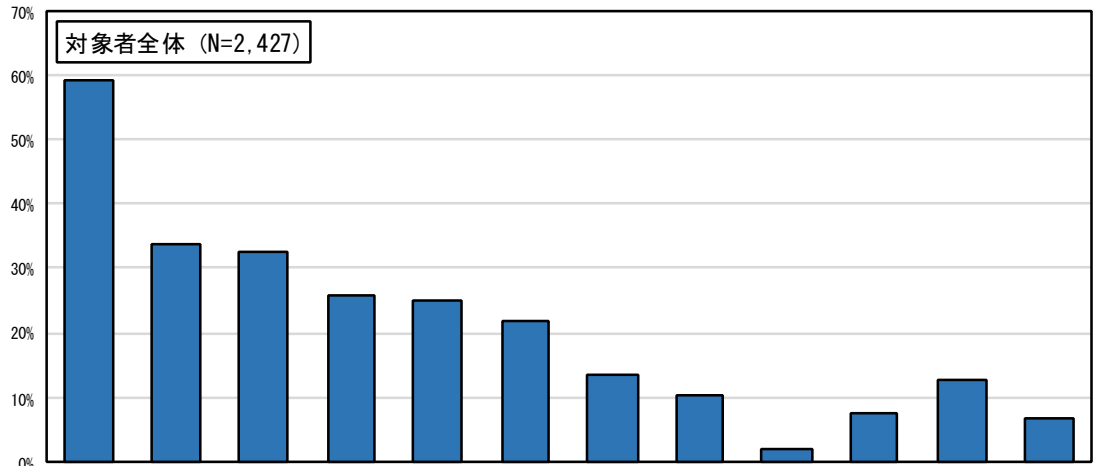
【年代別】「知っていることはない」は年代が下がるにつれて割合が高くなっている。

◇札幌市立大学に期待する大学像

《皆さまにお聞きます。》

問 15 あなたは、札幌市立大学がどのような大学であってほしいと思いますか。あてはまるものにくつでも○をつけてください。

札幌市立大学に期待する大学像は「地域の医療、福祉、産業等に必要な人材を育成する大学」が59.1%



対象者数	要 な 人 材 を 育 成 す る 大 学	域 超 高 齢 化 や 人 口 減 少 と い っ た 地 域 課 題 へ の 対 応 に 取 り 組 む 大 学	講 座 等 も 含 む	市 民 が 学 び 直 し や ス キ ル ア ッ プ の た め に 利 用 で き る 大 学 （ 公 開 講 座 等 も 含 む	新 し い 技 術 ・ 製 品 の 開 発 や 企 業 に 貢 献 す る 大 学	質 の 高 い 研 究 を 行 う 大 学	市 民 の 実 感 に 結 び つ く 先 進 的 な 大 学	全 国 で 活 躍 す る 技 術 者 や 専 門 職 を 育 成 す る 大 学	世 界 で 活 躍 で き る 人 材 を 育 成 す る 大 学	学 界 最 先 端 の 研 究 が 行 わ れ る 大 学	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答	
(%)															
対象者全体	2,427	59.1	33.6	32.5	25.8	24.9	21.8	13.5	10.3	1.9	7.6	12.5	6.4		
性別															
男性	993	56.7	35.0	29.6	27.2	24.9	20.4	13.0	10.5	2.5	10.0	11.4	5.6		
女性	1,406	61.2	32.9	34.8	25.1	25.1	22.8	13.9	10.2	1.4	5.8	13.2	6.6		
その他	9	22.2	-	11.1	11.1	11.1	22.2	-	-	-	11.1	44.4	11.1		
年代別															
29歳以下	161	44.7	21.1	28.6	18.0	16.1	12.4	11.2	9.3	3.1	19.9	16.8	3.7		
30~39 歳	262	50.4	25.6	30.9	29.0	21.4	22.1	14.9	12.2	1.5	13.7	14.1	2.7		
40~49 歳	400	64.0	33.5	35.0	27.5	26.0	26.0	18.3	12.8	2.0	8.3	9.0	3.3		
50~59 歳	411	62.5	34.5	36.3	26.5	27.5	25.3	14.4	10.0	1.7	5.4	13.4	4.1		
60~69 歳	468	65.6	36.8	35.3	25.2	28.0	21.6	12.8	9.8	2.4	4.9	10.7	5.6		
70 歳以上	707	57.1	36.9	28.9	25.7	24.2	19.7	10.7	8.8	1.3	5.1	13.6	11.6		

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】札幌市立大学に期待する大学像は、「地域の医療、福祉、産業等に必要な人材を育成する大学」が59.1%、「超高齢化や人口減少といった地域課題への対応に取り組む大学」が33.6%、「市民が学び直しやスキルアップのために利用できる大学（公開講座等も含む）」が32.5%となっている。

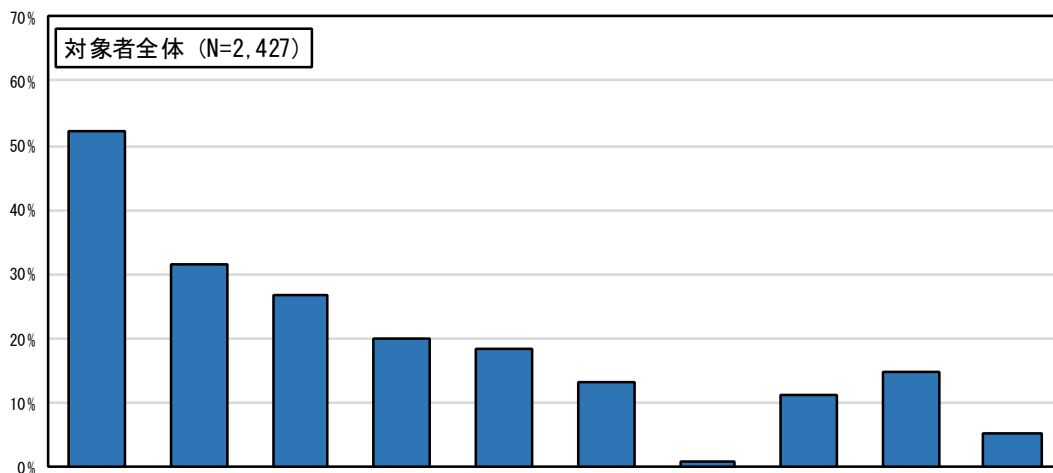
【性 別】「市民が学び直しやスキルアップのために利用できる大学（公開講座等も含む）」は、女性が34.8%と、男性の29.6%より5.2ポイント高くなっている。

【年代別】「超高齢化や人口減少といった地域課題への対応に取り組む大学」は年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

◇札幌市立大学に期待する活動

問 16 あなたが、札幌市立大学に期待する活動はありますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

札幌市立大学に期待する活動は「医療、福祉と連携した健康増進に向けた取り組み」が52.1%



	対象者数	期待する活動 (%)									
		医療、福祉と連携した健康増進に向けた取り組み	市民が学ぶ機会の提供	企業が必要とする多様な人材の供給	経済の発展への貢献	行政と連携した公共事業の効率化の研究	産業界や行政機関との連携の促進	その他	特になし	わからない	無回答
対象者全体	2,427	52.1	31.2	26.6	20.1	18.4	13.2	1.0	11.2	14.6	5.3
性別	男性	49.6	30.7	29.5	20.7	19.5	16.4	1.1	13.7	13.0	4.1
	女性	54.2	31.5	24.9	19.9	17.8	11.1	1.0	9.4	15.6	5.8
	その他	9	22.2	22.2	11.1	-	-	-	11.1	44.4	11.1
年代別	29歳以下	38.5	24.2	19.9	17.4	16.1	9.3	0.6	27.3	17.4	1.9
	30～39 歳	43.1	24.8	27.5	26.7	18.7	14.5	0.8	17.9	14.1	2.7
	40～49 歳	55.0	33.5	28.5	25.3	19.8	15.8	1.0	11.8	11.0	2.5
	50～59 歳	54.0	34.5	29.4	21.2	15.8	12.9	2.2	9.7	13.9	1.9
	60～69 歳	56.2	32.7	29.3	17.9	19.7	11.5	0.9	7.3	15.6	4.5
	70 歳以上	53.3	30.8	23.8	16.4	18.8	13.6	0.7	7.9	16.1	10.6

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】札幌市立大学に期待する活動は、「医療、福祉と連携した健康増進に向けた取り組み」が52.1%、「市民が学ぶ機会の提供」が31.2%、「企業が必要とする多様な人材の供給」が26.6%となっている。

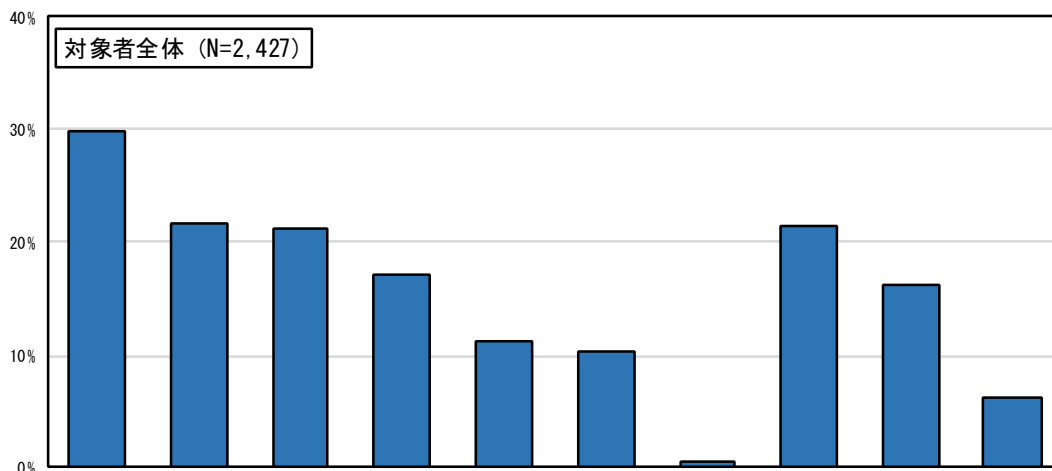
【性 別】「産業界や行政機関との連携の促進」は、男性が16.4%と、女性の11.1%より5.3ポイント高くなっている。

【年代別】「医療、福祉と連携した健康増進に向けた取り組み」が60歳代（56.2%）で最も高く、最も低い29歳以下（38.5%）と比べると17.7ポイントの差となっている。

◇関心のある札幌市立大学の研究や活動

問 1 7 札幌市立大学の研究や活動の中で、あなたが関心のある（詳しく知りたいと思う）ものはありますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

関心のある札幌市立大学の研究や活動は「市民が自由に参加できる公開講座やイベント」が 29.8%



対象者数		市民が自由に参加できる公開講座	企業や研究機関、行政、病院との連携	看護学部で行っている教育・研究	AI・ITに関する研究	デザイン学部と看護学部の連携教育	デザイン学部で行っている教育・研究	その他	特にない	わからない	無回答
対象者全体 (N=2,427)		29.8	21.8	21.1	17.0	11.2	10.3	0.7	21.5	16.4	6.2
性別	男性 (993)	27.1	22.4	18.4	20.9	10.5	9.9	1.1	23.4	15.7	5.7
	女性 (1,406)	31.9	21.6	23.1	14.2	11.7	10.5	0.4	20.2	17.0	6.1
	その他 (9)	22.2	11.1	11.1	33.3	11.1	33.3	-	22.2	22.2	11.1
年代別	29歳以下 (161)	18.0	14.9	13.7	21.7	11.8	16.1	-	33.5	11.8	2.5
	30～39歳 (262)	27.1	21.0	17.9	21.8	15.6	12.6	-	26.7	16.0	2.7
	40～49歳 (400)	31.3	22.8	20.3	20.8	11.8	14.3	0.5	24.0	14.0	3.5
	50～59歳 (411)	31.1	22.4	20.7	20.4	11.7	12.2	0.7	23.6	16.3	1.9
	60～69歳 (468)	33.8	22.0	20.1	14.5	9.8	8.8	1.1	22.2	15.6	5.3
	70歳以上 (707)	29.6	22.8	25.5	12.0	9.8	5.8	0.8	13.6	19.7	12.4

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】関心のある札幌市立大学の研究や活動は、「市民が自由に参加できる公開講座やイベント」が 29.8%、「企業や研究機関、行政、病院との連携」が 21.8%、「看護学部で行っている教育・研究」が 21.1%となっている。

【性 別】「AI・ITに関する研究」は、男性が 20.9%と、女性の 14.2%より 6.7ポイント高くなっている。

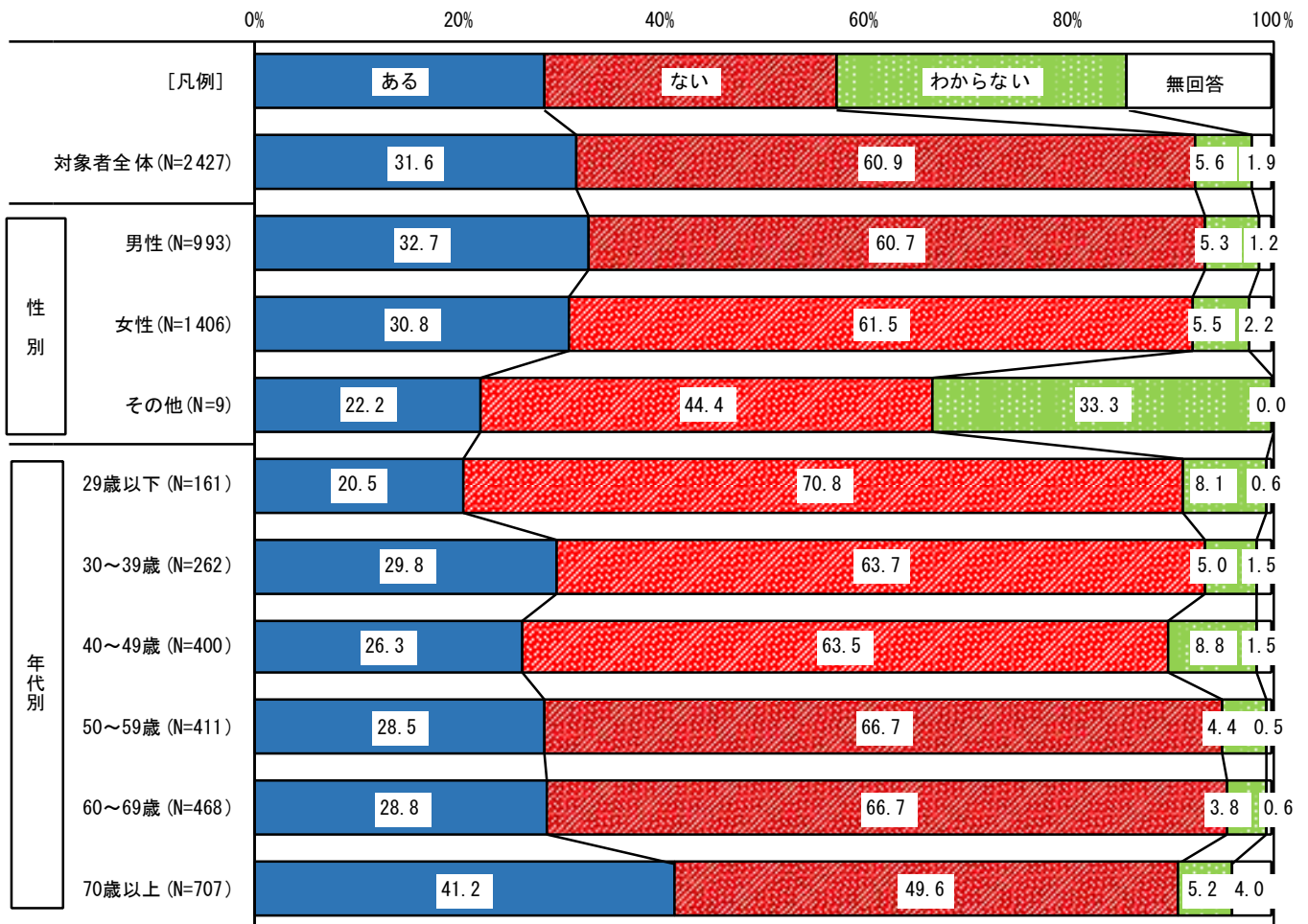
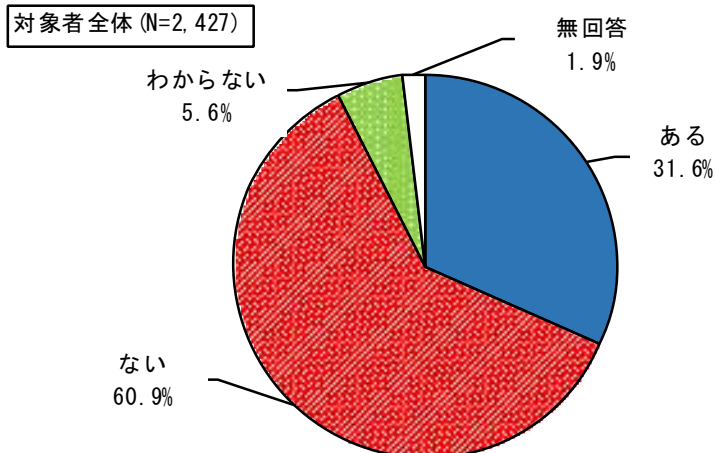
【年代別】「特にない」は年代が下がるにつれて割合が高くなっている。

(4) 健康寿命の延伸について

◇健康上の問題による日常生活への影響の有無

問 1 8 あなたは、現在、健康上の問題で日常生活に影響が出ていることがありますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

健康上の問題による日常生活への影響の有無は「ある」が 31.6%



【全 体】健康上の問題による日常生活への影響の有無は、「ある」が 31.6%、「ない」が 60.9%となっている。

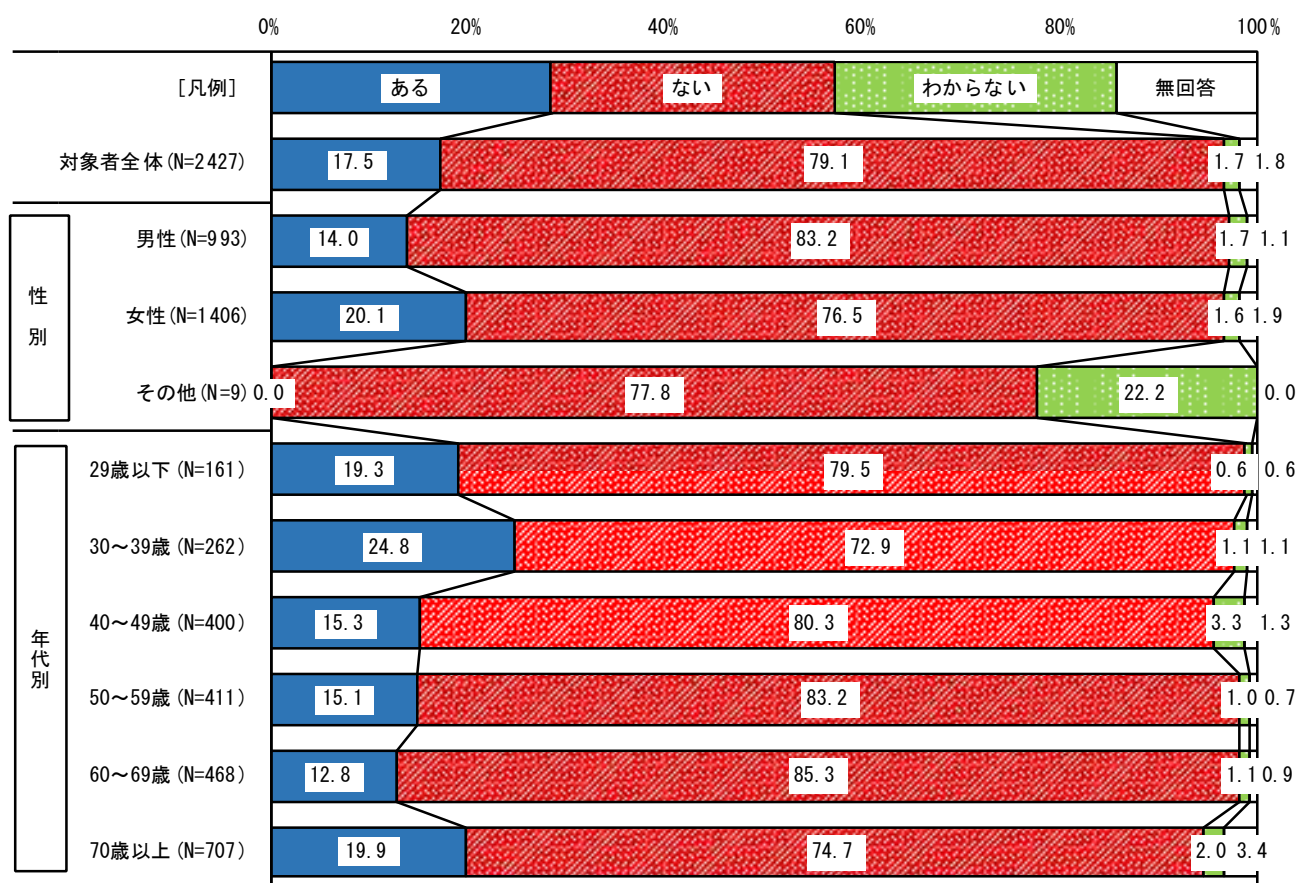
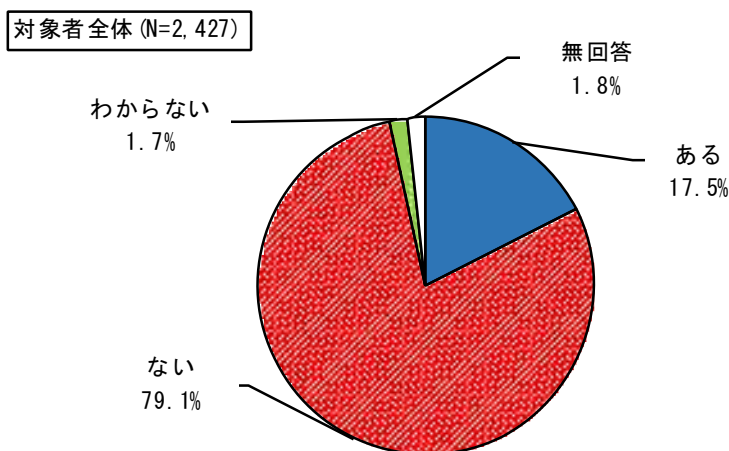
【性 別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「ある」が 70 歳以上 (41.2%) で最も高く、次いで 30 歳代 (29.8%)、60 歳代 (28.8%) となっている。

◇ここ1か月の間における日常生活への影響の有無

問19 あなたは、ここ1か月の間に、健康上の問題で床についたことや、普段の活動（通勤、通学、家事など）ができなかったことはありますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

ここ1か月の間における日常生活への影響の有無は「ある」が17.5%



【全体】健康上の問題によりできなかった普段の活動は、「ある」が17.5%、「ない」が79.1%となっている。

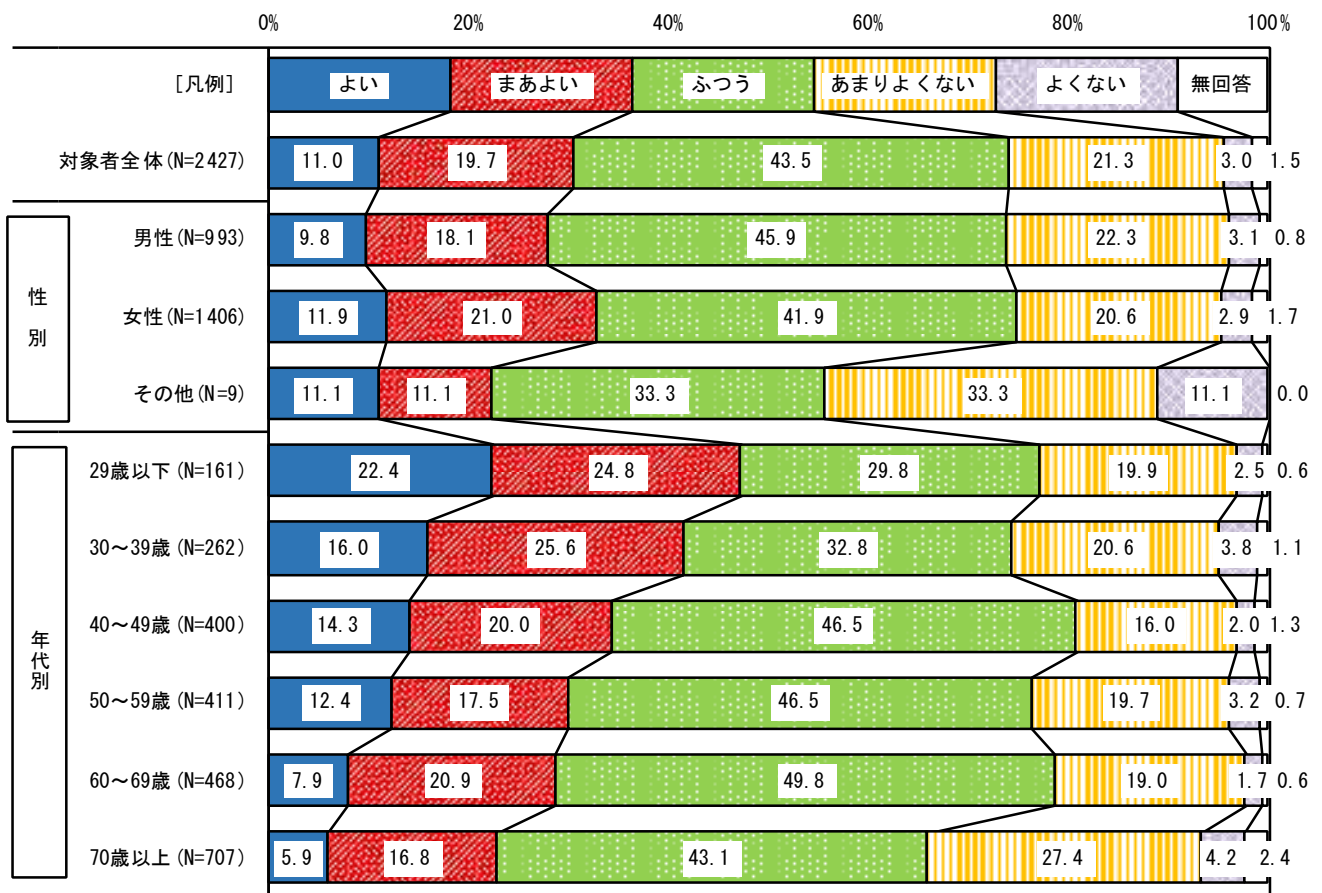
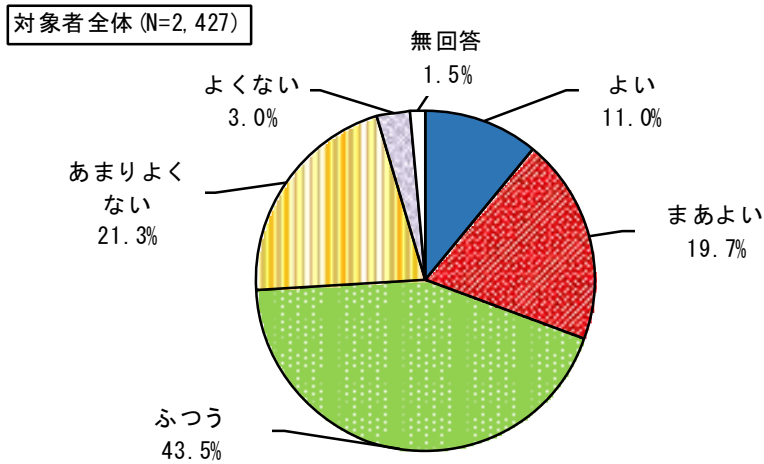
【性別】「ある」は、女性が20.1%と、男性の14.0%より6.1ポイント高くなっている。

【年代別】「ある」が30歳代(24.8%)で最も高く、次いで70歳以上(19.9%)、29歳以下(19.3%)となっている。

◇自身が感じる現在の健康状態

問20 あなたは、ご自身の現在の健康状態をどのように感じていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

自身が感じる現在の健康状態は「ふつう」が43.5%



【全体】現在の健康状態は、「ふつう」が43.5%、「あまりよくない」が21.3%となっている。

【性別】男女で大きな差は見られない。

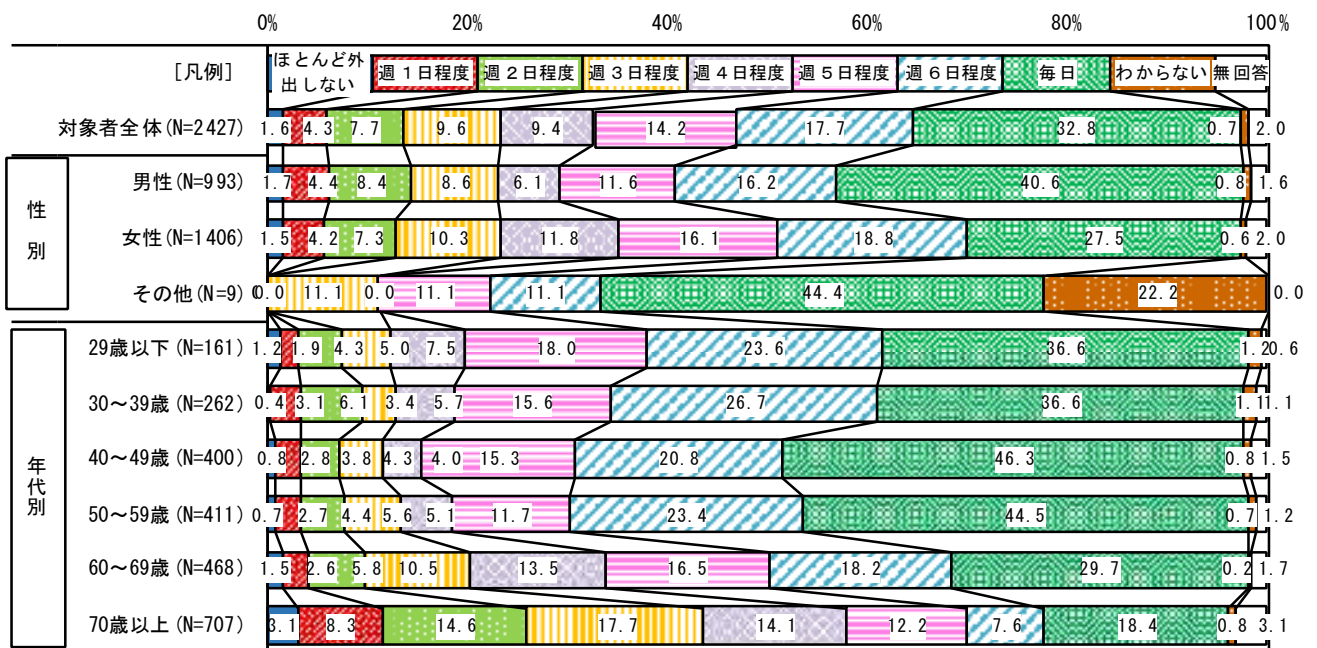
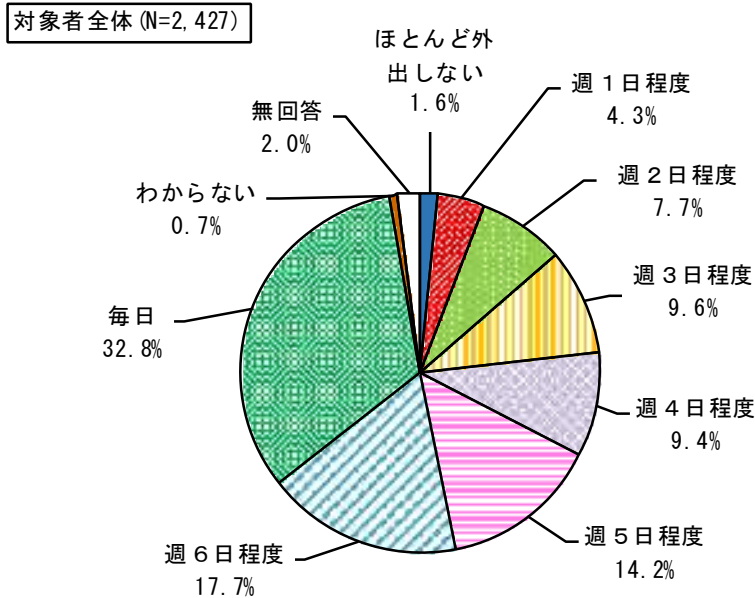
【年代別】「よい」は年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

◇1週間の外出頻度

問 2 1 あなたの外出の頻度は、平均すると1週間に何日くらいですか。ここ1年の間の夏期と冬期（積雪期）の外出の頻度について、最も近いものに1つつ〇をつけてください。

ア 夏期

夏期の1週間の外出頻度は「毎日」が32.8%



【全 体】 夏期の外出頻度は、「毎日」が32.8%、「週6日程度」が17.7%となっている。

【性 別】 「毎日」は、男性が40.6%と、女性の27.5%より13.1ポイント高くなっている。また、「週4日程度」は、女性が11.8%と、男性の6.1%より5.7ポイント高くなっている。

【年代別】 「毎日」が40歳代（46.3%）で最も高く、最も低い70歳以上（18.4%）と比べると27.9ポイントの差となっている。

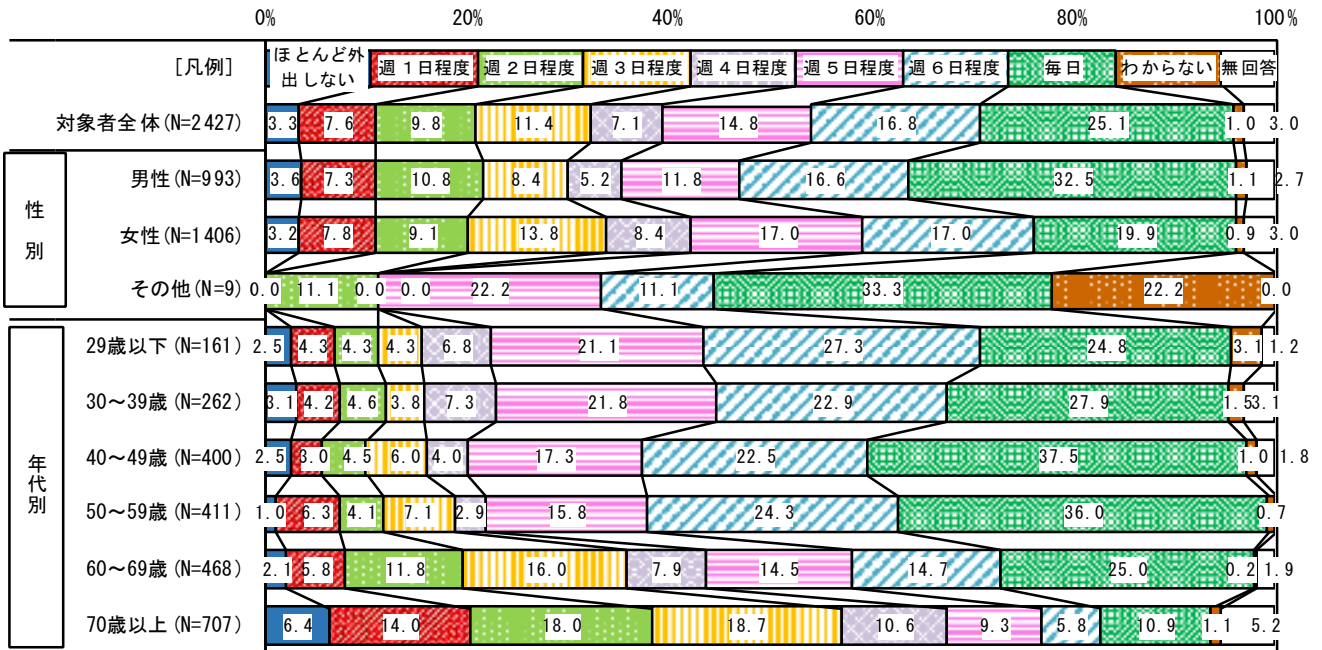
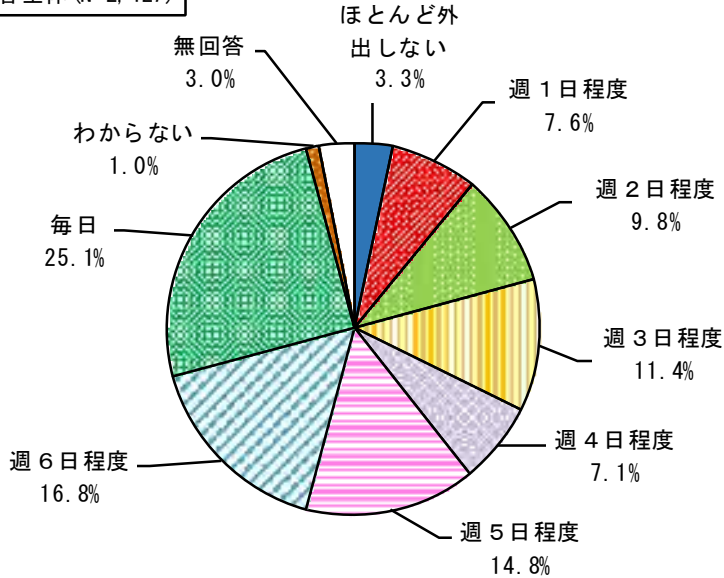
◇1週間の外出頻度

問 2 1 あなたの外出の頻度は、平均すると1週間に何日くらいですか。ここ1年の間の夏期と冬期（積雪期）の外出の頻度について、最も近いものに1つずつ○をつけてください。

イ 冬期

冬期の1週間の外出頻度は「毎日」が25.1%

対象者全体 (N=2,427)



【全 体】 冬期の外出頻度は、「毎日」が25.1%、「週6日程度」が16.8%となっている。

【性 別】 「毎日」は、男性が32.5%と、女性の19.9%より12.6ポイント高くなっている。また、「週3日程度」、「週5日程度」は、女性が男性より5.2ポイント以上高くなっている。

【年代別】 29歳以下では「週6日程度」が、30歳代~60歳代では「毎日」が、70歳以上では「週3日程度」が最も高くなっている。

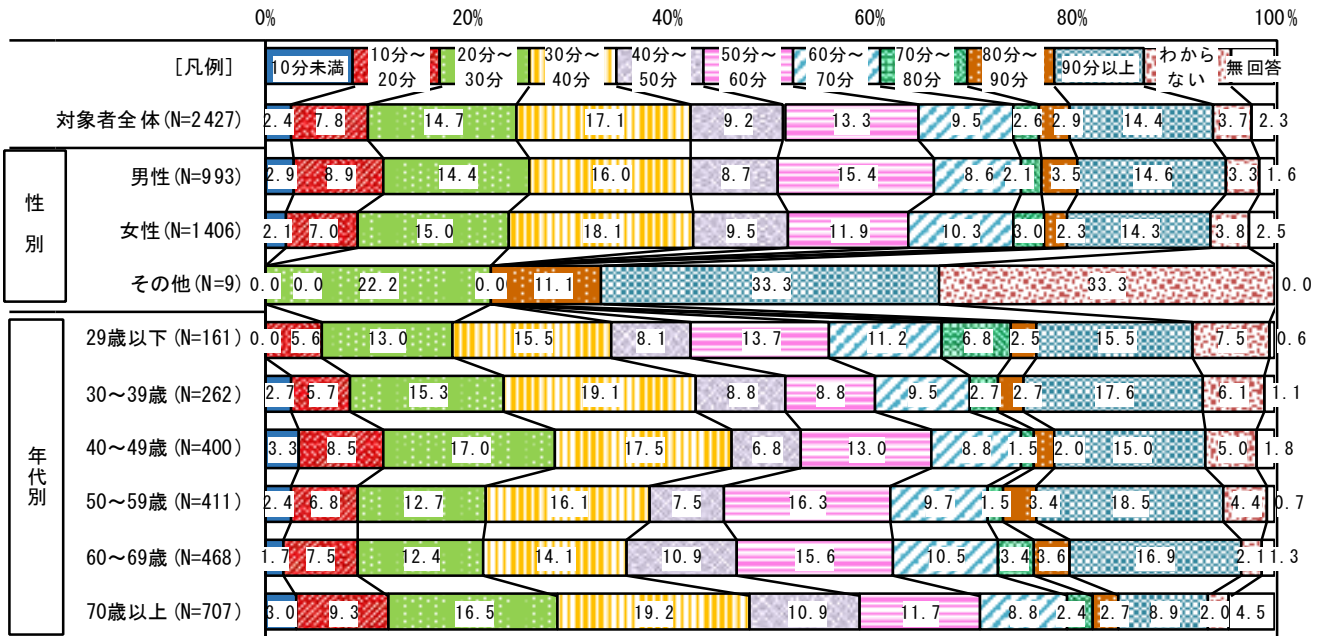
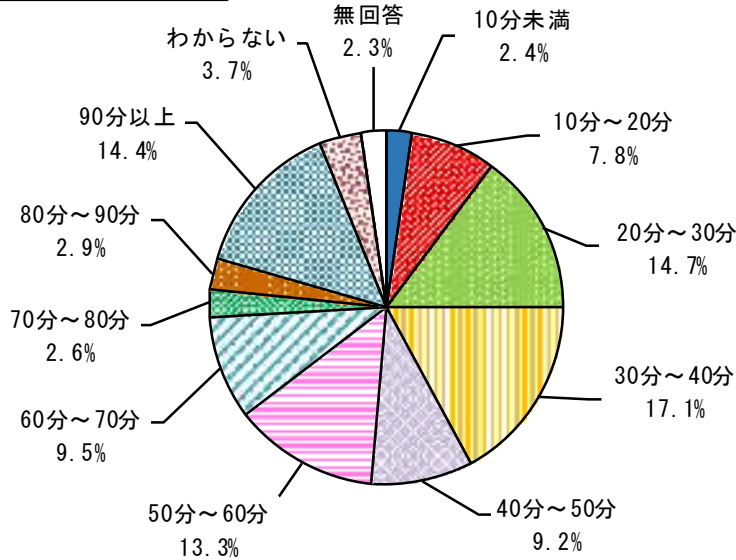
◇外出した日に歩く時間

問 2 2 あなたが外出した日に歩く時間は、平均すると何分くらいですか。ここ1年の間の夏期と冬期（積雪期）の外出した日に歩く時間について、最も近いものに1つずつ○をつけてください。

ア 夏期

夏期の外出した日に歩く時間は「30分～40分」が17.1%

対象者全体 (N=2,427)



【全 体】夏期の外出した日に歩く時間は、「30分～40分」が17.1%、「20分～30分」が14.7%となっている。

【性 別】男女で大きな差は見られない。

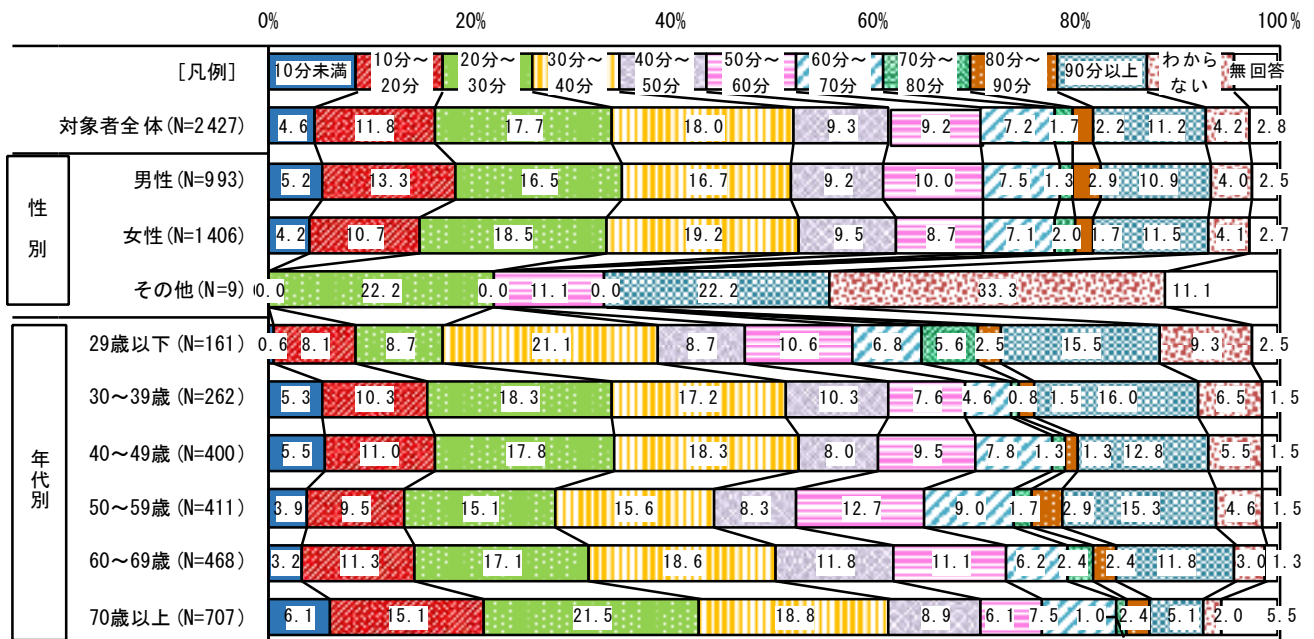
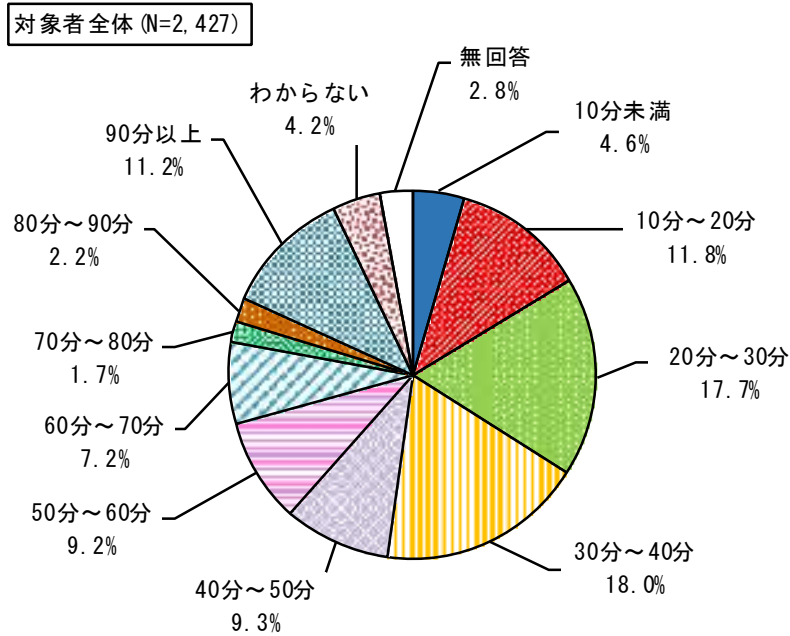
【年代別】「90分以上」が50歳代（18.5%）で最も高く、次いで30歳代（17.6%）、60歳代（16.9%）となっている。

◇外出した日に歩く時間

問 2 2 あなたが外出した日に歩く時間は、平均すると何分くらいですか。ここ1年の間の夏期と冬期（積雪期）の外出した日に歩く時間について、最も近いものに1つずつ○をつけてください。

イ 冬期

冬期の外出した日に歩く時間は「30分～40分」が18.0%



【全 体】 冬期の外出した日に歩く時間は、「30分～40分」が18.0%、「20分～30分」が17.7%となっている。

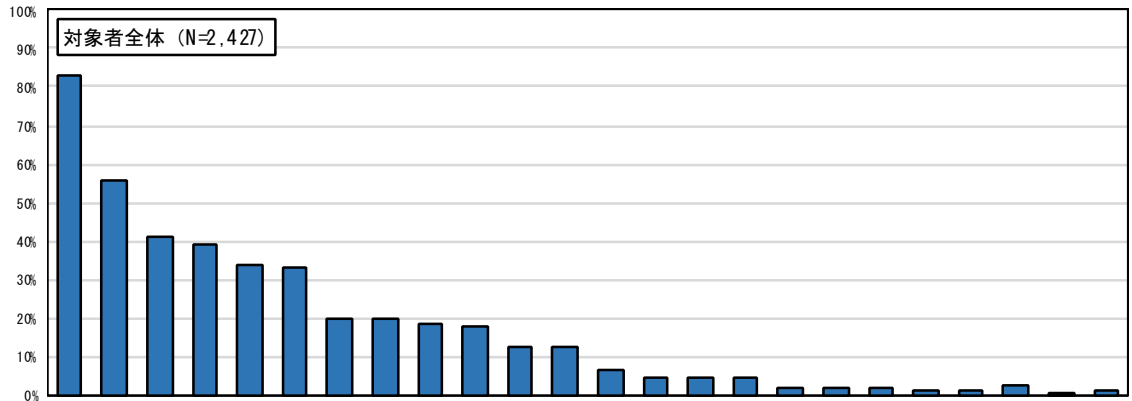
【性 別】 男女で大きな差は見られない。

【年代別】 「90分以上」が30歳代(16.0%)で最も高く、次いで29歳以下(15.5%)、50歳代(15.3%)となっている。

◇外出する目的

問 2 3 あなたが外出するときの目的はどんなことですか。ここ1年の間に、1か月に1回以上機会があった外出について、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

外出する目的は「買い物」が83.3%



	対象者数	買い物	仕事(通勤)	デイサービス	飲食(外食)	友人・知人と会う	散歩・街歩き	親族との交流	運動・スポーツ	家族の付き添い	レジャー	習い事・趣味	通院	図書館	ボランティア・PTA活動	町内会・自治会	クラブ・サークル活動	体育館	学校(通学)	10・11以外の公共施設	目的はない	健診・検診	その他	外出はしない	無回答
対象者全体	2,427	83.3	55.6	41.0	38.9	33.6	33.4	20.1	19.9	18.4	17.8	13.0	12.6	6.4	4.4	4.4	4.4	2.4	2.3	1.9	1.6	1.2	2.5	0.3	1.4
性別																									
男性	993	76.7	61.1	37.0	38.4	22.7	34.4	13.0	26.7	14.3	21.3	9.5	11.1	5.9	3.3	5.7	4.0	2.2	2.3	1.9	2.0	1.3	1.3	0.1	0.9
女性	1,406	88.1	52.3	44.1	39.7	41.7	32.6	25.3	15.2	21.5	15.5	15.6	13.9	6.7	5.1	3.3	4.6	2.6	2.3	1.8	1.1	1.1	3.3	0.4	1.4
その他	9	77.8	55.6	44.4	44.4	33.3	22.2	33.3	22.2	22.2	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	22.2	11.1	11.1	22.2	11.1	22.2	11.1	11.1	-	-
年代別																									
29歳以下	161	83.9	68.9	28.6	59.6	61.5	39.1	21.1	21.7	21.7	19.9	21.1	7.5	5.6	1.9	-	8.1	4.3	28.6	1.9	3.1	-	3.1	-	1.2
30~39歳	262	88.2	78.6	31.3	59.5	46.2	35.5	30.5	15.3	32.4	25.6	13.4	14.5	8.8	5.0	1.5	1.1	3.1	0.8	3.1	1.9	0.4	3.8	-	1.1
40~49歳	400	85.8	79.5	32.8	47.5	35.8	26.5	22.0	18.0	29.0	27.3	13.0	11.8	5.0	7.3	3.0	2.3	2.3	1.3	1.5	1.0	0.3	3.0	0.5	1.0
50~59歳	411	87.3	77.6	37.5	44.8	32.8	30.4	22.9	19.2	21.4	20.9	12.2	8.5	6.3	2.4	1.9	2.4	1.9	0.5	1.7	1.0	0.2	1.5	-	0.7
60~69歳	468	82.9	57.5	41.9	35.3	30.1	34.8	21.4	24.6	15.0	18.4	11.8	12.2	7.5	3.6	4.9	4.9	2.6	0.2	1.7	1.3	0.4	1.7	0.2	0.4
70歳以上	707	77.9	17.3	53.9	21.2	24.6	35.8	13.0	19.8	7.4	7.2	12.4	16.5	5.8	4.8	8.2	6.8	2.1	0.1	1.8	1.8	3.4	2.7	0.6	2.4

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

※ 体育館、図書館以外の公共施設

【全体】外出する目的は、「買い物」が83.3%、「仕事(通勤)」が55.6%、「デイサービス」が41.0%となっている。

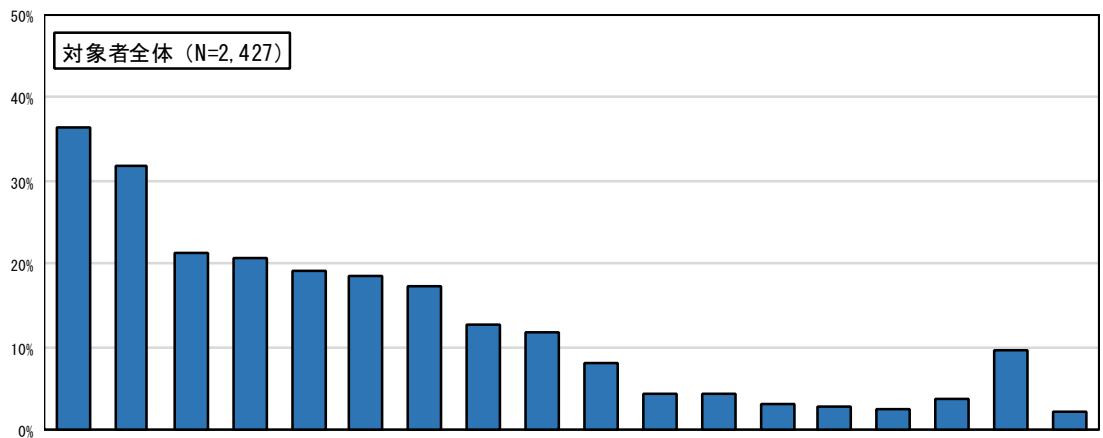
【性別】「デイサービス」、「友人・知人と会う」、「親族との交流」、「家族の付き添い」、「習い事・趣味」は、女性が男性より6.1ポイント以上高くなっている。

【年代別】「飲食(外食)」、「友人・知人と会う」は、年代が下がるにつれて割合が高くなっている。

◇話す機会があった相手

問 2 4 あなたが、ここ1年の間に、同居する家族以外で1週間に1回以上会って話す機会があった相手はどのような方ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

話す機会のあった相手は「友人・知人」が36.4%



		対象者数	友人・知人	同僚・クラスメイト	子・孫	近所の住人	親	店員・従業員	兄弟姉妹	主治医・看護師	顧客・取引先	交際相手・パートナー	1～5以外の親族 (※)	子の配偶者	講師・指導員	介護士・ヘルパー	祖父母	その他	そのような相手はいない	無回答
(%)																				
対象者全体		2,427	36.4	32.0	21.4	20.7	19.2	18.5	17.4	12.6	11.7	8.0	4.4	4.2	3.2	3.0	2.8	4.0	9.6	2.3
性別	男性	993	32.0	33.1	18.4	19.7	16.6	19.1	14.2	12.4	19.2	7.9	4.1	3.2	2.2	2.6	2.6	2.7	11.3	1.6
	女性	1,406	39.5	31.4	23.5	21.3	21.1	18.0	19.8	12.8	6.4	8.2	4.8	5.0	3.8	3.2	2.8	4.9	8.6	2.3
	その他	9	44.4	44.4	11.1	33.3	22.2	22.2	11.1	11.1	22.2	11.1	-	11.1	11.1	11.1	22.2	11.1	11.1	11.1
年代別	29歳以下	161	55.3	50.3	0.6	3.7	31.7	17.4	22.4	9.3	5.6	23.6	6.2	-	3.7	0.6	13.7	0.6	3.7	0.6
	30～39歳	262	38.2	48.9	5.3	10.3	32.1	22.5	17.6	9.5	17.6	12.6	5.7	0.4	1.1	0.8	6.5	5.7	8.4	1.1
	40～49歳	400	32.5	50.5	8.8	14.0	34.5	22.3	14.8	8.0	16.3	8.0	5.3	1.3	2.8	0.5	3.3	4.0	9.8	1.5
	50～59歳	411	31.9	46.0	15.6	12.9	25.5	19.2	17.3	10.2	17.5	10.2	3.6	2.9	2.2	1.9	1.9	3.6	10.0	1.0
	60～69歳	468	33.8	26.5	29.9	20.3	15.2	19.7	18.8	11.3	11.1	5.6	3.4	6.2	4.1	3.2	0.9	3.6	11.3	1.5
	70歳以上	707	38.0	6.8	36.9	37.1	1.8	13.9	17.1	19.4	5.5	3.4	4.4	4.4	7.9	4.1	6.2	0.4	4.7	10.3

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

※ 親、子・孫、祖父母、兄弟姉妹、子の配偶者以外の親族

【全体】話す機会のあった相手は、「友人・知人」が36.4%、「同僚・クラスメイト」が32.0%、「子・孫」が21.4%となっている。

【性別】「顧客・取引先」は、男性が19.2%と、女性の6.4%より12.8ポイント高くなっている。また、「友人・知人」、「子・孫」、「兄弟姉妹」は女性が男性より5.1ポイント以上高くなっている。

【年代別】29歳以下と60歳代、70歳以上では「友人・知人」が、30～50歳代では「同僚・クラスメイト」が最も高くなっている。

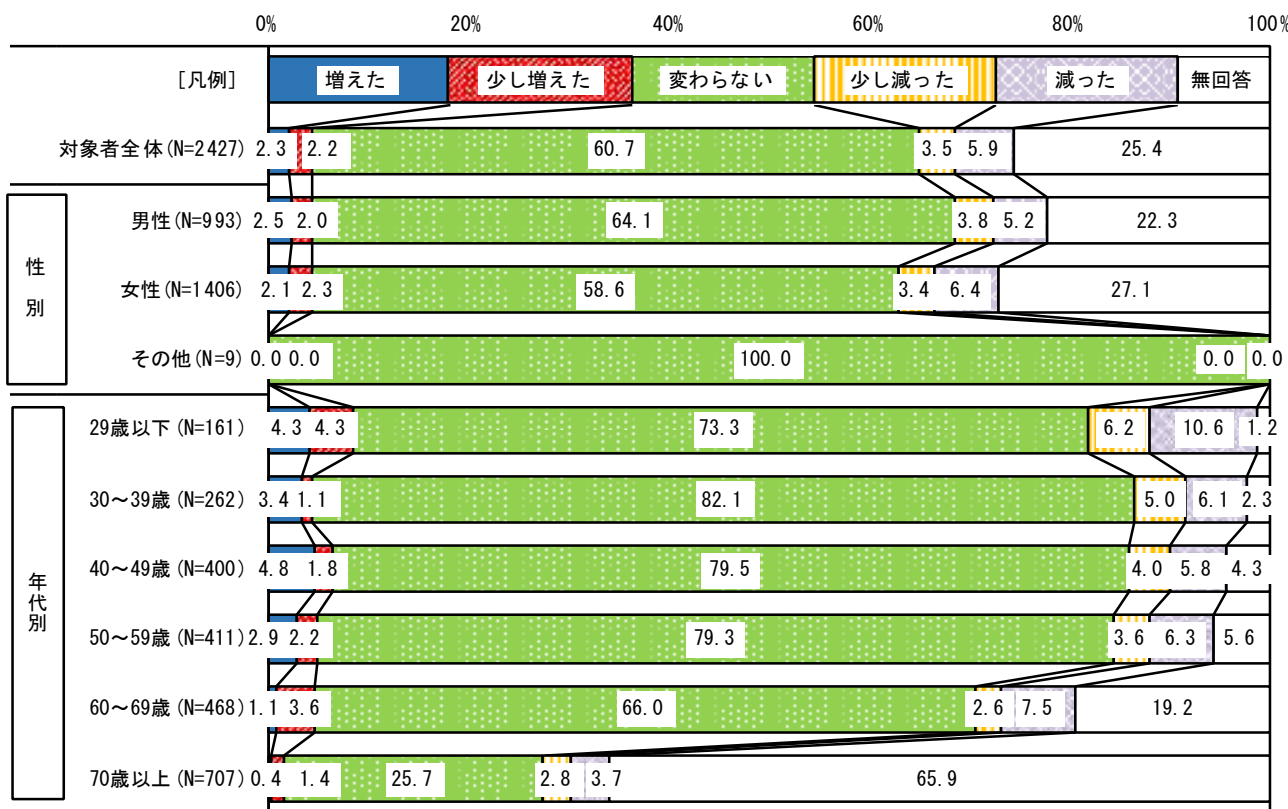
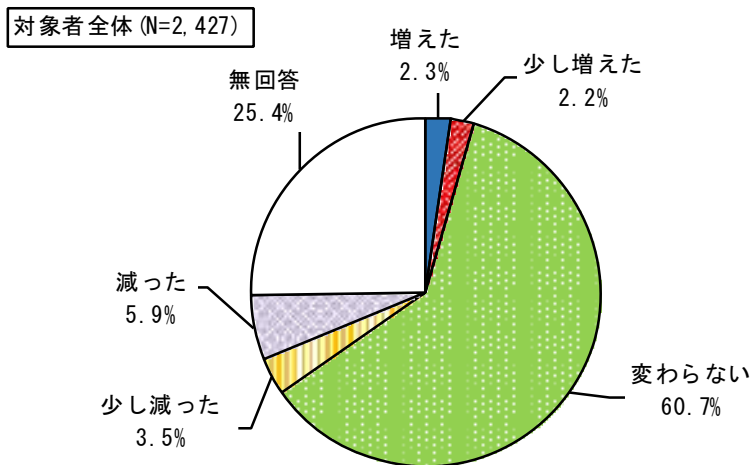
◇新型コロナウイルス感染拡大前と現在の行動頻度の変化

問 2 5 あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大前と現在を比較して、次に掲げる行動の頻度がどのように変化しましたか。ア～クについて、1つずつ選んで○をつけてください。

ア 通勤や通学

通勤や通学の頻度は「変わらない」が60.7%

※ “増えた”（「増えた」＋「少し増えた」）、“減った”（「少し減った」＋「減った」）



【全 体】通勤や通学の頻度は、“増えた”が4.5%、「変わらない」が60.7%、“減った”が9.4%となっている。

【性 別】「変わらない」は、男性が64.1%と、女性の58.6%より5.5ポイント高くなっている。

【年代別】「変わらない」が30歳代(82.1%)で最も高く、次いで40歳代(79.5%)、50歳代(79.3%)となっている。

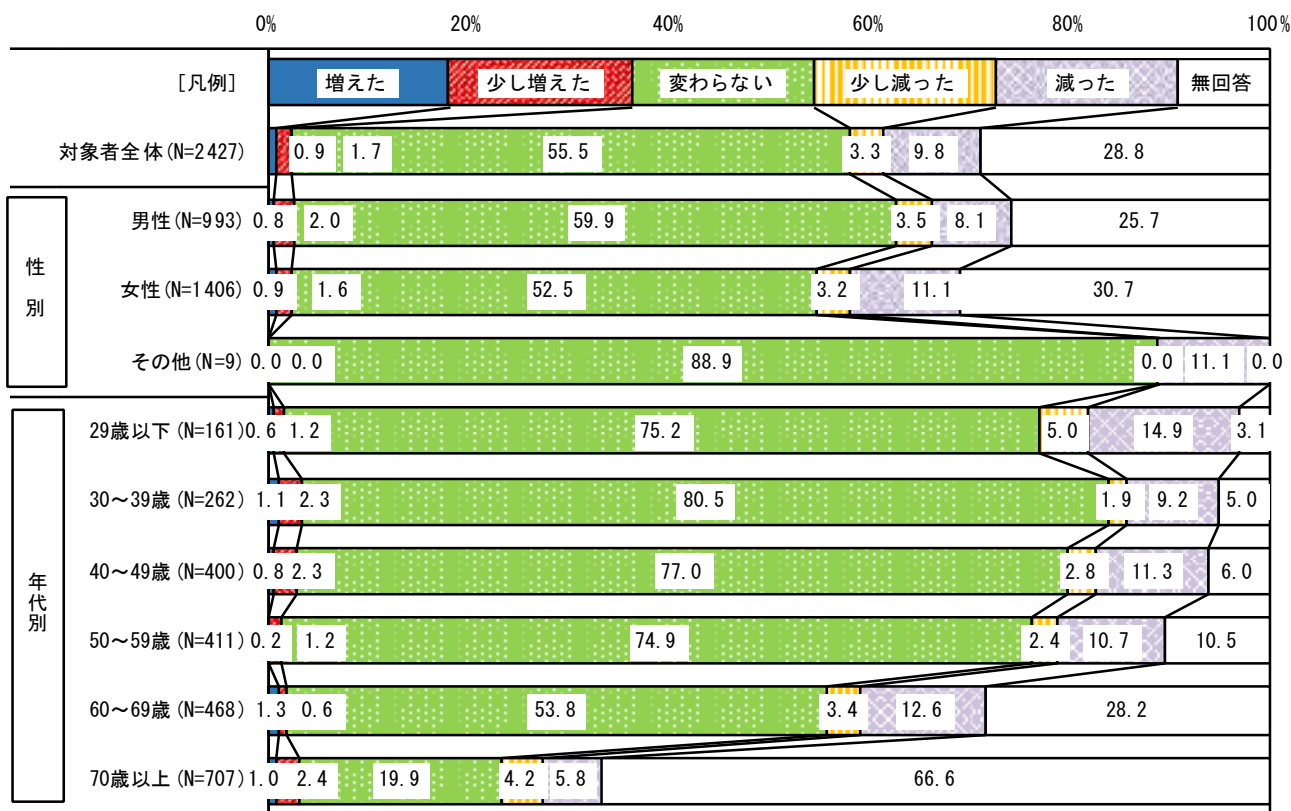
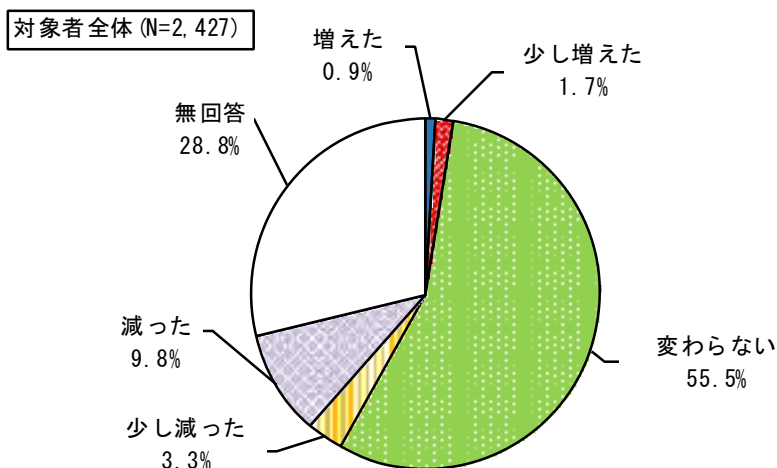
◇新型コロナウイルス感染拡大前と現在の行動頻度の変化

問 2 5 あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大前と現在を比較して、次に掲げる行動の頻度がどのように変化しましたか。ア～クについて、1つずつ選んで○をつけてください。

イ ボランティア活動

ボランティア活動の頻度は「変わらない」が55.5%

※ “増えた”（「増えた」＋「少し増えた」）、“減った”（「少し減った」＋「減った」）



【全 体】ボランティア活動の頻度は、“増えた”が2.6%、「変わらない」が55.5%、“減った”が13.1%となっている。

【性 別】「変わらない」は、男性が59.9%と、女性の52.5%より7.4ポイント高くなっている。

【年代別】「変わらない」が30歳代(80.5%)で最も高く、次いで40歳代(77.0%)、29歳以下(75.2%)となっている。

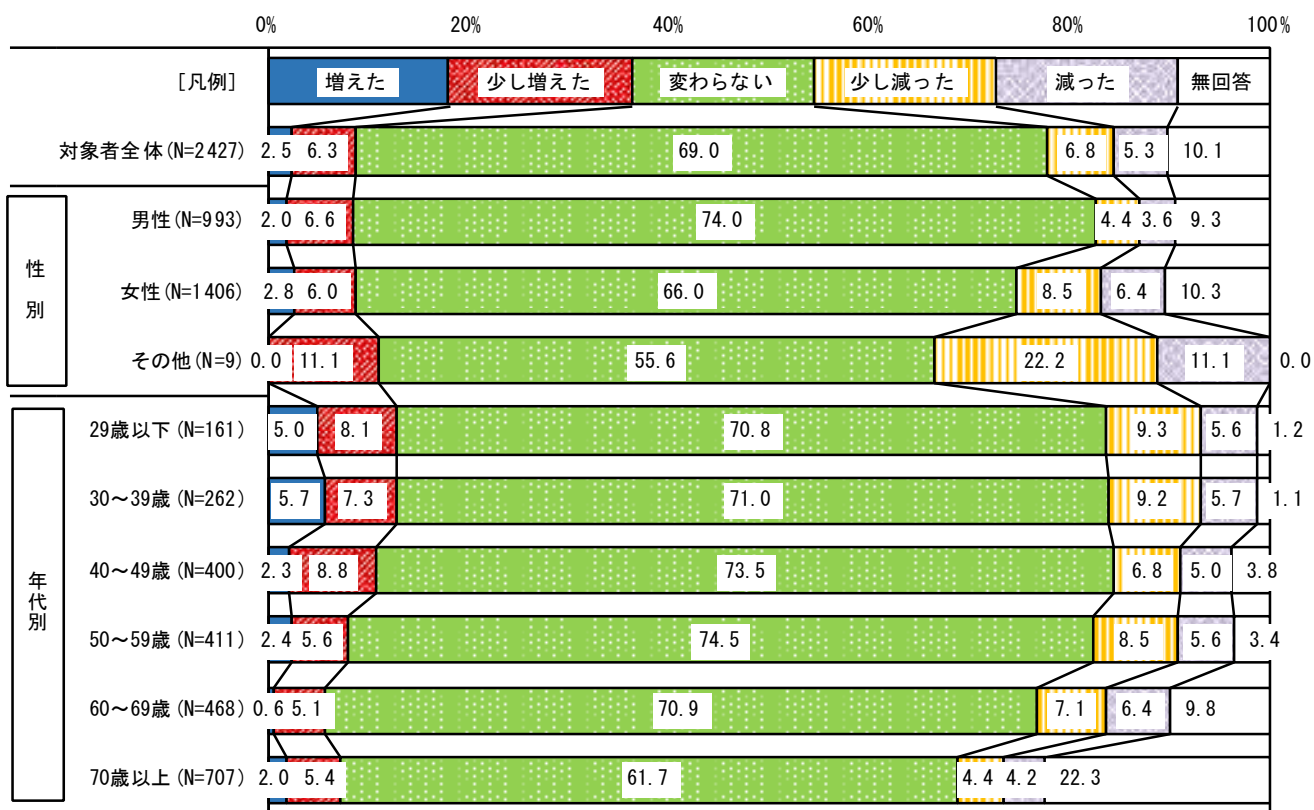
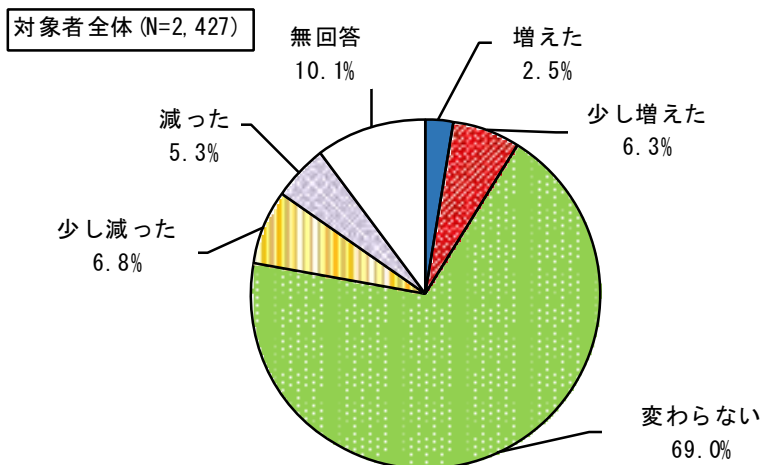
◇新型コロナウイルス感染拡大前と現在の行動頻度の変化

問 2 5 あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大前と現在を比較して、次に掲げる行動の頻度がどのように変化しましたか。ア～クについて、1つずつ選んで○をつけてください。

ウ 通院や健診・検診

通院や健診・検診の頻度は「変わらない」が 69.0%

※ “増えた”（「増えた」＋「少し増えた」）、“減った”（「少し減った」＋「減った」）



【全 体】通院や健診・検診の頻度は、“増えた”が 8.8%、「変わらない」が 69.0%、“減った”が 12.1% となっている。

【性 別】「変わらない」は、男性が 74.0%と、女性の 66.0%より 8.0ポイント高くなっている。

【年代別】「減った」が 60 歳代 (6.4%) で最も高く、次いで 30 歳代 (5.7%)、29 歳以下、50 歳代 (5.6%) となっている。

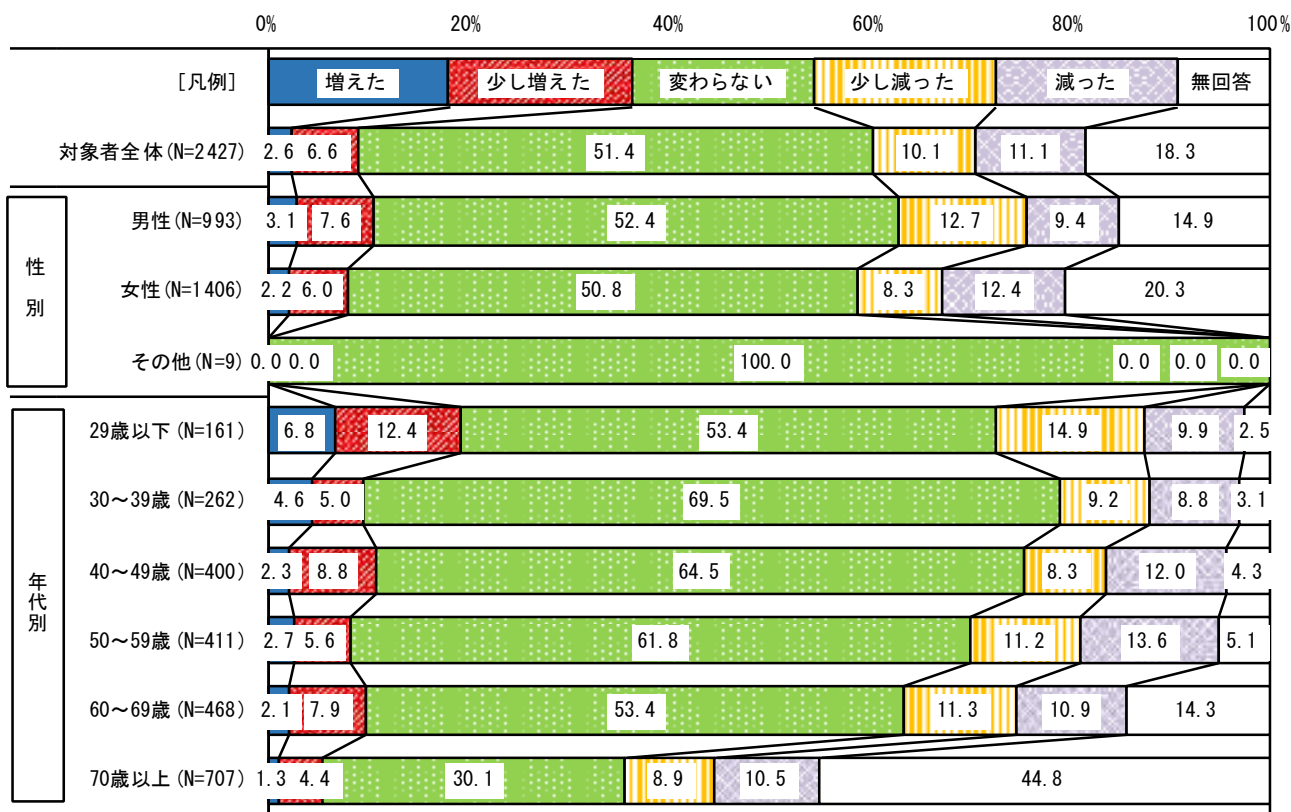
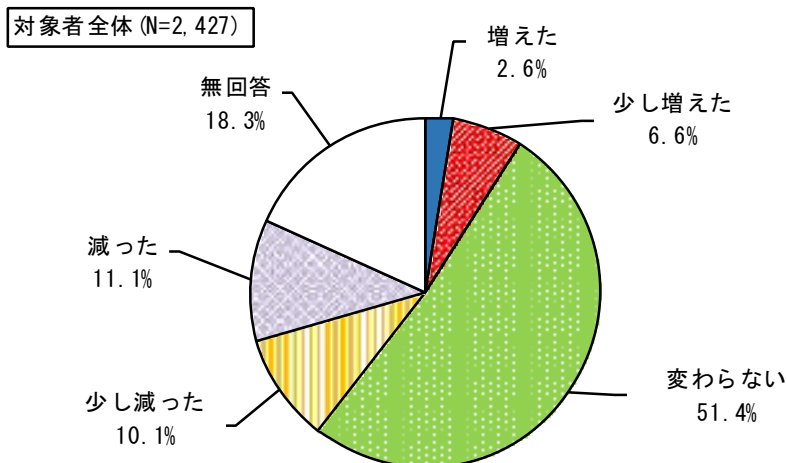
◇新型コロナウイルス感染拡大前と現在の行動頻度の変化

問 2 5 あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大前と現在を比較して、次に掲げる行動の頻度がどのように変化しましたか。ア～クについて、1つずつ選んで○をつけてください。

エ 運動・スポーツ

運動・スポーツをする頻度は「変わらない」が51.4%

※ “増えた”（「増えた」＋「少し増えた」）、“減った”（「少し減った」＋「減った」）



【全 体】運動・スポーツをする頻度は、“増えた”が9.1%、「変わらない」が51.4%、“減った”が21.1%となっている。

【性 別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「変わらない」が30歳代(69.5%)で最も高く、次いで40歳代(64.5%)、50歳代(61.8%)となっている。

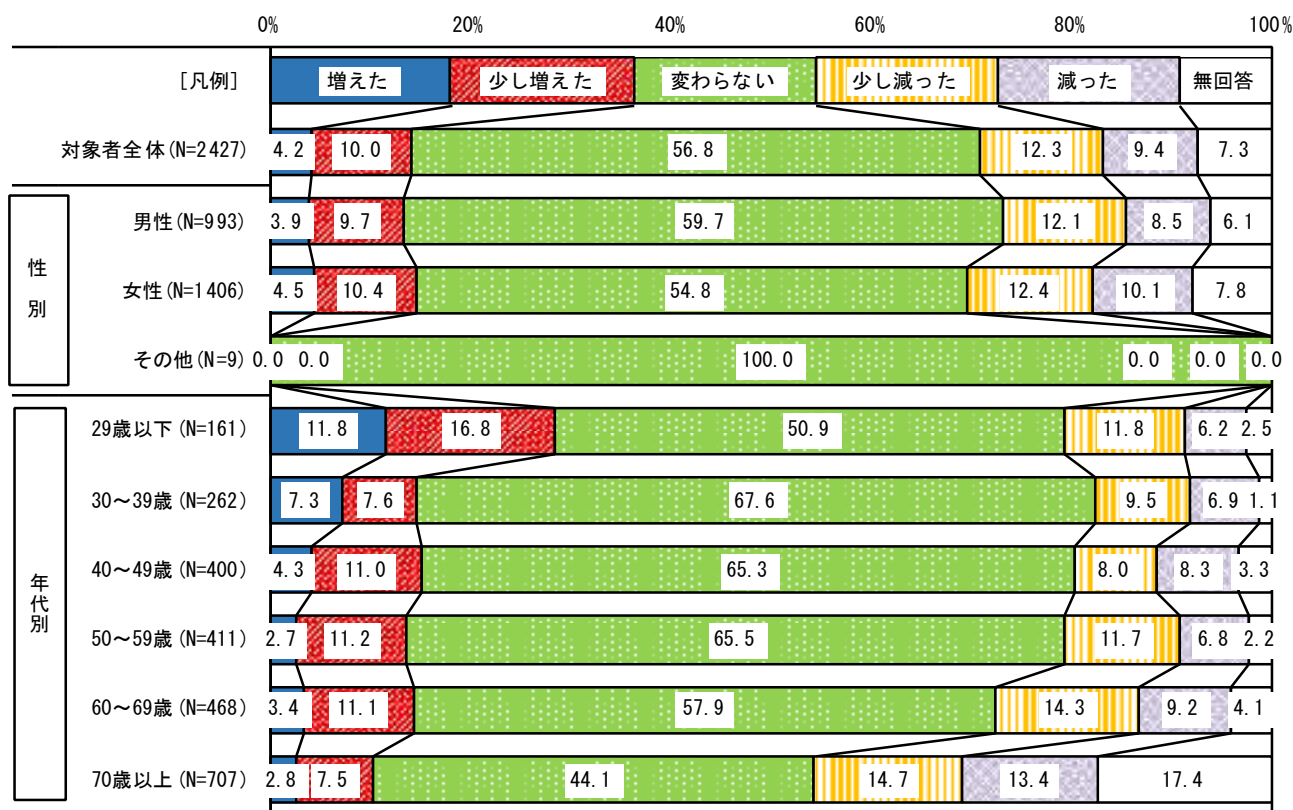
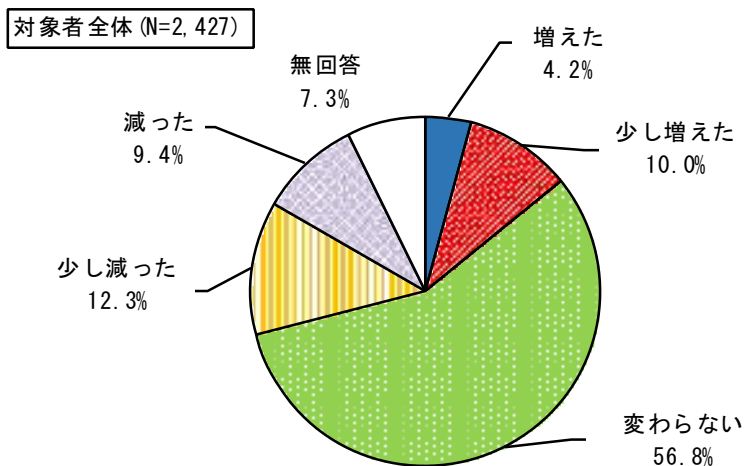
◇新型コロナウイルス感染拡大前と現在の行動頻度の変化

問 2 5 あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大前と現在を比較して、次に掲げる行動の頻度がどのように変化しましたか。ア～クについて、1つずつ選んで○をつけてください。

オ 歩く時間や距離

歩く時間や距離は「変わらない」が 56.8%

※ “増えた”（「増えた」＋「少し増えた」）、“減った”（「少し減った」＋「減った」）



【全 体】 歩く時間や距離は、“増えた”が 14.2%、「変わらない」が 56.8%、“減った”が 21.7%となっている。

【性 別】 男女で大きな差は見られない。

【年代別】 「変わらない」が 30 歳代 (67.6%) で最も高く、最も低い 70 歳以上 (44.1%) と比べると 23.5 ポイントの差となっている。

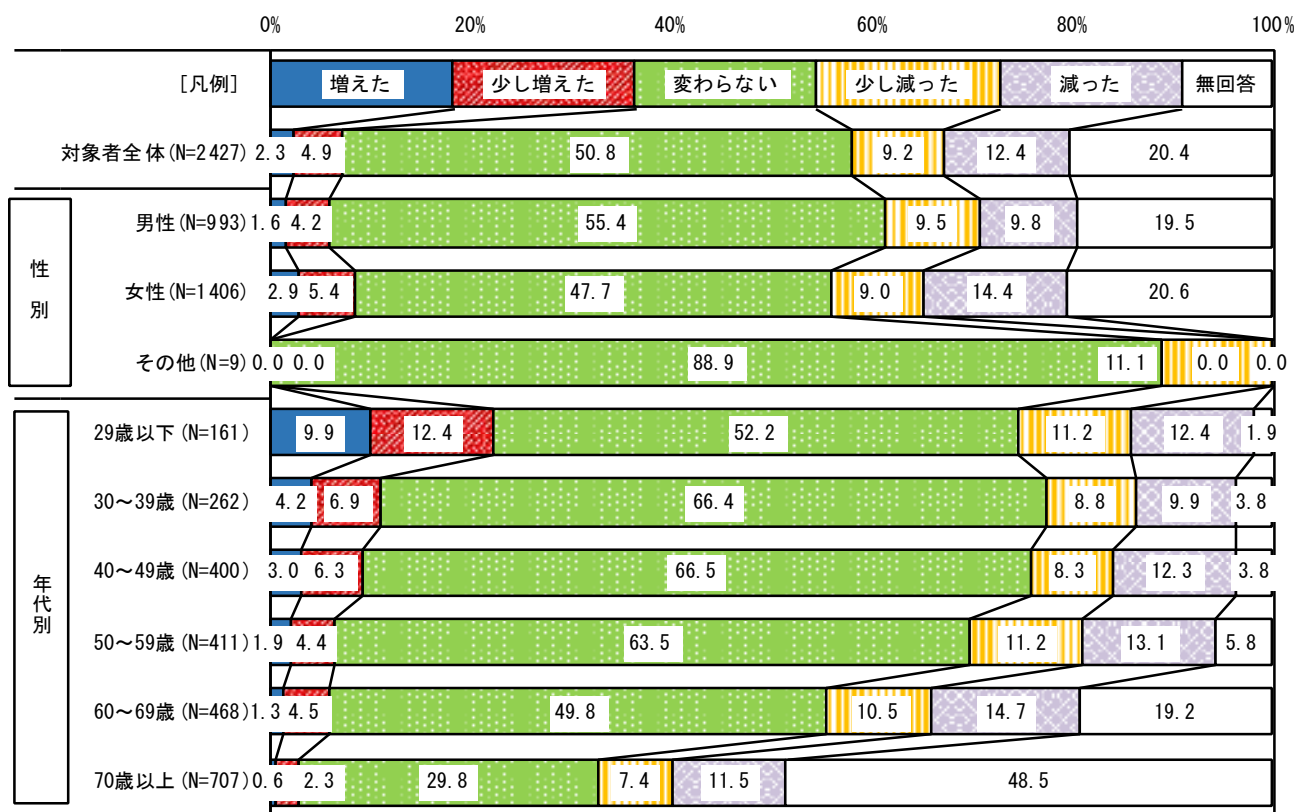
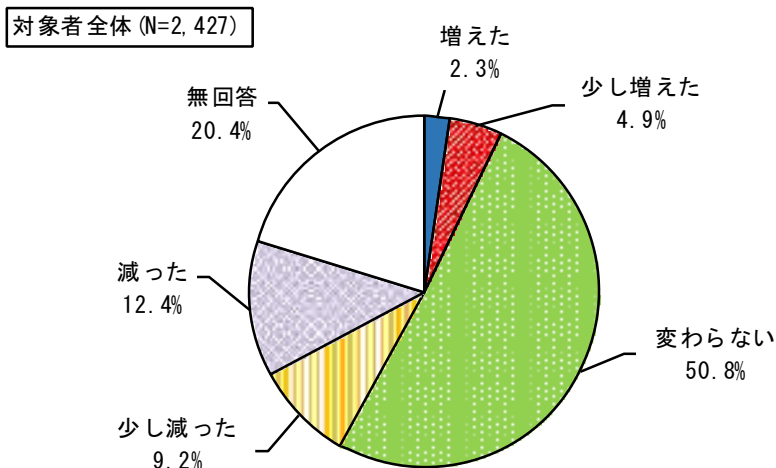
◇新型コロナウイルス感染拡大前と現在の行動頻度の変化

問 2 5 あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大前と現在を比較して、次に掲げる行動の頻度がどのように変化しましたか。ア～クについて、1つずつ選んで○をつけてください。

カ 習い事や趣味活動

習い事や趣味活動の頻度は「変わらない」が50.8%

※ “増えた”（「増えた」＋「少し増えた」）、“減った”（「少し減った」＋「減った」）



【全 体】習い事や趣味活動の頻度は、“増えた”が7.3%、「変わらない」が50.8%、「減った」が21.5%となっている。

【性 別】「変わらない」は、男性が55.4%と、女性の47.7%より7.7ポイント高くなっている。

【年代別】「増えた」は年代が下がるにつれて割合が高くなっている。

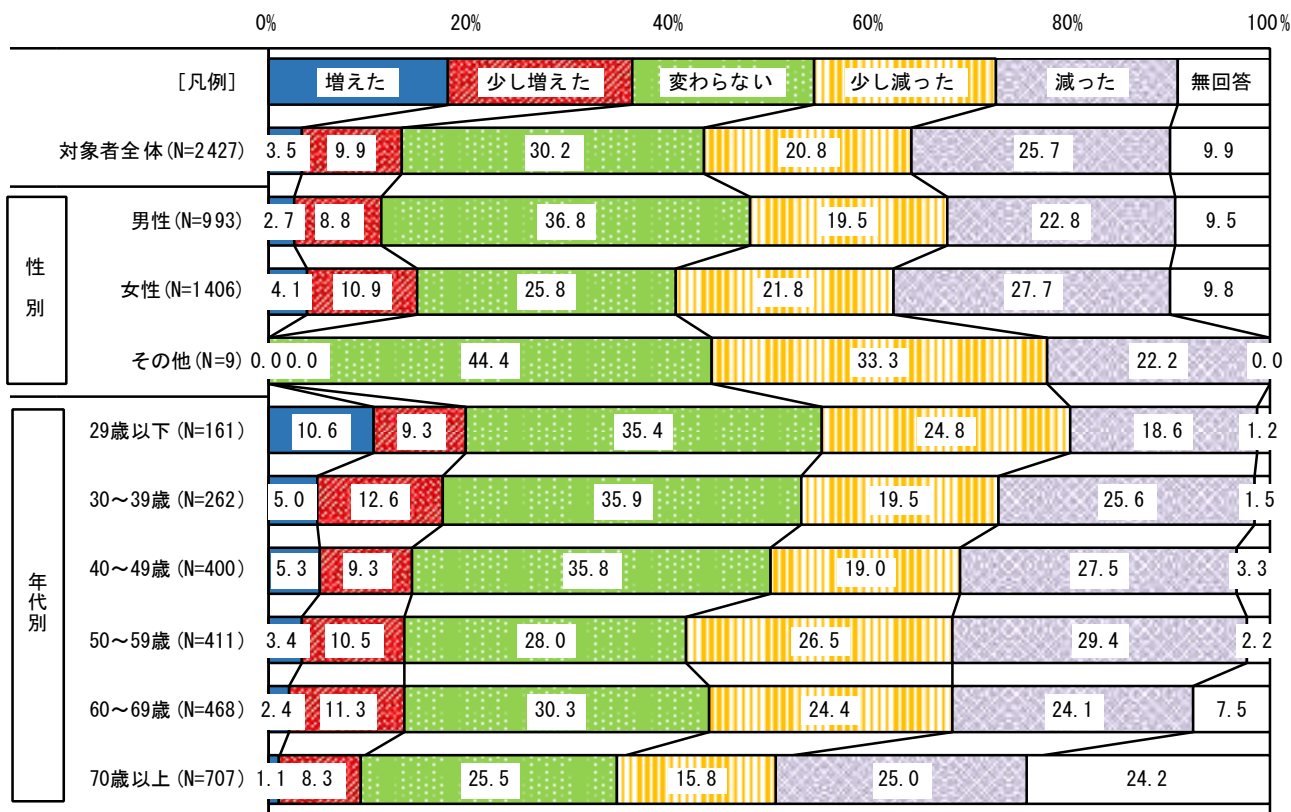
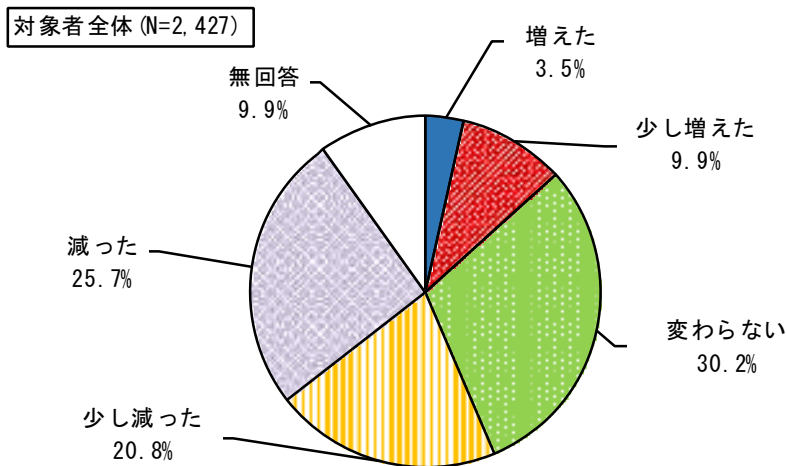
◇新型コロナウイルス感染拡大前と現在の行動頻度の変化

問 2 5 あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大前と現在を比較して、次に掲げる行動の頻度がどのように変化しましたか。ア～クについて、1つずつ選んで○をつけてください。

キ 人との交流の機会

人との交流の機会は“減った”が46.5%

※ “増えた”（「増えた」＋「少し増えた」）、“減った”（「少し減った」＋「減った」）



【全 体】人との交流の機会は、“増えた”が13.4%、「変わらない」が30.2%、“減った”が46.5%となっている。

【性 別】「変わらない」は、男性が36.8%と、女性の25.8%より11.0ポイント高くなっている。

【年代別】「変わらない」が30歳代（35.9%）で最も高く、最も低い70歳以上（25.5%）と比べると10.4ポイントの差となっている。

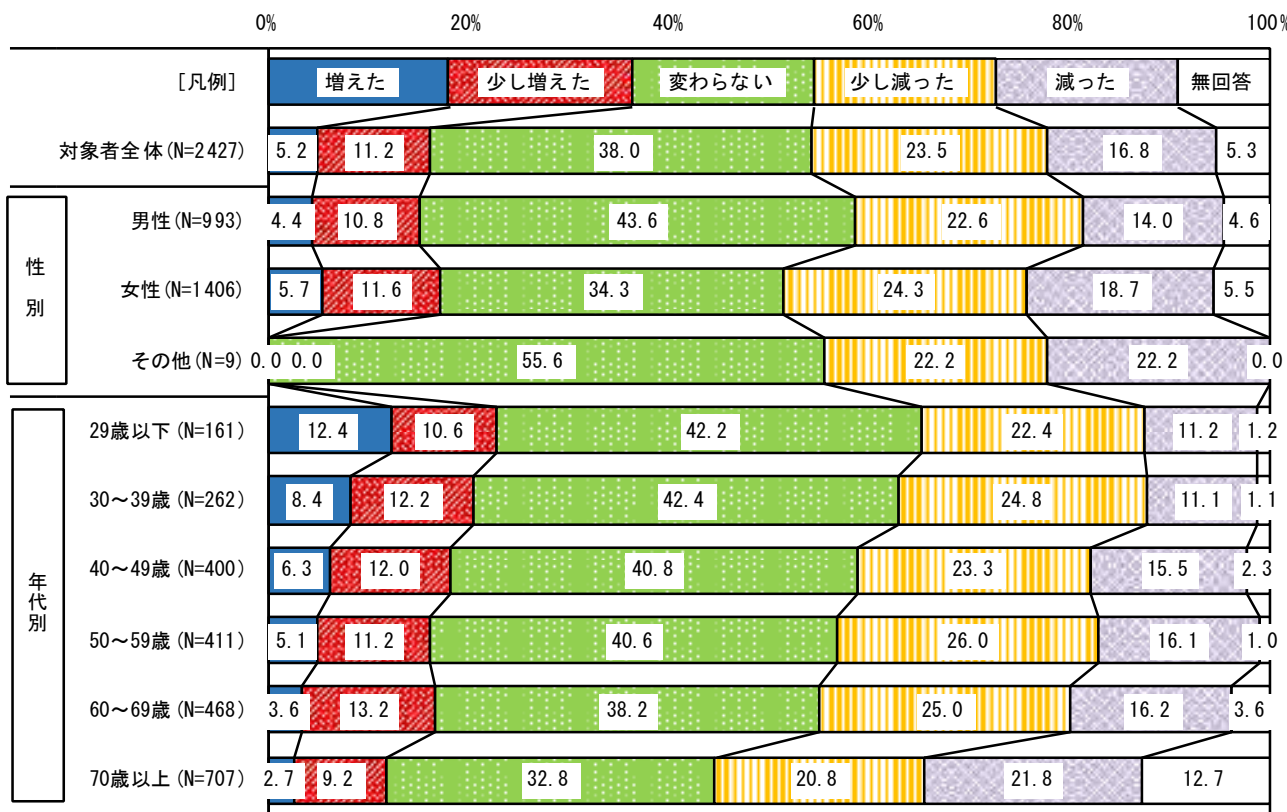
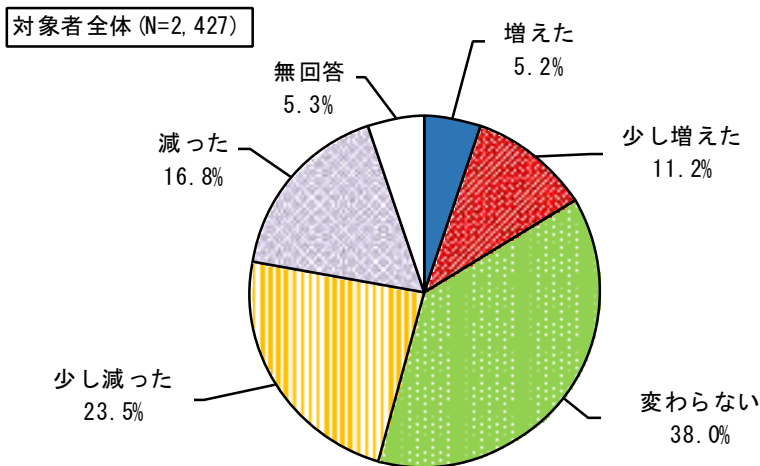
◇新型コロナウイルス感染拡大前と現在の行動頻度の変化

問 2 5 あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大前と現在を比較して、次に掲げる行動の頻度がどのように変化しましたか。ア～クについて、1つずつ選んで○をつけてください。

ク 外出の機会

外出の機会は“減った”が40.3%

※ “増えた”（「増えた」＋「少し増えた」）、“減った”（「少し減った」＋「減った」）



【全 体】外出の機会は、“増えた”が16.4%、「変わらない」が38.0%、“減った”が40.3%になっている。

【性 別】「変わらない」は、男性が43.6%と、女性の34.3%より9.3ポイント高くなっている。

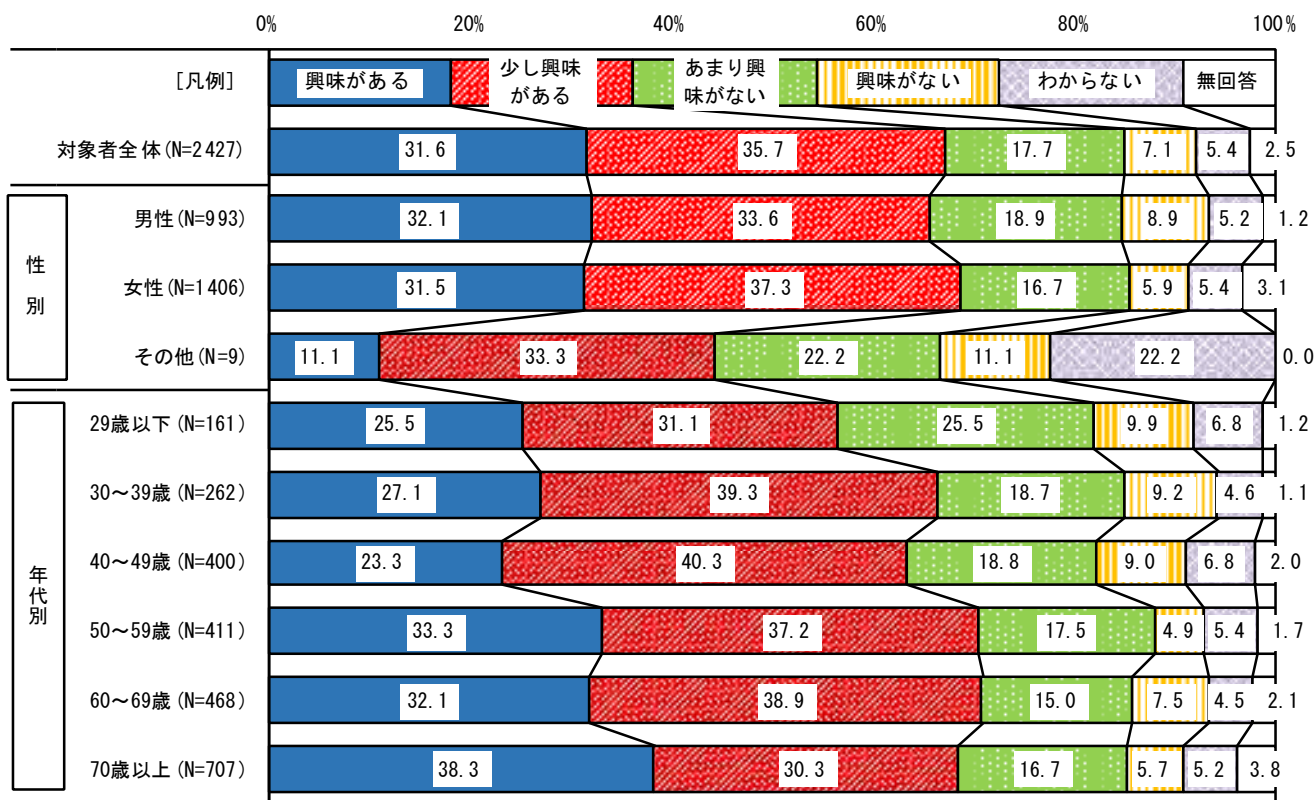
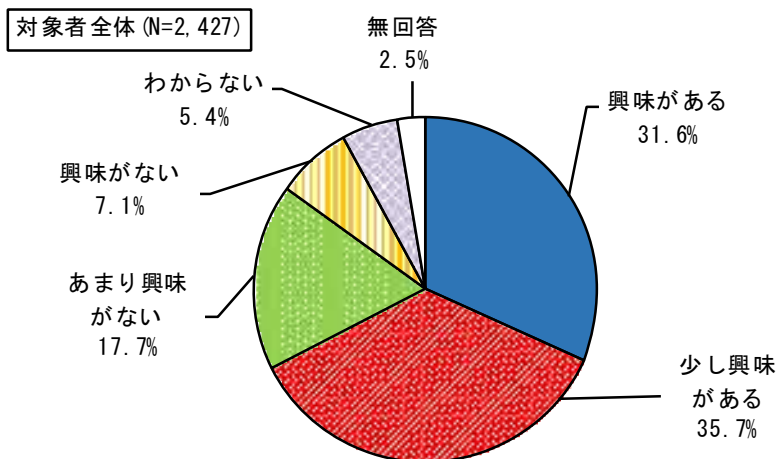
【年代別】「増えた」は年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

◇健康寿命の延伸につながる取り組みへの興味の有無

問 2 6 あなたは、適度な運動や人との交流など、「健康寿命の延伸」につながると考えられる取り組みに興味がありますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

健康寿命の延伸につながる取り組みへの興味の有無は“興味がある”が67.4%

※ “興味がある”（「興味がある」＋「少し興味がある」）、“興味がない”（「あまり興味がない」＋「興味がない」）



【全 体】健康寿命の延伸につながる取り組みへの興味の有無は、「少し興味がある」が35.7%、「興味がある」が31.6%、合わせると67.4%となっている。一方、「あまり興味がない」が17.7%、「興味がない」が7.1%、合わせると24.8%となっている。

【性 別】男女で大きな差は見られない。

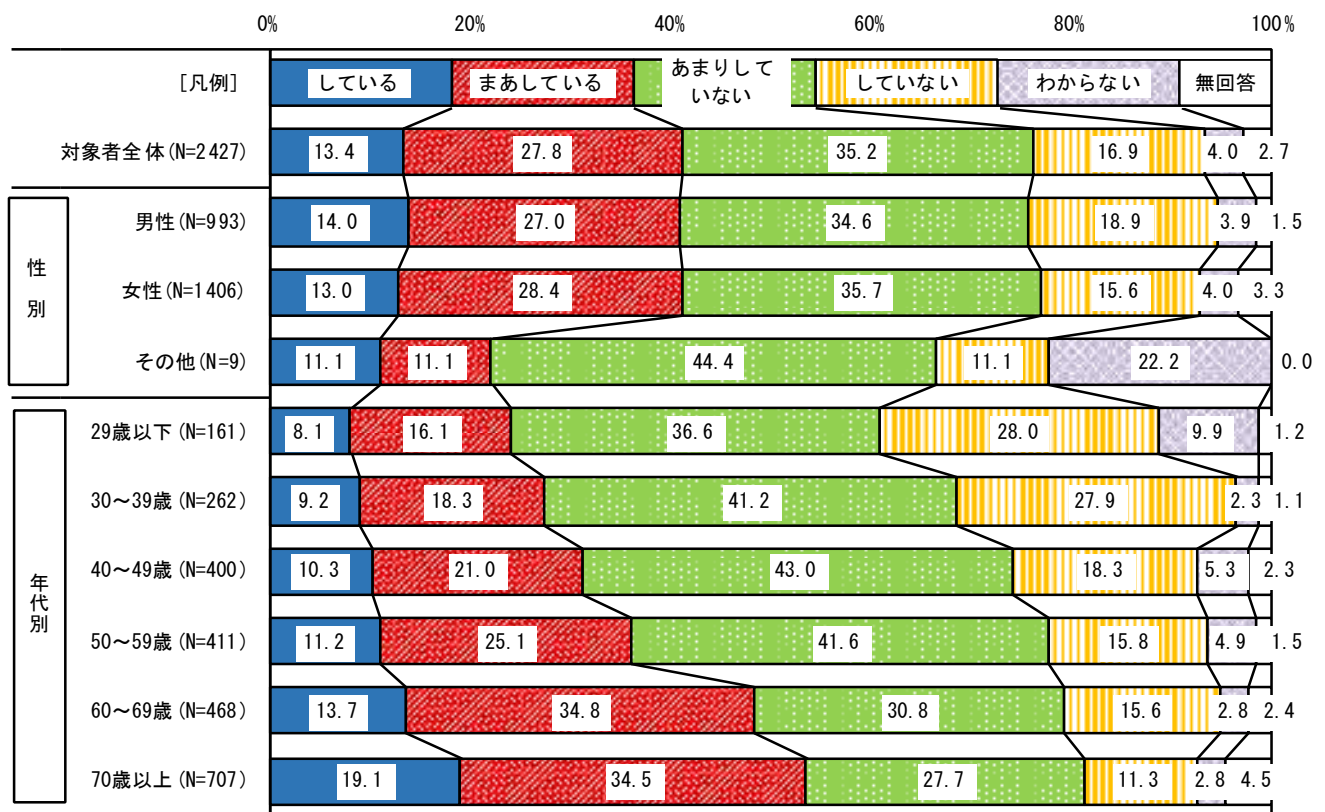
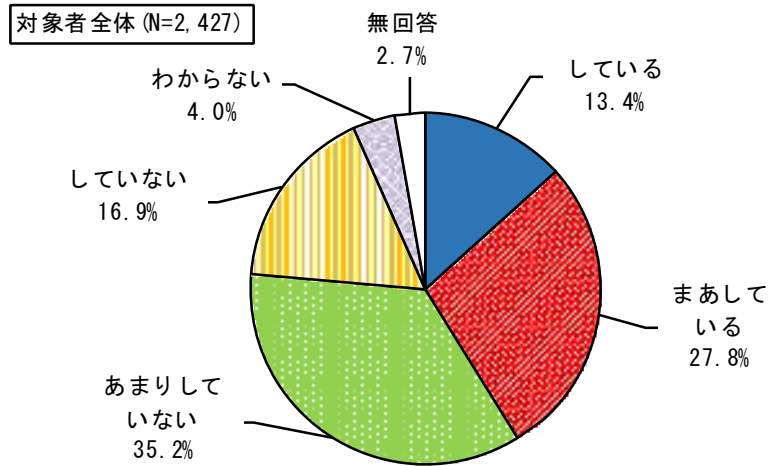
【年代別】「興味がある」が70歳以上(38.3%)で最も高く、次いで50歳代(33.3%)、60歳代(32.1%)となっている。

◇健康寿命の延伸を意識した行動の有無

問 2 7 あなたは、普段から「健康寿命の延伸」を意識した行動をしていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

健康寿命の延伸を意識した行動の有無は“行動している”が41.2%

※ “行動している”（「している」＋「まあしている」）、“行動していない”（「あまりしていない」＋「していない」）



【全 体】健康寿命の延伸を意識した行動の有無は、「している」が13.4%、「まあしている」が27.8%、合わせると41.2%となっている。一方、「あまりしていない」が35.2%、「していない」16.9%、合わせると52.1%となっている。

【性 別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】“行動している”は年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

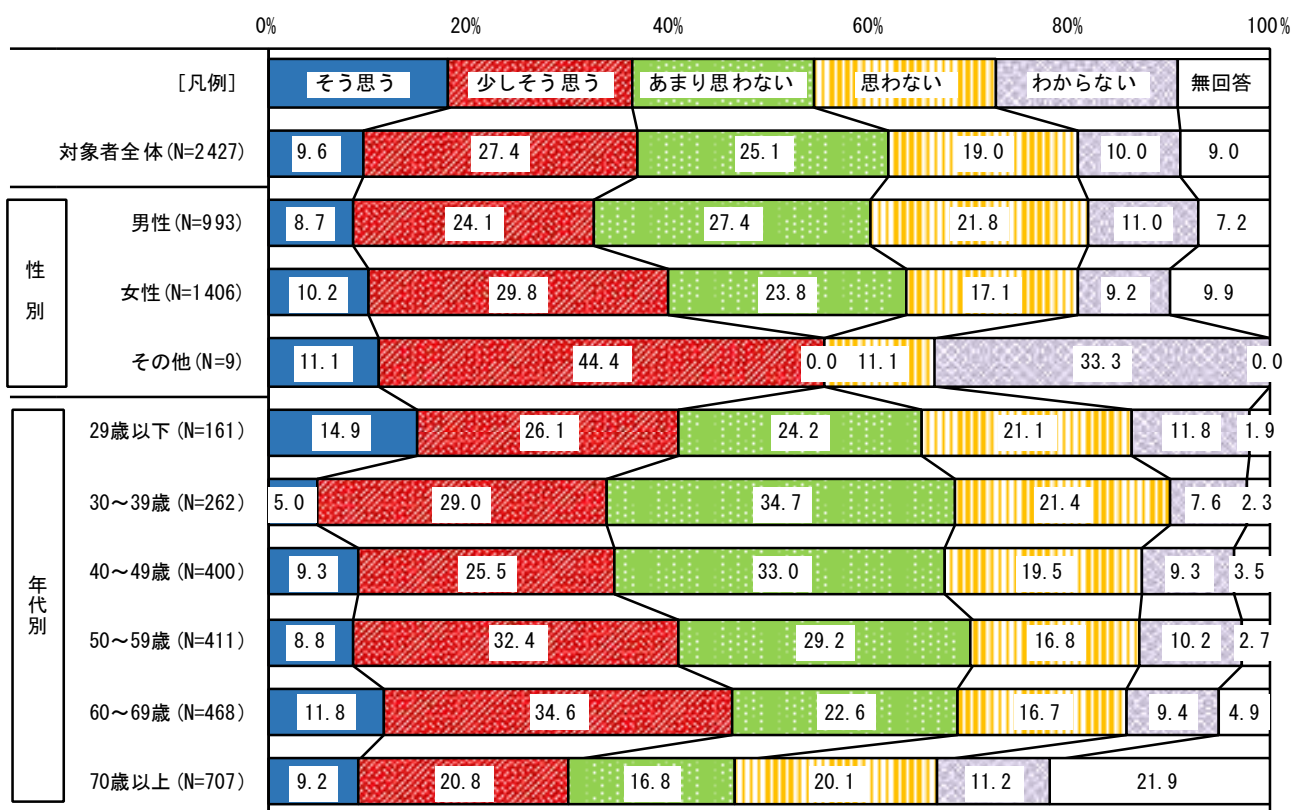
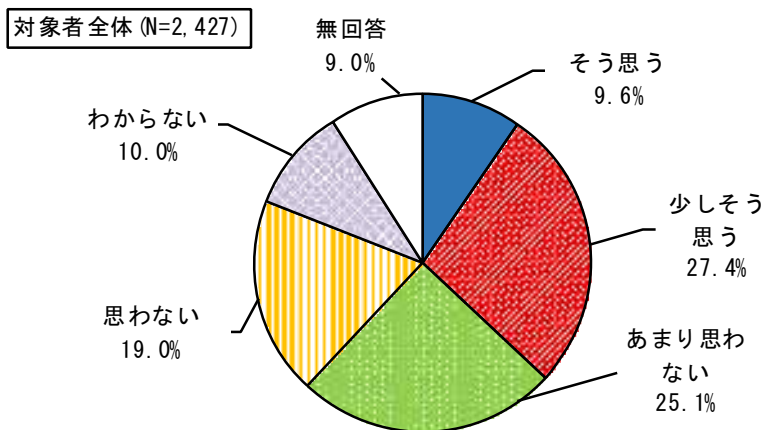
◇きっかけや働きかけがあれば行うと思う取り組みについて

問 2 8 あなたは、「健康寿命の延伸」につながると考えられる取り組みについて、きっかけや札幌市役所などの行政から何かの働きかけがあれば、行動の回数をさらに増やしたり、新たに始めたりしたいと思いませんか。ア～キについて、1つずつ選んで○をつけてください。

ア ボランティアなど社会貢献活動に参加すること

きっかけや働きかけがあれば、ボランティアなど社会貢献活動に参加すると“思う”が37.0%

※ “思う”（「そう思う」＋「少し思う」）



【全 体】健康寿命の延伸のためにボランティアなど社会貢献活動に参加することは、「少し思う」が27.4%、「あまり思わない」が25.1%となっている。

【性 別】「少し思う」は、女性が29.8%と、男性の24.1%より5.7ポイント高くなっている。

【年代別】「そう思う」が29歳以下(14.9%)で最も高く、次いで60歳代(11.8%)、40歳代(9.3%)となっている。

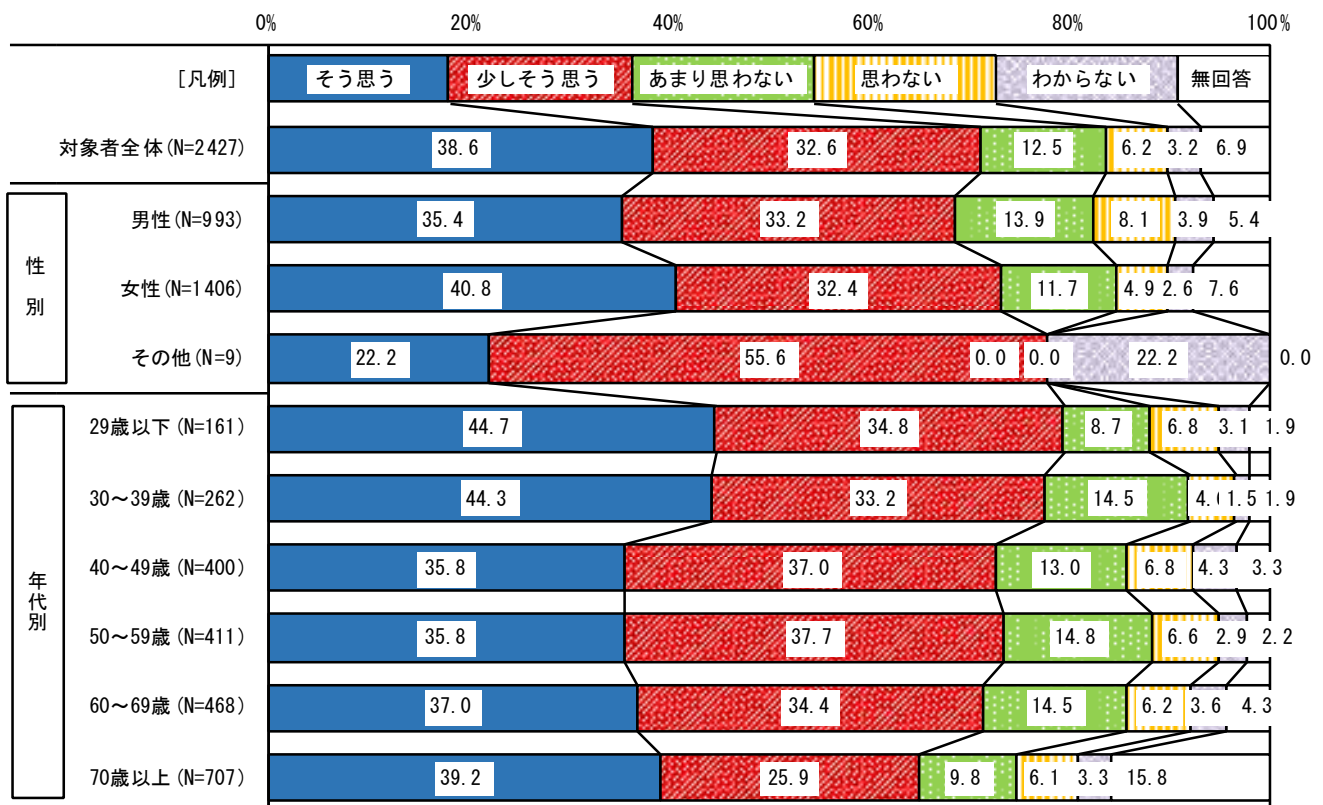
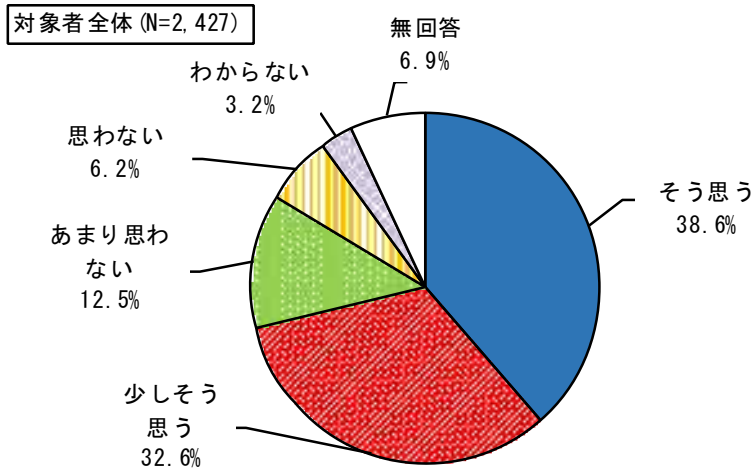
◇きっかけや働きかけがあれば行うと思う取り組みについて

問 2 8 あなたは、「健康寿命の延伸」につながると考えられる取り組みについて、きっかけや札幌市役所などの行政から何かの働きかけがあれば、行動の回数をさらに増やしたり、新たに始めたりしたいと思いませんか。ア～キについて、1つずつ選んで○をつけてください。

イ 定期的に健診や検診を受けること

きっかけや働きかけがあれば、定期的に健診や検診を受けると“思う”が71.2%

※ “思う”（「そう思う」＋「少しそう思う」）



【全 体】健康寿命の延伸のために定期的に健診や検診を受けることは、「そう思う」が 38.6%、「少しそう思う」が 32.6%となっている。

【性 別】「そう思う」は、女性が 40.8%と、男性の 35.4%より 5.4 ポイント高くなっている。

【年代別】「そう思う」が 29 歳以下 (44.7%) で最も高く、次いで 30 歳代 (44.3%)、70 歳以上 (39.2%) となっている。

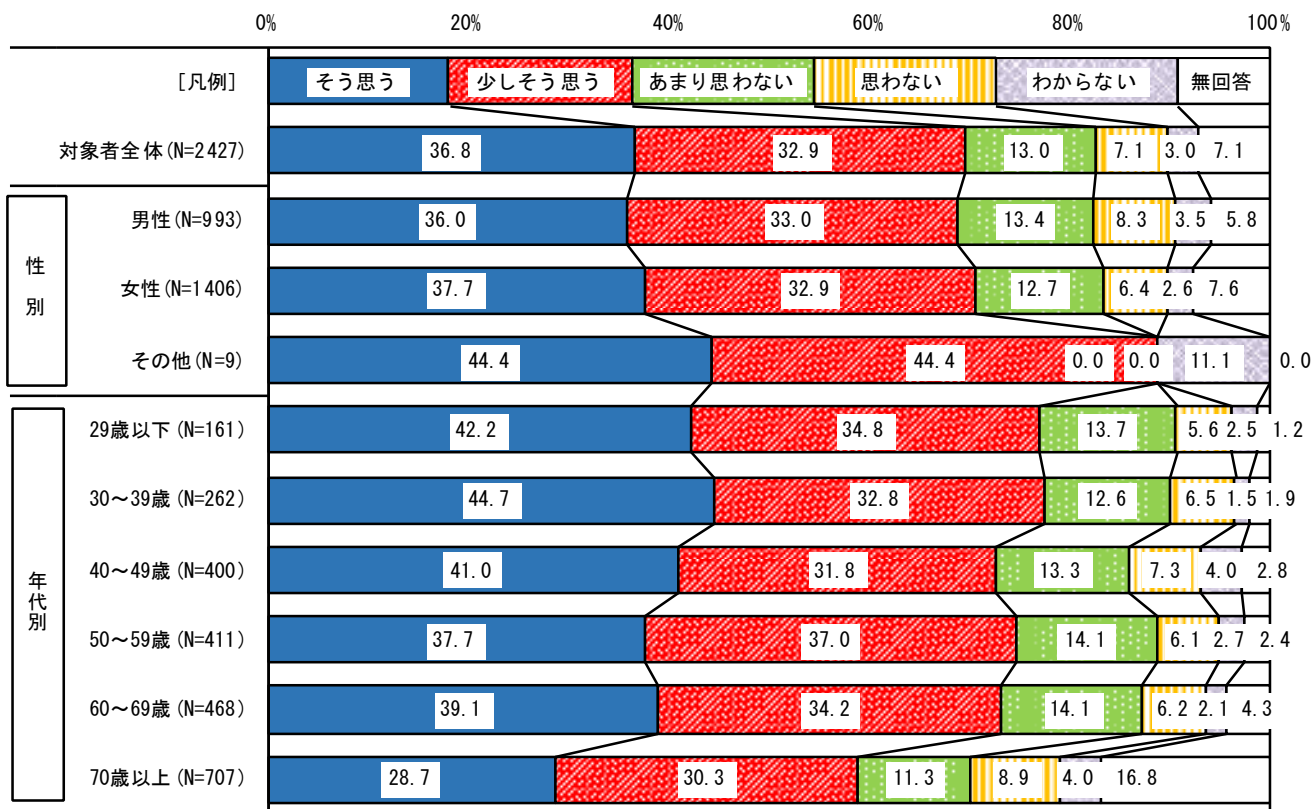
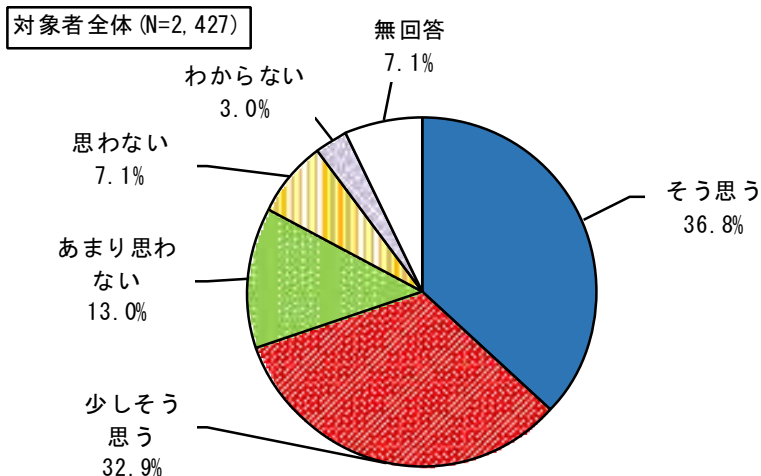
◇きっかけや働きかけがあれば行うと思う取り組みについて

問 2 8 あなたは、「健康寿命の延伸」につながると考えられる取り組みについて、きっかけや札幌市役所などの行政から何かの働きかけがあれば、行動の回数をさらに増やしたり、新たに始めたりしたいと思いませんか。ア～キについて、1つずつ選んで○をつけてください。

ウ 運動・スポーツをすること

きっかけや働きかけがあれば、運動・スポーツをすると“思う”が69.8%

※ “思う”（「そう思う」＋「少しそう思う」）



【全 体】健康寿命の延伸のために運動・スポーツをすることは、「そう思う」が36.8%、「少しそう思う」が32.9%となっている。

【性 別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「そう思う」が30歳代(44.7%)で最も高く、次いで29歳以下(42.2%)、40歳代(41.0%)となっている。

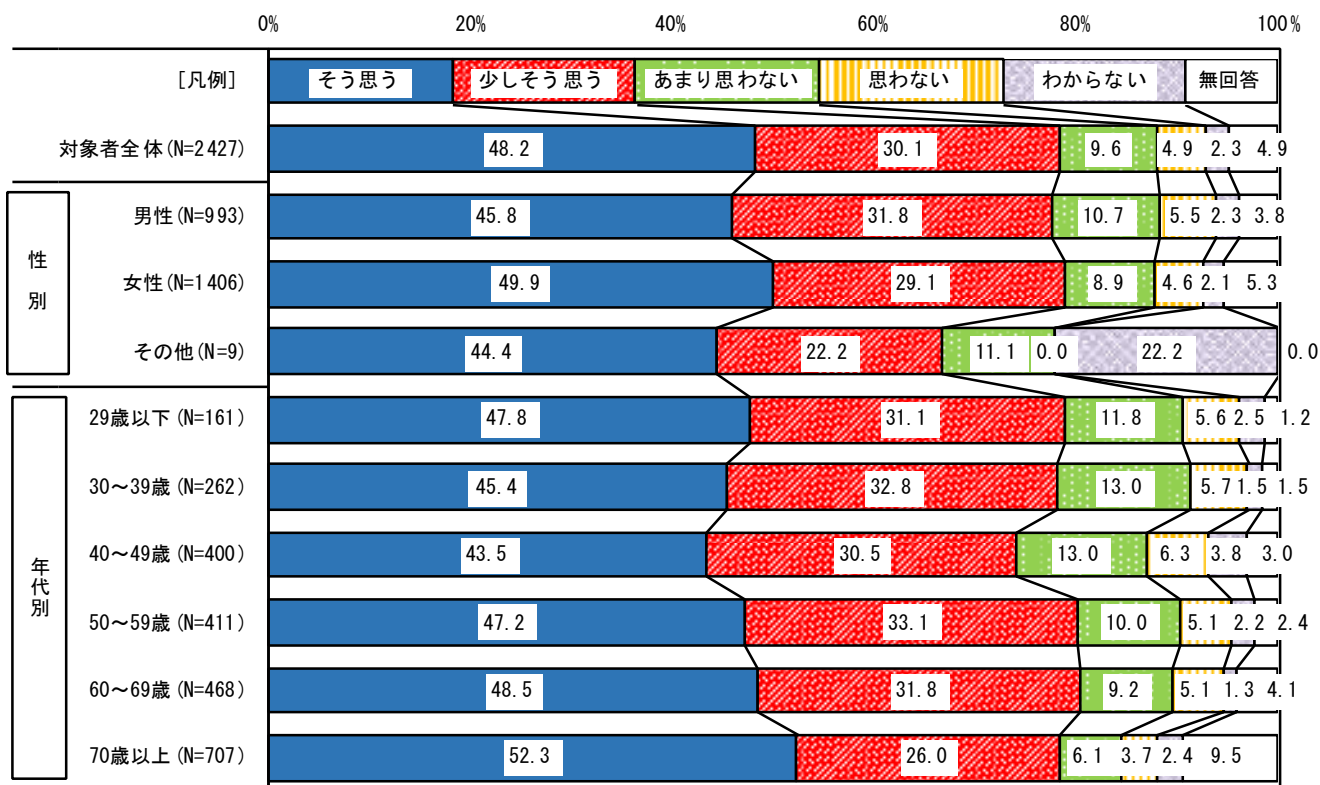
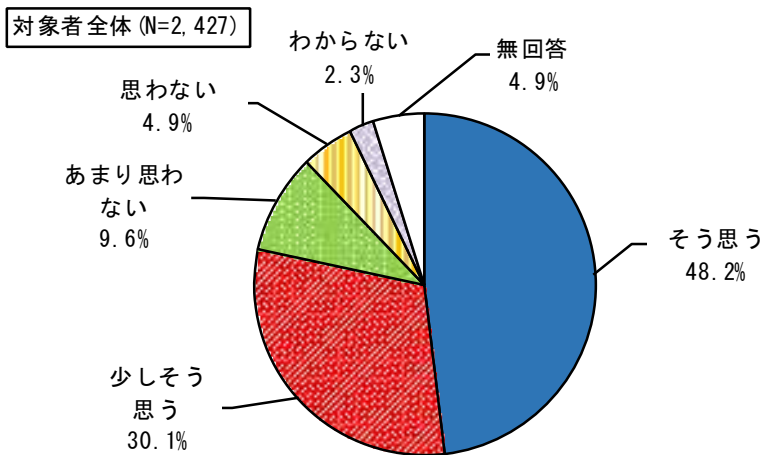
◇きっかけや働きかけがあれば行うと思う取り組みについて

問 2 8 あなたは、「健康寿命の延伸」につながると考えられる取り組みについて、きっかけや札幌市役所などの行政から何かの働きかけがあれば、行動の回数をさらに増やしたり、新たに始めたりしたいと思いませんか。ア～キについて、1つずつ選んで○をつけてください。

エ 歩くこと

きっかけや働きかけがあれば、歩くことが増えると“思う”が 78.3%

※ “思う”（「そう思う」＋「少しそう思う」）



【全 体】健康寿命の延伸のために歩くことは、「そう思う」が 48.2%、「少しそう思う」が 30.1%となっている。

【性 別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「そう思う」が 70 歳以上 (52.3%) で最も高く、次いで 60 歳代 (48.5%)、29 歳以下 (47.8%) となっている。

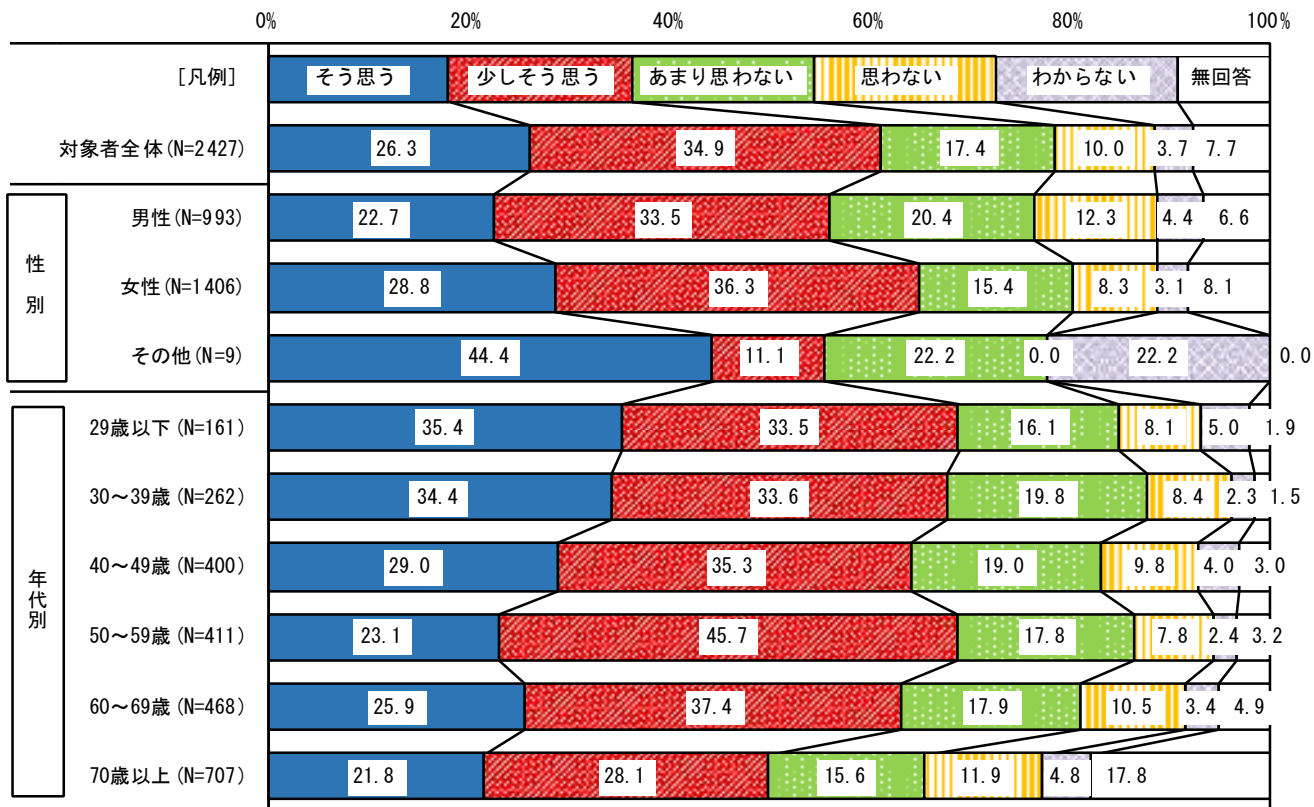
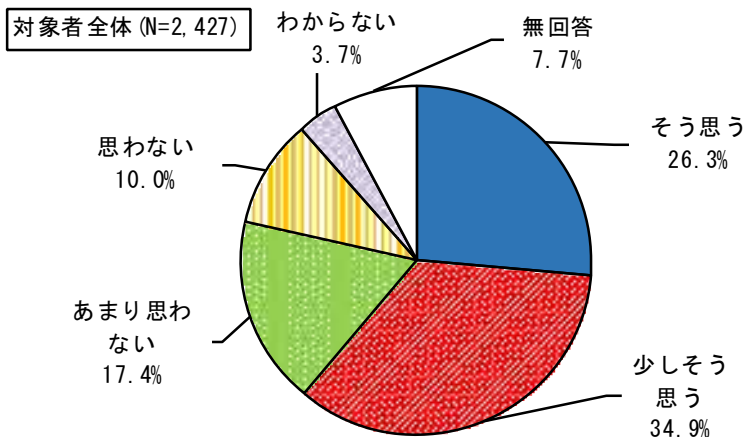
◇きっかけや働きかけがあれば行うと思う取り組みについて

問 2 8 あなたは、「健康寿命の延伸」につながると考えられる取り組みについて、きっかけや札幌市役所などの行政から何かの働きかけがあれば、行動の回数をさらに増やしたり、新たに始めたりしたいと思いませんか。ア～キについて、1つずつ選んで○をつけてください。

オ 習い事や趣味活動をする事

きっかけや働きかけがあれば、習い事や趣味活動をすると“思う”が61.2%

※ “思う”（「そう思う」＋「少しそう思う」）



【全体】健康寿命の延伸のために習い事や趣味活動をする事は、「少しそう思う」が34.9%、「そう思う」が26.3%となっている。

【性別】「あまり思わない」は、男性が20.4%と、女性の15.4%より5.0ポイント高くなっている。また、「そう思う」は、女性が28.8%と、男性の22.7%より6.1ポイント高くなっている。

【年代別】「少しそう思う」が50歳代（45.7%）で最も高く、最も低い70歳以上（28.1%）と比べると17.6ポイントの差となっている。

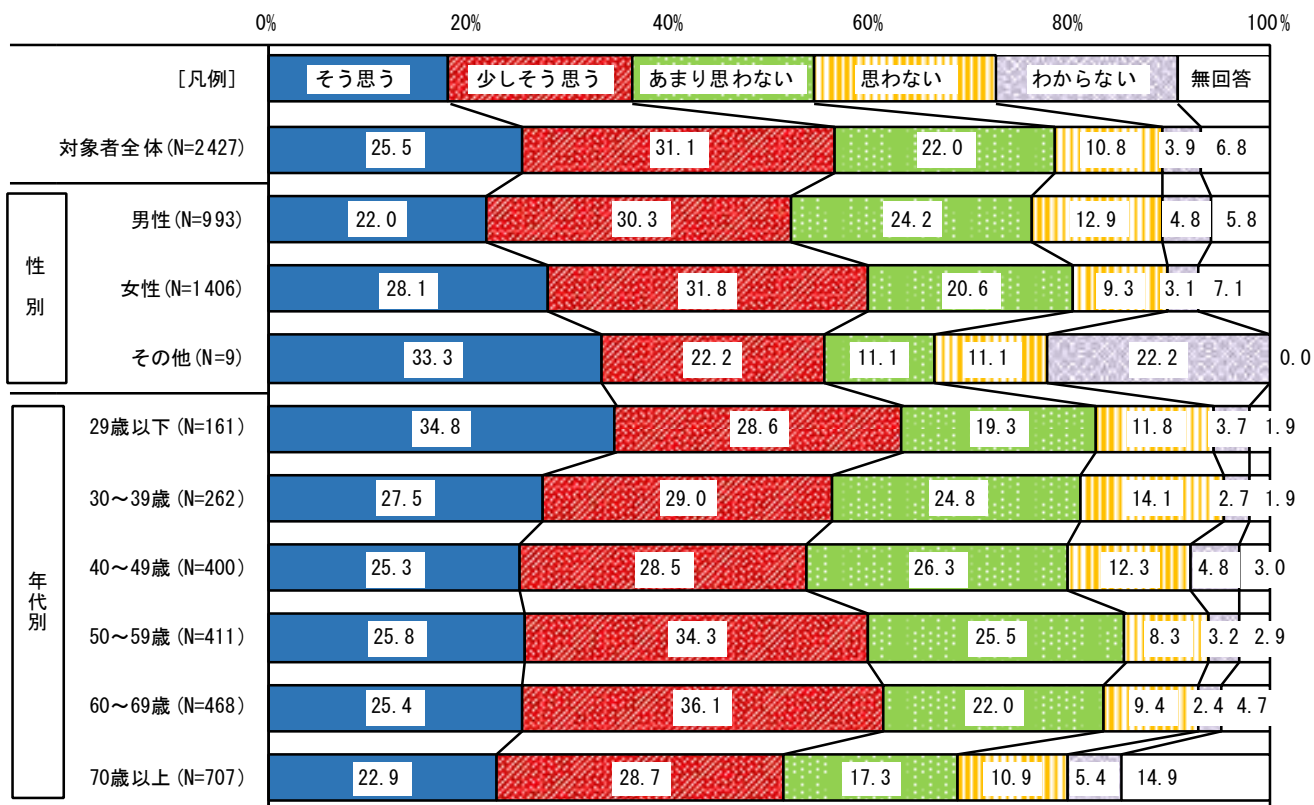
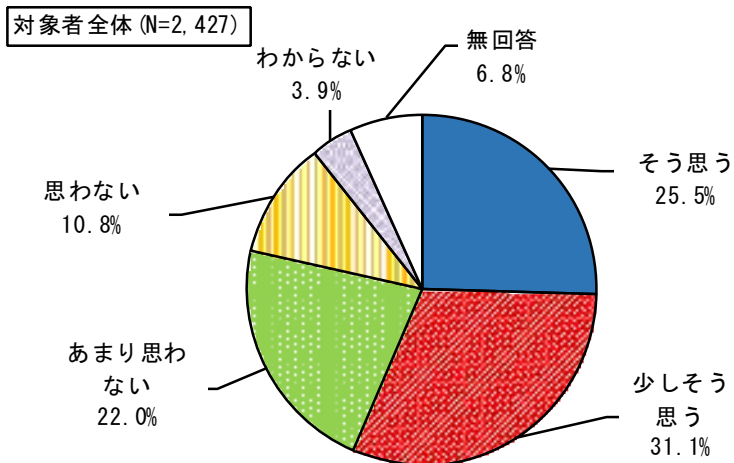
◇きっかけや働きかけがあれば行うと思う取り組みについて

問 2 8 あなたは、「健康寿命の延伸」につながると考えられる取り組みについて、きっかけや札幌市役所などの行政から何かの働きかけがあれば、行動の回数をさらに増やしたり、新たに始めたりしたいと思いませんか。ア～キについて、1つずつ選んで○をつけてください。

カ 積極的に人と交流すること

きっかけや働きかけがあれば、積極的に人と交流すると“思う”が56.6%

※“思う”（「そう思う」＋「少しそう思う」）



【全 体】健康寿命の延伸のために積極的に人と交流することは、「少しそう思う」が 31.1%、「そう思う」が 25.5%となっている。

【性 別】「そう思う」は、女性が 28.1%と、男性の 22.0%より 6.1 ポイント高くなっている。

【年代別】「そう思う」が 29 歳以下 (34.8%) で最も高く、次いで 30 歳代 (27.5%)、50 歳代 (25.8%) となっている。

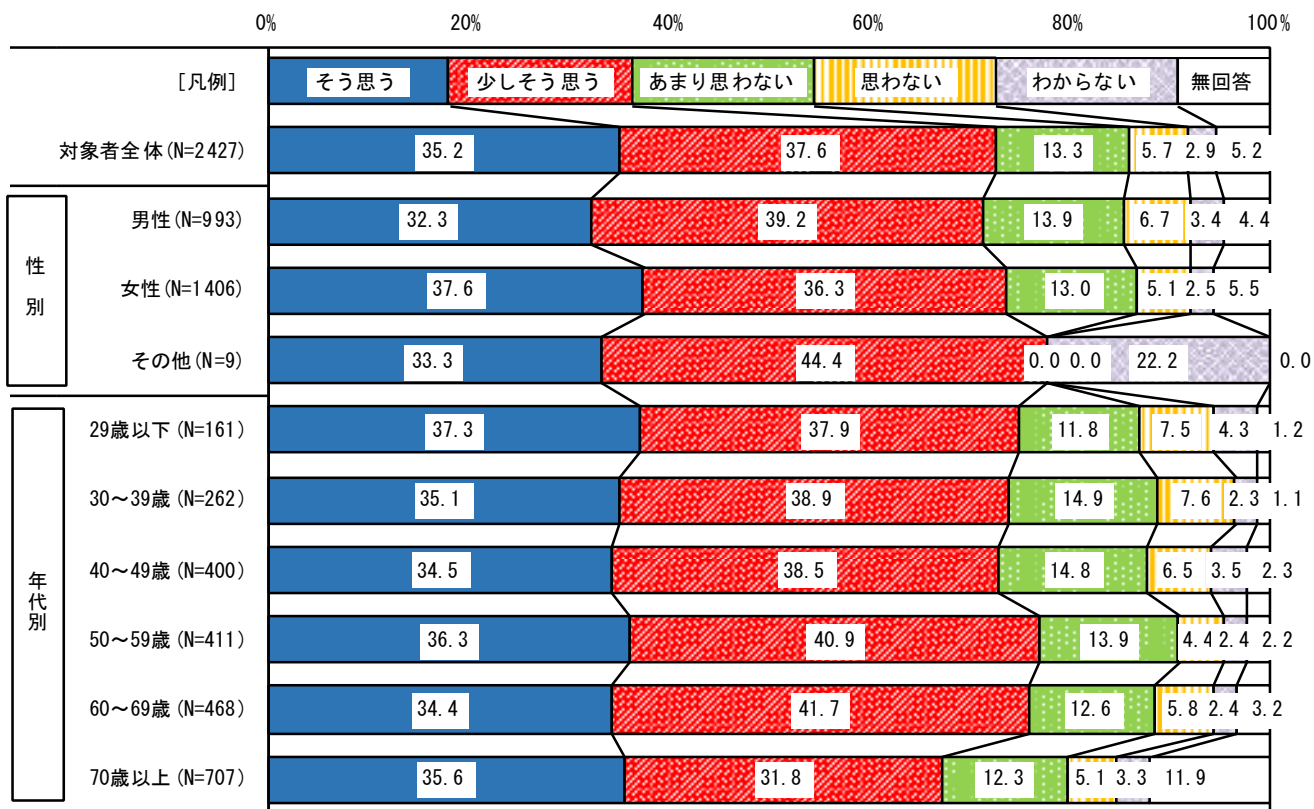
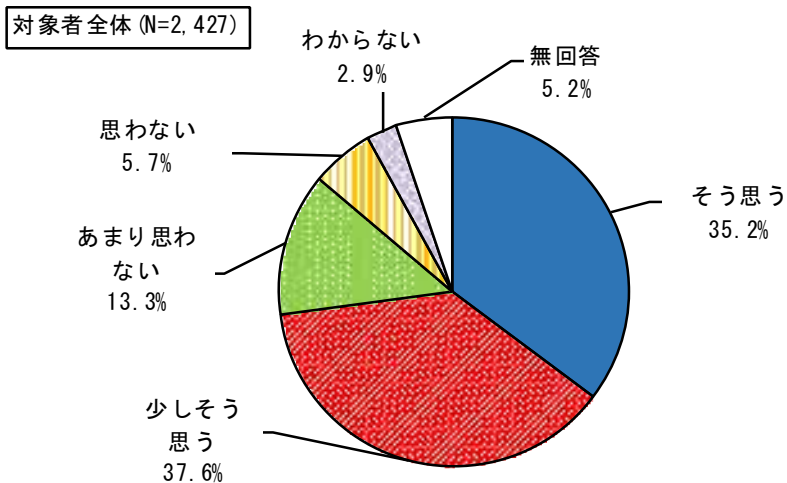
◇きっかけや働きかけがあれば行うと思う取り組みについて

問 2 8 あなたは、「健康寿命の延伸」につながると考えられる取り組みについて、きっかけや札幌市役所などの行政から何かの働きかけがあれば、行動の回数をさらに増やしたり、新たに始めたりしたいと思いますか。ア～キについて、1つずつ選んで○をつけてください。

キ 外出すること

きっかけや働きかけがあれば、外出することが増えると“思う”が72.8%

※ “思う”（「そう思う」＋「少しそう思う」）



【全 体】健康寿命の延伸のために外出することは、「少しそう思う」が37.6%、「そう思う」が35.2%となっている。

【性 別】「そう思う」は、女性が37.6%と、男性の32.3%より5.3ポイント高くなっている。

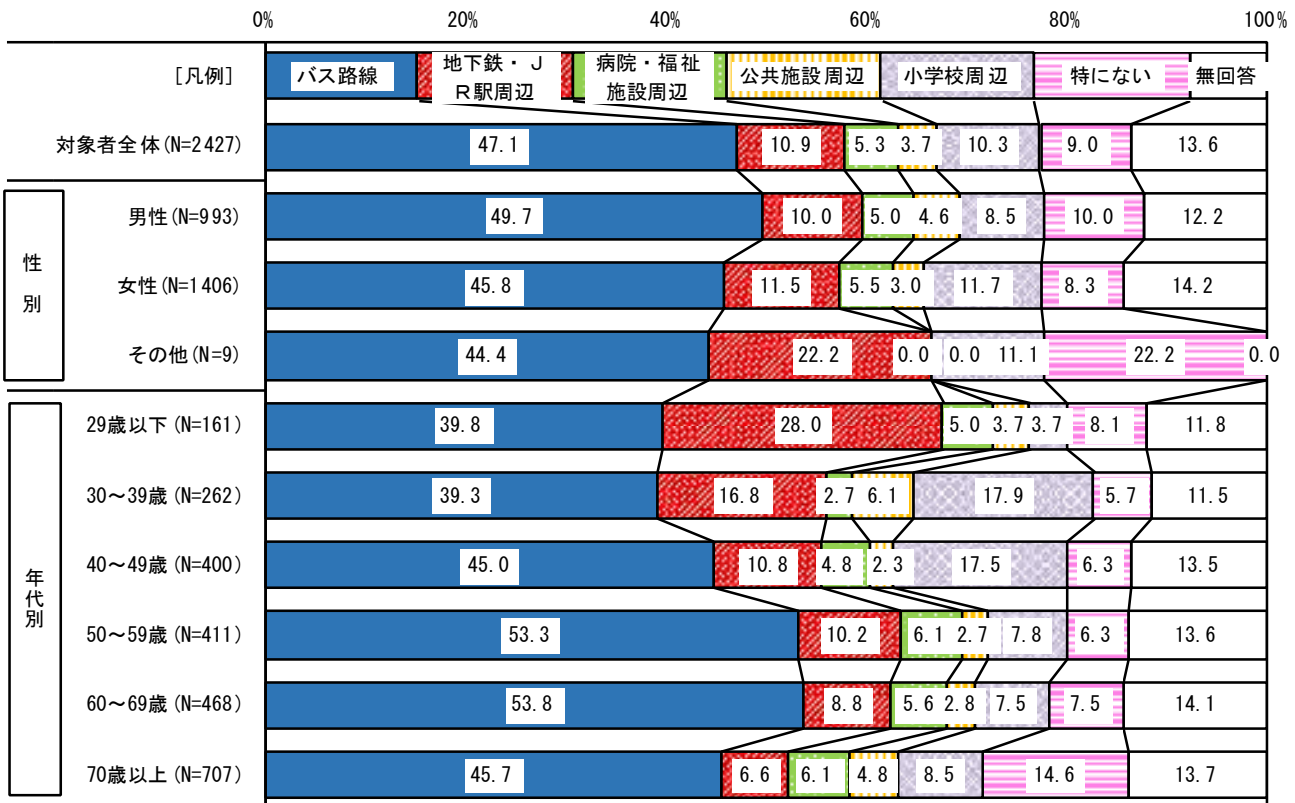
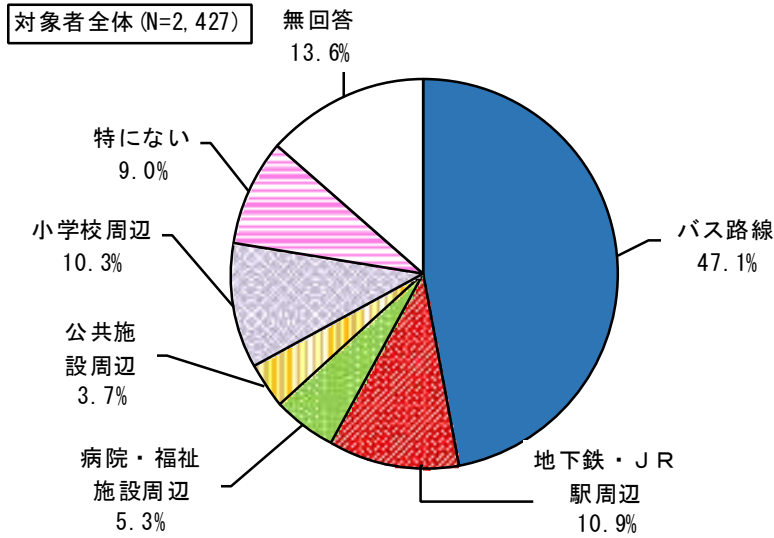
【年代別】「そう思う」が29歳以下（37.3%）で最も高く、次いで50歳代（36.3%）、70歳以上（35.6%）となっている。

(5) 雪対策に関する取り組みについて

◇札幌市で除雪を強化している道路・場所のうち、力を入れてほしい道路・場所

問 2 9 札幌市では、交通量や公共交通の利便性を考え、以下の通り、皆さまにより多く利用される道路・場所の除雪を強化しています。次のうち、あなたが今後最も力を入れてほしいと思う道路・場所はどこですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

除雪に力を入れてほしい道路・場所は「バス路線」が 47.1%



【全 体】 除雪に力を入れてほしい道路・場所は、「バス路線」が 47.1%、「地下鉄・JR 駅周辺」が 10.9%となっている。

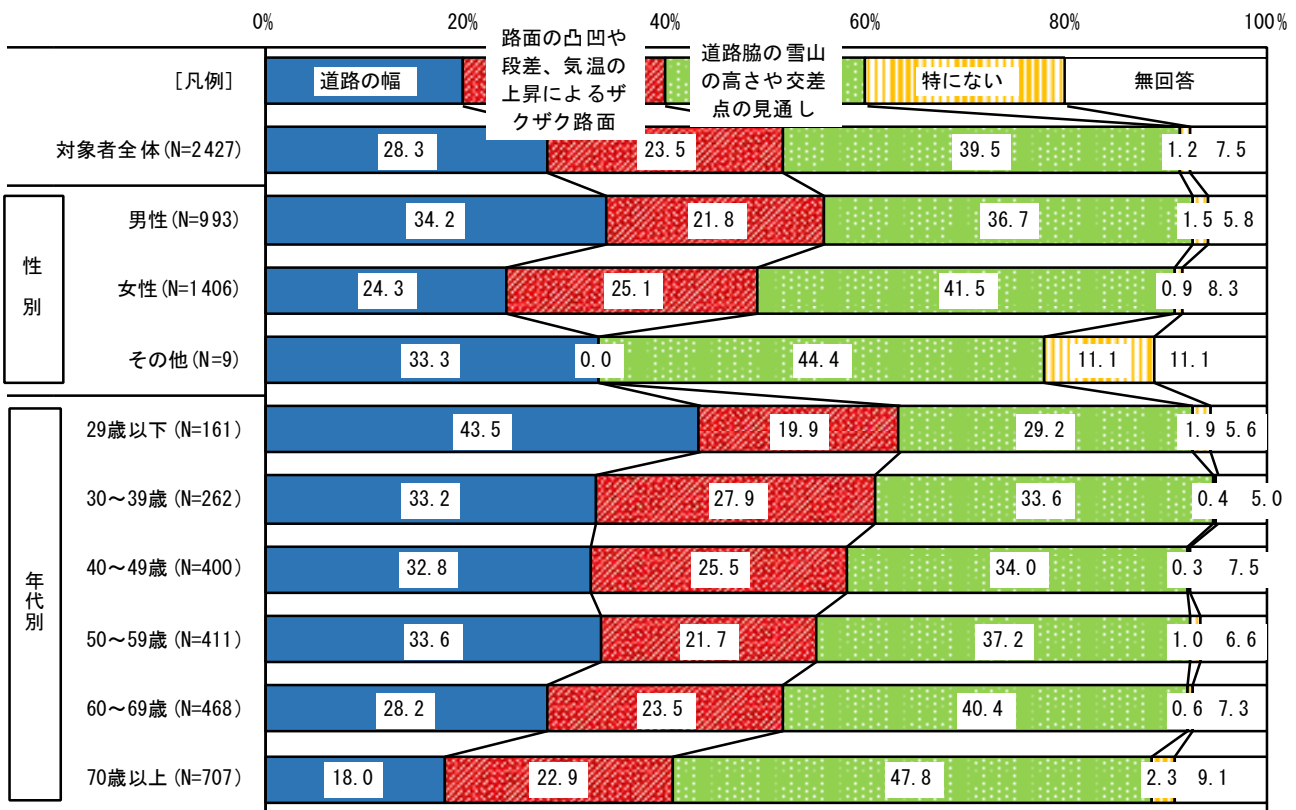
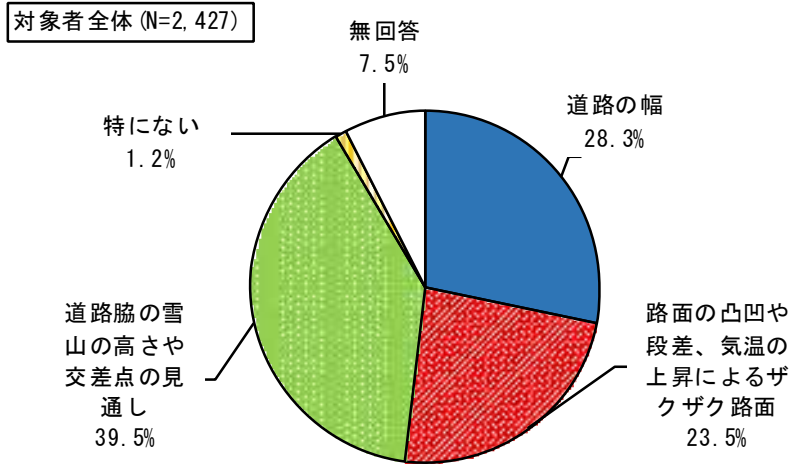
【性 別】 男女で大きな差は見られない。

【年代別】 「地下鉄・JR 駅周辺」は年代が下がるにつれて割合が高くなっている。

◇冬期間の生活道路の状況改善のために重視すべき点

問30 冬期間の生活道路の状況をより良くするために、以下のうちあなたが最も重視すべきだと思うものは何ですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

冬期間の生活道路の状況改善のために重視すべき点は「道路脇の雪山の高さや交差点の見通し」が39.5%



【全体】冬期間の生活道路の状況改善のために重視すべき点は、「道路脇の雪山の高さや交差点の見通し」が39.5%、「道路の幅」が28.3%となっている。

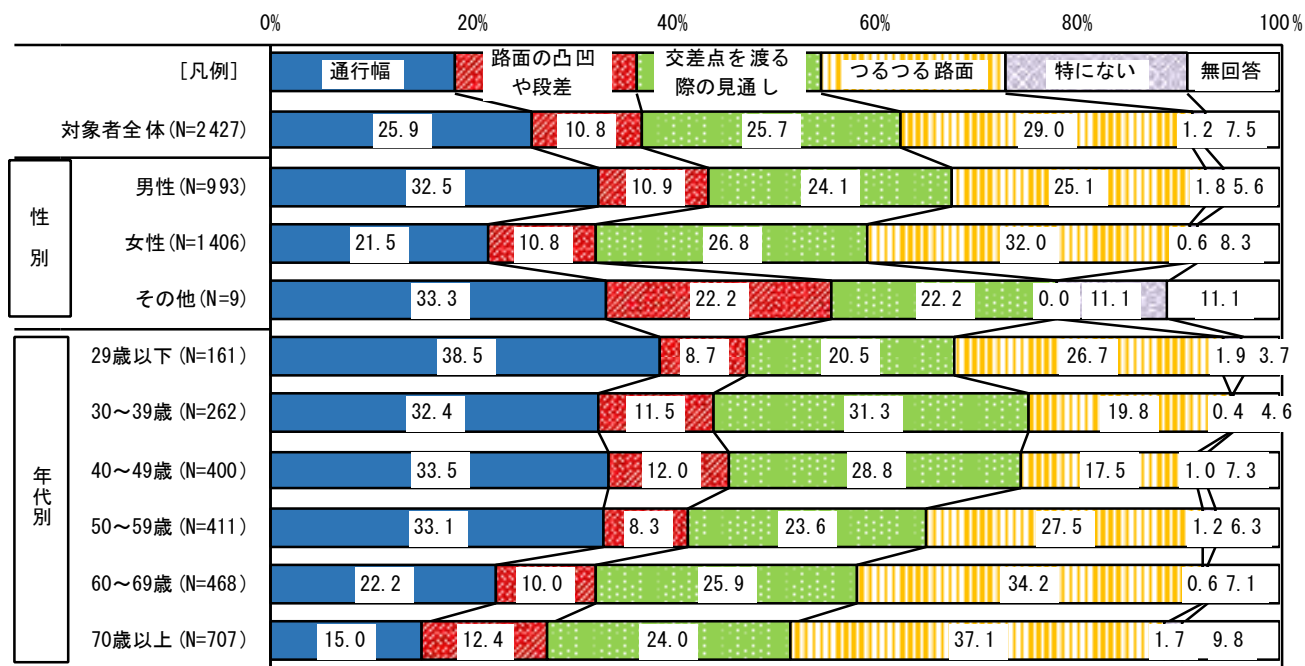
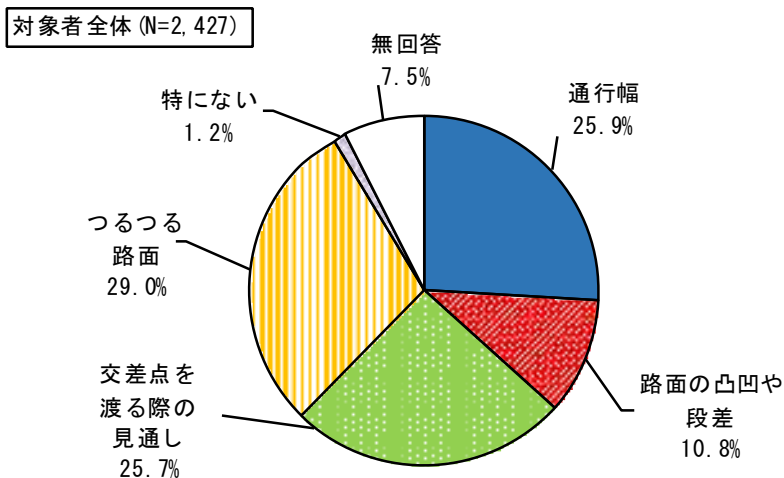
【性別】「道路の幅」は、男性が34.2%と、女性の24.3%より9.9ポイント高くなっている。

【年代別】「道路の幅」が29歳以下（43.5%）で最も高く、最も低い70歳以上（18.0%）と比べると25.5ポイントの差となっている。

◇除雪の対象となっている歩道の状況について重視すべき点

問3 1 除雪の対象となっている歩道の状況について、以下のうちあなたが最も重視すべきだと思うものは何ですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

除雪の対象となっている歩道の状況について重視すべき点は「つるつる路面」が29.0%



【全体】 除雪の対象となっている歩道の状況について重視すべき点は、「つるつる路面」が29.0%、「通行幅」が25.9%となっている。

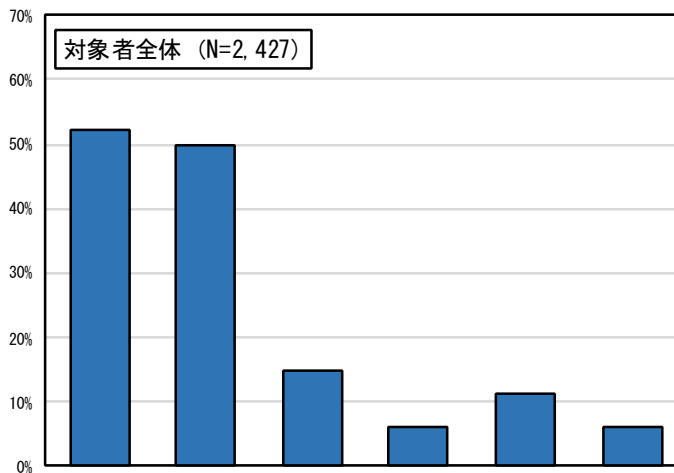
【性別】 「通行幅」は、男性が32.5%と、女性の21.5%より11.0ポイント高くなっている。また、「つるつる路面」は、女性が32.0%と、男性の25.1%より6.9ポイント高くなっている。

【年代別】 「通行幅」が29歳以下(38.5%)で最も高く、最も低い70歳以上(15.0%)と比べると23.5ポイントの差となっている。

◇大雪時や大雪が想定されるときにとる行動

問32 あなたは、警報発令などの大雪時や大雪が想定されるときにどのような行動をとっていますか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

大雪時や大雪が想定されるときにとる行動は「通勤通学などの外出時に、出発時間を早めるなど、時間に余裕を持った行動を取っている」が52.2%



対象者数 (%)		通勤通学などの外出時に、出発時間を早めるなど、時間に余裕を持った行動を取っている	不要不急の車による外出を控えている	通勤通学などの外出時に、移動手段を変更している	診療などを活用している	時差出勤、在宅勤務、オンライン授業、電話・オンライン	特に普段と違う行動をとっていない	無回答
対象者全体		2,427	52.2	50.0	14.9	5.9	11.6	6.0
性別	男性	993	50.7	47.9	14.5	7.5	13.9	5.0
	女性	1,406	53.9	51.5	15.3	4.9	9.8	6.3
	その他	9	33.3	55.6	22.2	-	33.3	-
年代別	29歳以下	161	60.9	29.2	16.8	7.5	16.1	3.7
	30~39歳	262	61.5	40.8	18.3	8.4	14.1	3.4
	40~49歳	400	69.0	42.8	20.8	8.0	9.5	2.3
	50~59歳	411	71.8	44.5	20.2	7.8	8.5	2.9
	60~69歳	468	53.8	57.7	15.2	5.8	7.1	4.9
70歳以上	707	25.6	60.7	6.9	2.7	15.4	11.3	

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】大雪時や大雪が想定されるときにとる行動は、「通勤通学などの外出時に、出発時間を早めるなど、時間に余裕を持った行動を取っている」が52.2%、「不要不急の車による外出を控えている」が50.0%、「通勤通学などの外出時に、移動手段を変更している」が14.9%となっている。

【性別】男女で大きな差は見られない。

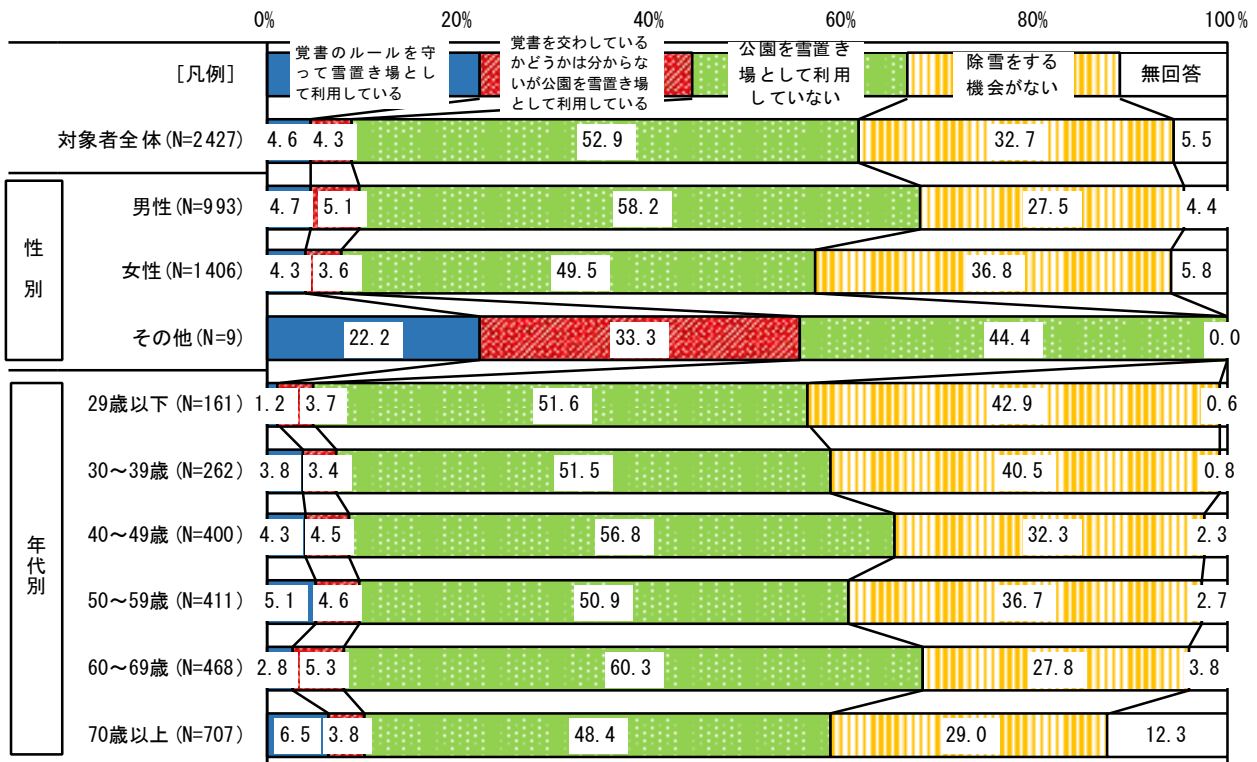
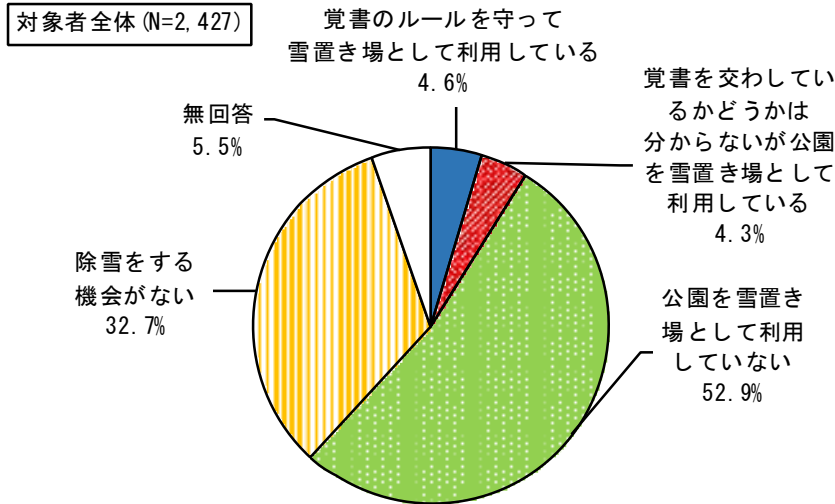
【年代別】「不要不急の車による外出を控えている」は、年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

◇公園を雪置き場として利用しているか

問 3 3 札幌市と町内会等で利用条件などに関する覚書を交わした公園については、ルールを守って雪置き場として利用することができます。あなたは、公園を雪置き場として利用していますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

公園を雪置き場として“利用している”人は 8.9%

※ “利用している”（「覚書のルールを守って雪置き場として利用している」＋「覚書を交わしているかどうかは分からないが公園を雪置き場として利用している」）



【全体】公園を雪置き場として利用しているかは、「公園を雪置き場として利用していない」が 52.9%、「覚書のルールを守って雪置き場として利用している」が 4.6%となっている。

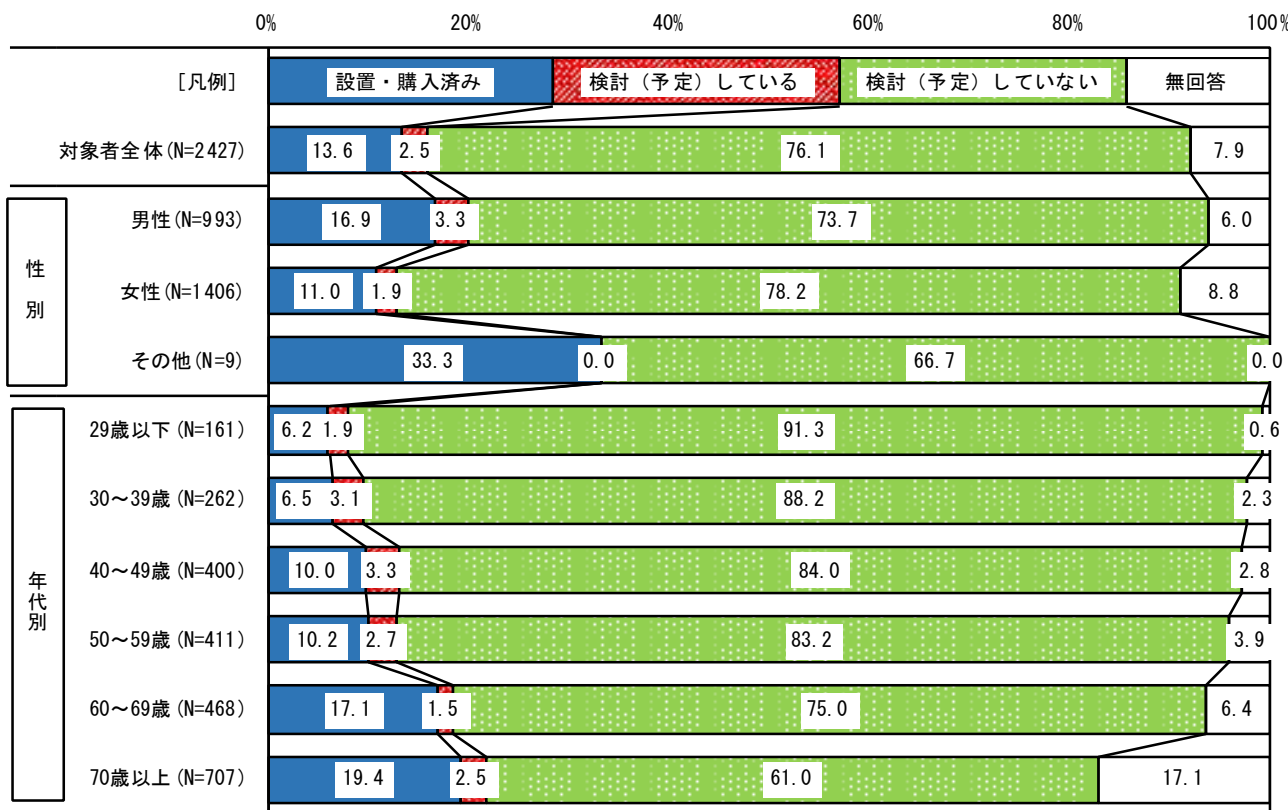
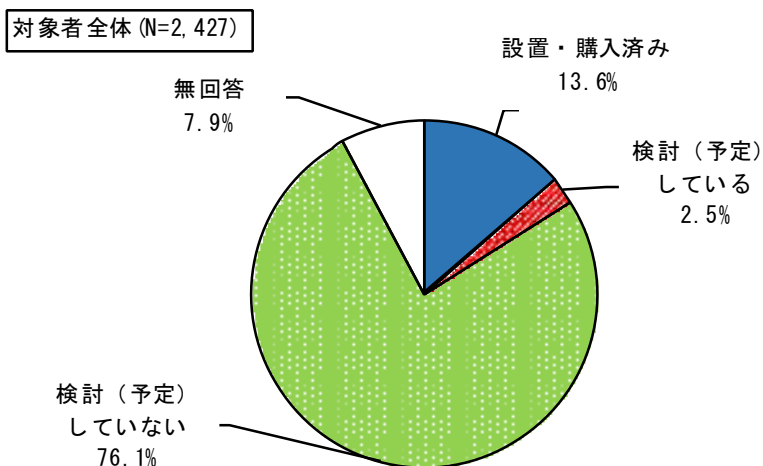
【性別】「公園を雪置き場として利用していない」は、男性が 58.2%と、女性の 49.5%より 8.7ポイント高くなっている。

【年代別】「公園を雪置き場として利用していない」が 60歳代 (60.3%) で最も高く、次いで 40歳代 (56.8%)、29歳以下 (51.6%) となっている。

◇雪の処理のための設備の設置・購入を検討しているか

問34 あなたは、冬期間に玄関前等に堆積する雪を処理するため、融雪施設等の設置・購入を検討（予定）していますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

雪の処理のための設備の設置・購入を検討しているかは「検討（予定）していない」が76.1%



【全体】雪の処理のための設備の設置・購入を検討しているかは、「検討(予定)していない」が76.1%、「設置・購入済み」が13.6%となっている。

【性別】「設置・購入済み」は、男性が16.9%と、女性の11.0%より5.9ポイント高くなっている。

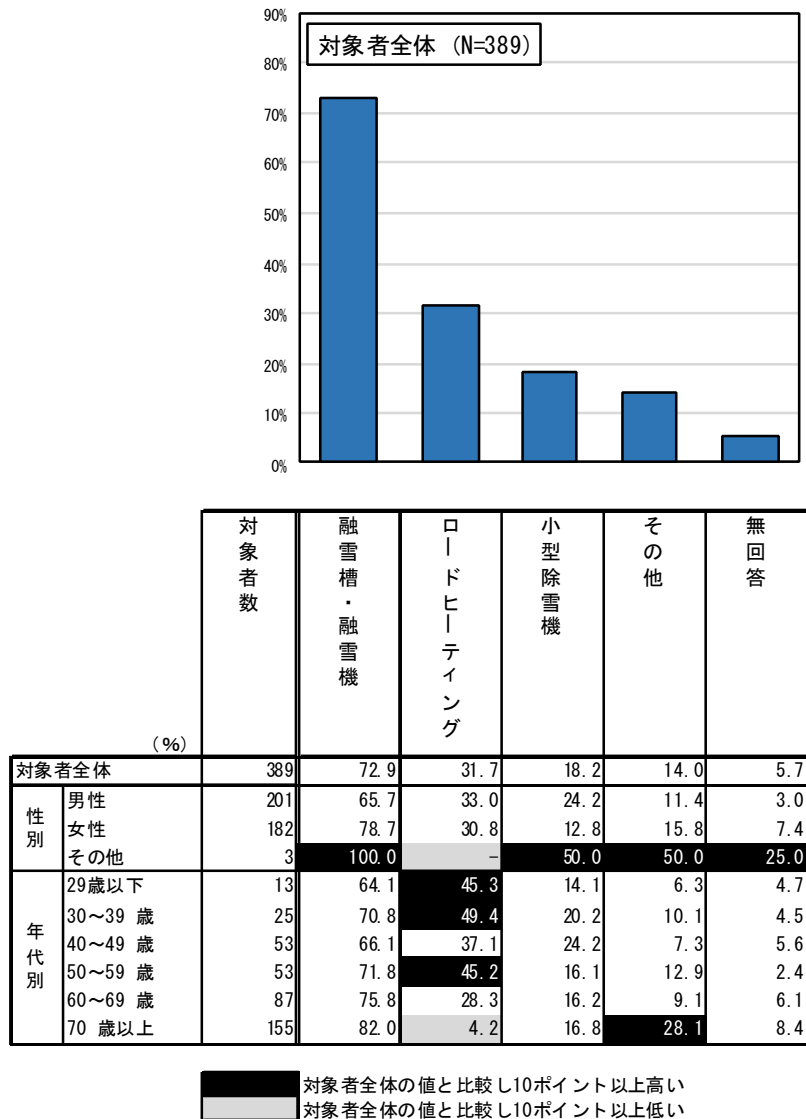
【年代別】「設置・購入済み」は年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

◇雪の処理のために設置・購入を検討している設備

《問34で「1 設置・購入済み」、「2 検討（予定）している」と答えた方にお聞きします。》

問34-1 あなたが設置・購入または検討（予定）している融雪施設等について、次の中から、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

雪の処理のために設置・購入を検討している設備は「融雪槽・融雪機」が72.9%



【全体】雪の処理のために設置・購入を検討している設備は、「融雪槽・融雪機」が72.9%、「ロードヒーティング」が31.7%、「小型除雪機」が18.2%となっている。

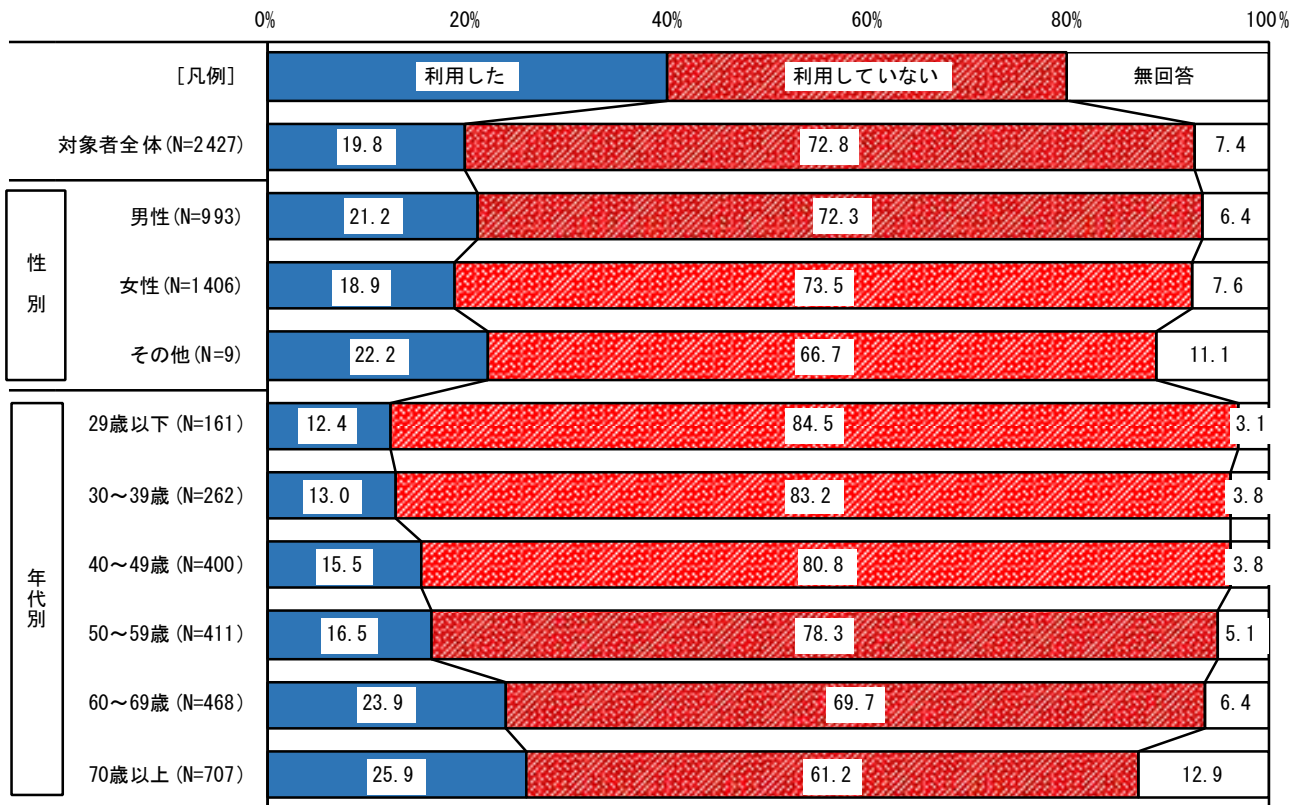
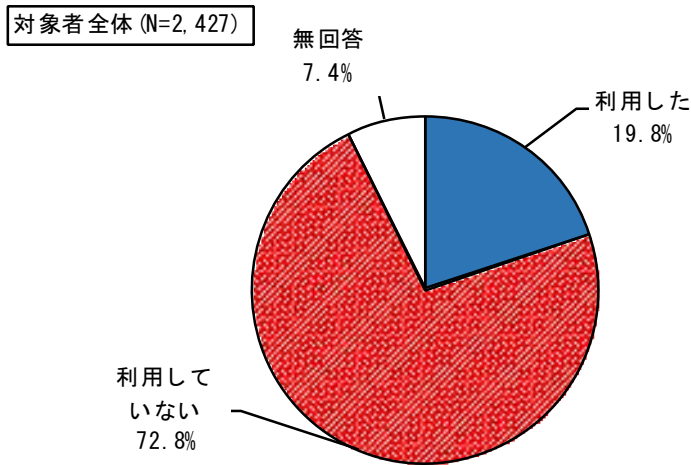
【性別】「小型除雪機」は、男性が24.2%と、女性の12.8%より11.4ポイント高くなっている。また、「融雪槽・融雪機」は、女性が78.7%と、男性の65.7%より13.0ポイント高くなっている。

【年代別】「ロードヒーティング」が30歳代（49.4%）で最も高く、最も低い70歳以上（4.2%）と比べると45.2ポイントの差となっている。

◇有料除排雪サービスの利用の有無

問35 あなたは、昨年度の冬に自宅前の雪を処理するため、民間企業などによる有料除排雪サービス（福祉除雪を除く）を利用しましたか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

有料除排雪サービスの利用の有無は「利用した」が19.8%



【全体】有料除排雪サービスの利用の有無は、「利用していない」が72.8%、「利用した」が19.8%となっている。

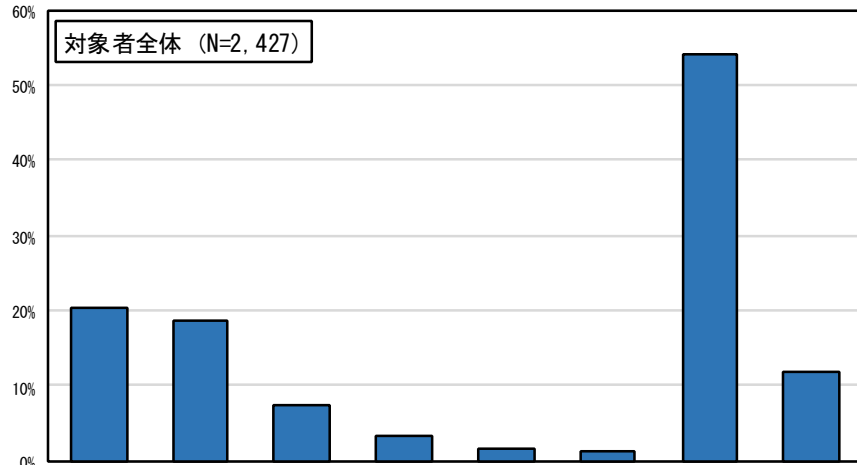
【性別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「利用した」は年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

◇取り組んだことがある除雪ボランティアの種類

問 3 6 札幌市では、市民の皆さまに『除雪ボランティア』への協力を呼び掛けています。以下のうち、あなたがこれまでに取り組んだことがある除雪ボランティアについて、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

取り組んだことがある除雪ボランティアの種類は「転倒防止のため、つるつる路面に砂袋やペットボトルで滑り止めの砂をまく」が 20.5%



		対象者数	め の 砂 を ま く	転 倒 防 止 の た め 、 つ る つ る 路 面 に 砂 袋 や ペ ット ボ トル で 滑 り 止 め の 砂 を ま く	ご み を 出 し や す い よ う に ご み ス テ ー シ ョ ン 周 り の 除 雪 を す る	近 所 で 困 っ て い る 人 の 除 雪 を 自 発 的 に 手 伝 う	消 火 栓 周 り の 除 雪 を 行 う	福 祉 除 雪 の 高 齢 者 宅 等 の 玄 関 前 除 雪 を 行 う	雪 ど け 後 に 、 雪 置 き 場 と し て 利 の 砂 の 回 収 を 行 う	除 雪 ボ ラ ン テ ィ ア に 取 り 組 ん だ こ と は な い	無 回 答
		(%)									
対象者全体		2,427	20.5	18.7	7.4	3.4	1.7	1.4	54.1	11.7	
性別	男性	993	20.8	19.8	9.0	4.6	2.7	1.5	53.8	11.1	
	女性	1,406	20.1	18.0	6.3	2.6	0.9	1.4	54.7	11.9	
	その他	9	33.3	22.2	11.1	-	11.1	-	55.6	-	
年代別	29歳以下	161	22.4	9.3	6.8	1.2	0.6	0.6	66.5	2.5	
	30~39 歳	262	15.3	13.0	6.5	2.7	1.1	0.8	71.4	2.7	
	40~49 歳	400	22.0	17.5	10.5	2.3	1.0	1.5	58.8	6.3	
	50~59 歳	411	23.8	22.4	5.4	3.2	0.7	0.7	54.3	7.8	
	60~69 歳	468	19.0	17.1	5.6	4.1	0.9	1.9	57.3	10.5	
	70 歳以上	707	20.1	22.9	8.8	4.7	3.7	2.0	40.6	22.6	

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】取り組んだことがある除雪ボランティアの種類は、「転倒防止のため、つるつる路面に砂袋やペットボトルで滑り止めの砂をまく」が 20.5%、「ごみを出しやすいようにごみステーション周りの除雪をする」が 18.7%、「近所で困っている人の除雪を自発的に手伝う」が 7.4% となっている。

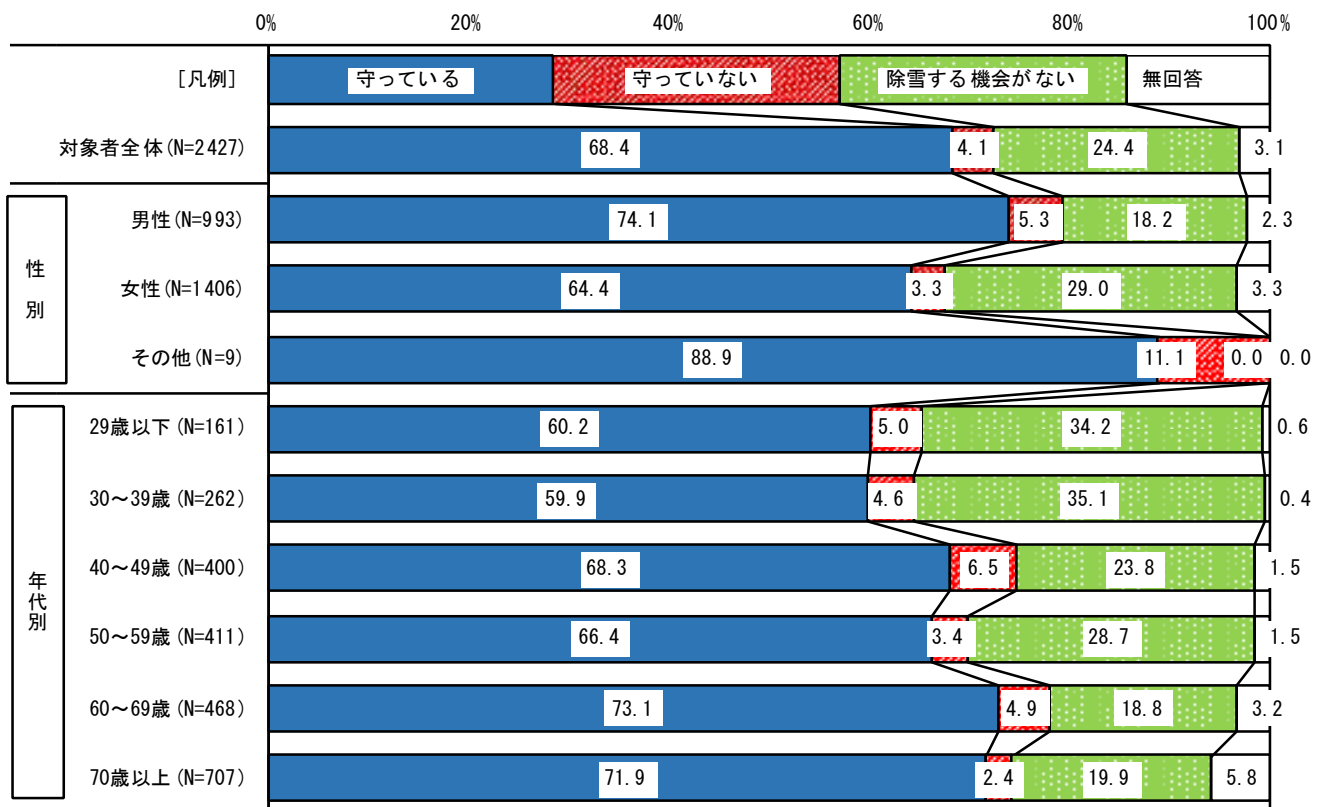
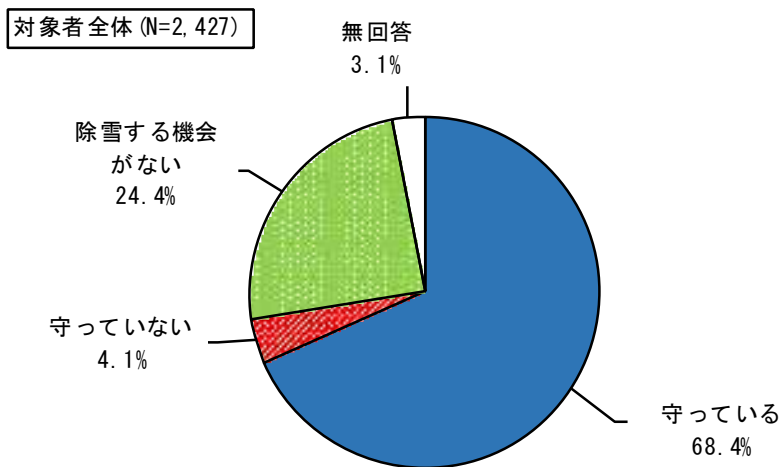
【性 別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「ごみを出しやすいようにごみステーション周りの除雪をする」が 70 歳以上 (22.9%) で最も高く、最も低い 29 歳以下 (9.3%) と比べると 13.6 ポイントの差となっている。

◇「雪を道路に出してはいけない」というルールの遵守について

問37 あなたは、「敷地内の雪を道路に出してはいけない」というルールを守っていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

「雪を道路に出してはいけない」というルールの遵守については「守っている」が68.4%



【全体】「雪を道路に出してはいけない」というルールの遵守については、「守っている」が68.4%、「守っていない」が4.1%となっている。

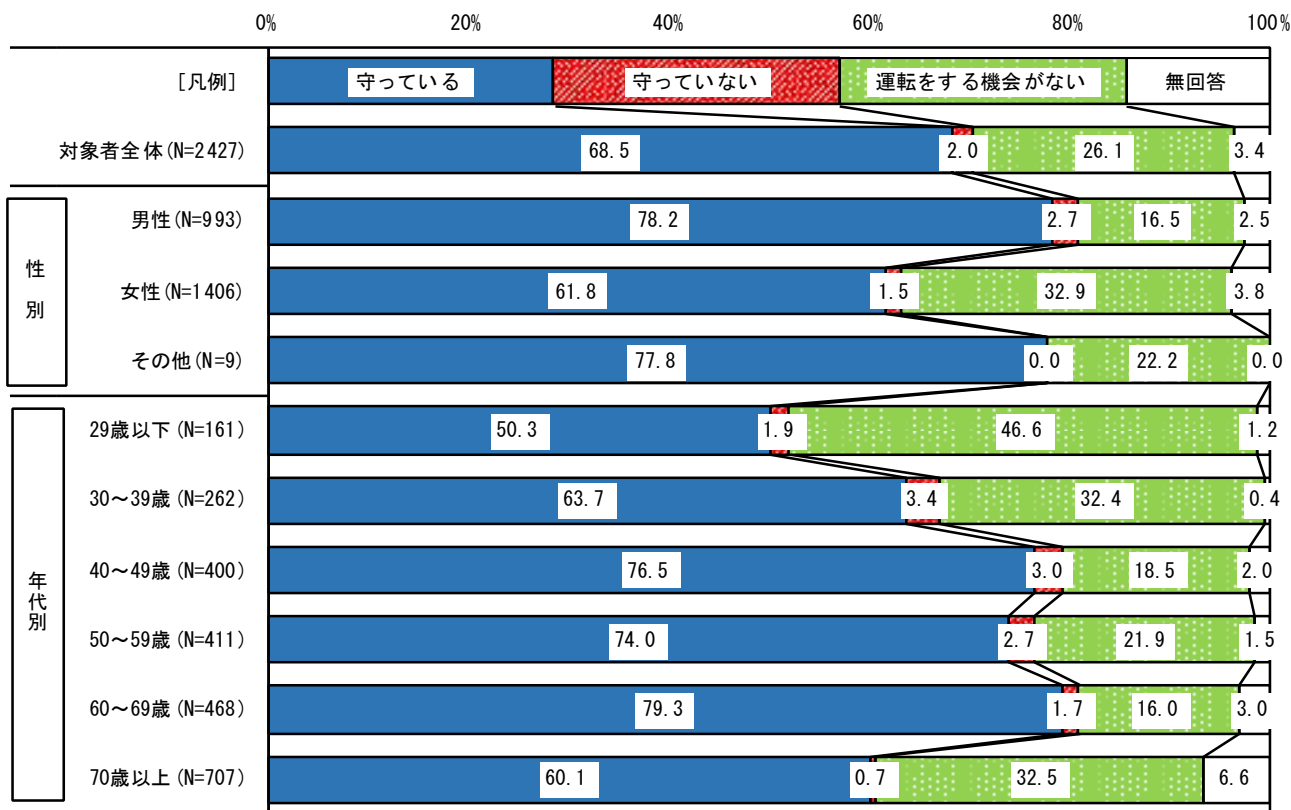
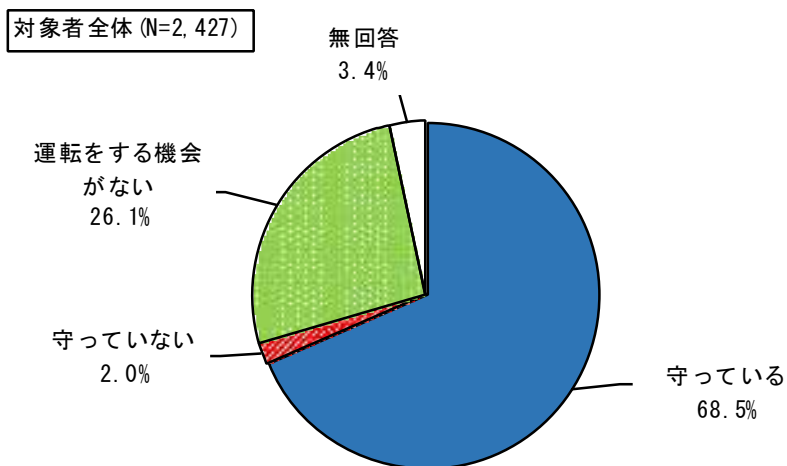
【性別】「守っている」は、男性が74.1%と、女性の64.4%より9.7ポイント高くなっている。一方で、「除雪をする機会がない」は女性が29.0%と男性の18.2%より10.8ポイント高くなっている。

【年代別】「守っている」が60歳代(73.1%)で最も高く、次いで70歳以上(71.9%)、40歳代(68.3%)となっている。

◇「路上駐車をしてはいけない」というルールの遵守について

問38 あなたは、「路上駐車をしてはいけない」というルールを守っていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

「路上駐車をしてはいけない」というルールの遵守については「守っている」が68.5%



【全体】「路上駐車をしてはいけない」というルールの遵守については、「守っている」が68.5%、「守っていない」が2.0%となっている。

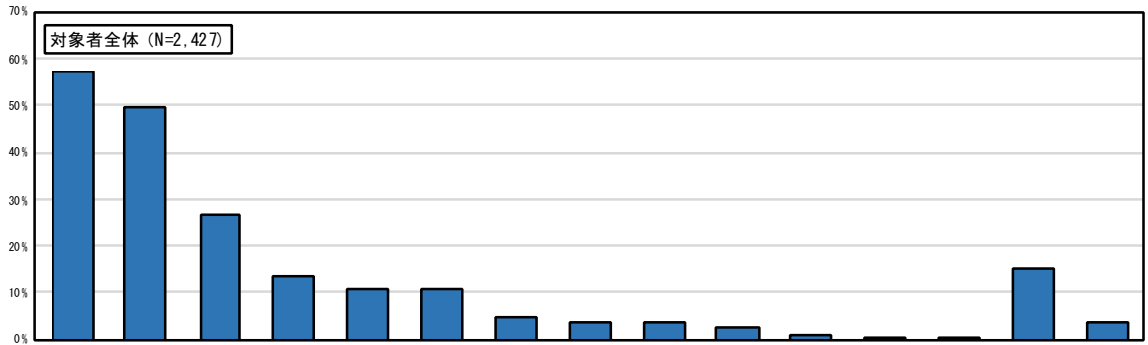
【性別】「守っている」は、男性が78.2%と、女性の61.8%より16.4ポイント高くなっている。また、「運転をする機会がない」は、女性が32.9%と、男性の16.5%より16.4ポイント高くなっている。

【年代別】「守っている」が60歳代(79.3%)で最も高く、最も低い29歳以下(50.3%)と比べると29.0ポイントの差となっている。

◇冬の暮らしに関する情報を見たことがある媒体

問 3 9 昨年度、冬の暮らしに関する情報（札幌市の除雪に関する情報や冬のルール、除雪の出動情報など）を以下のように発信しました。あなたが、見たことがあるものにいくつでも○をつけてください。

冬の暮らしに関する情報を見たことがある媒体は「冬の暮らしガイド（広報さっぽろ 12月号綴じ込み）」が56.9%



対象者数 (%)	冬の暮らしガイド（広報さっぽろ 12月号綴じ込み）	テレビのニュース番組、情報番組	テレビのデータ放送（HTB、NHK、HBC、UHB）	テレビCM（「札幌市は大雪時の対策を強化します」）	札幌市公式ホームページ（冬の暮らし・除雪）	その他刊行物（啓発チラシ、パンフレット、ポスター、「さっぽろ雪の絵本」など）	札幌市公式SNS（Twitter、LINE）	インターネット・アプリ（Yahoo!、LINE）	インターネット・アプリ（Twitter、LINE）	札幌市の広報番組（スマイルさっぽろNEXT100）	デジタルサイネージ（デカホ、各役所、市電、HILOSHI、SNOW VISION等）	札幌市公式YouTube動画（「札幌市民の皆さまへ大雪時のご協力をお願い」等）	劇場CM（上映作品「月の満ち欠け」）	札幌市のイベント（ジモトのシゴトワーク！、サッポロスマイルパーク、建設産業ふれあい展、雪と暮らしおはなし発表会）	見たことがない	無回答
対象者全体	2,427	56.9	49.5	26.5	13.8	10.8	5.1	3.8	3.9	2.9	1.1	0.5	0.3	14.9	3.7	
性別																
男性	993	52.7	49.6	27.2	14.8	13.9	4.6	4.5	3.7	2.8	1.7	0.4	0.4	17.1	3.3	
女性	1,406	60.4	49.8	26.0	13.0	8.7	5.4	3.3	4.1	3.0	0.7	0.5	0.2	13.2	3.6	
その他	9	22.2	33.3	22.2	11.1	-	11.1	11.1	-	-	-	-	-	33.3	-	
年代別																
29歳以下	161	19.3	32.9	20.5	13.0	7.5	2.5	8.1	0.6	5.0	0.6	-	-	41.0	1.2	
30～39歳	262	37.8	30.5	22.9	10.7	11.8	8.4	3.8	0.8	5.7	1.9	0.8	-	23.2	1.1	
40～49歳	400	54.0	41.8	25.5	14.0	11.5	9.5	5.5	2.3	2.5	1.3	0.5	0.8	17.5	1.8	
50～59歳	411	60.8	46.0	22.4	16.1	10.9	6.3	4.4	2.2	2.2	0.7	-	0.2	14.4	1.5	
60～69歳	468	65.4	56.8	28.8	13.7	9.0	5.1	4.3	4.1	4.1	-	0.4	0.4	9.6	3.6	
70歳以上	707	66.9	62.4	30.4	13.6	12.2	1.3	1.4	7.8	1.3	1.8	0.7	0.1	6.5	6.9	

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】見たことのある冬の暮らしに関する情報は、「冬の暮らしガイド（広報さっぽろ 12月号綴じ込み）」が56.9%、「テレビのニュース番組、情報番組」が49.5%、「テレビのデータ放送（HTB、NHK、HBC、UHB）」が26.5%となっている。

【性別】「冬の暮らしガイド（広報さっぽろ 12月号綴じ込み）」は、女性が60.4%と、男性の52.7%より7.7ポイント高くなっている。また、「札幌市公式ホームページ（冬の暮らし・除雪）」は、男性が13.9%と、女性の8.7%より5.2ポイント高くなっている。

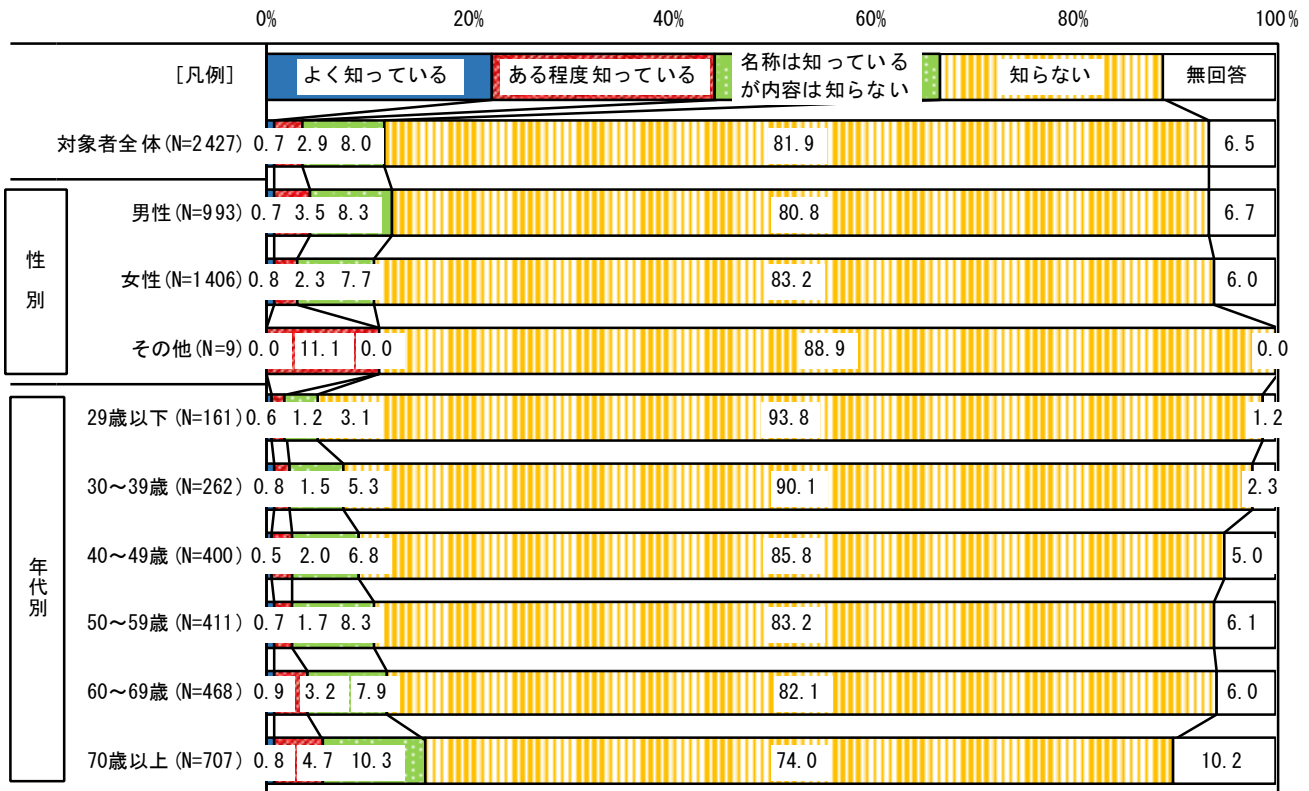
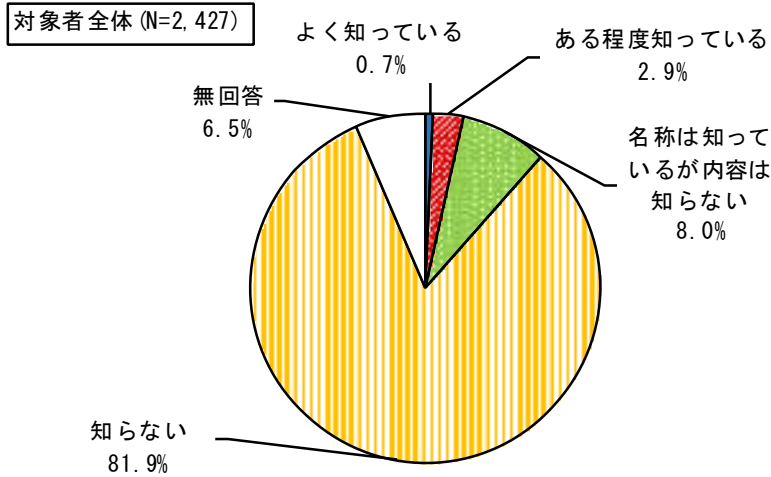
【年代別】「冬の暮らしガイド（広報さっぽろ 12月号綴じ込み）」は年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

(6) さぼーとほっと基金について

◇さぼーとほっと基金の認知度

問 4 0 あなたは、さぼーとほっと基金を知っていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

さぼーとほっと基金の認知度は「名称は知っているが内容は知らない」が8.0%



【全体】 さぼーとほっと基金の認知度は、「名称は知っているが内容は知らない」が8.0%、「ある程度知っている」が2.9%となっている。

【性別】 男女で大きな差は見られない。

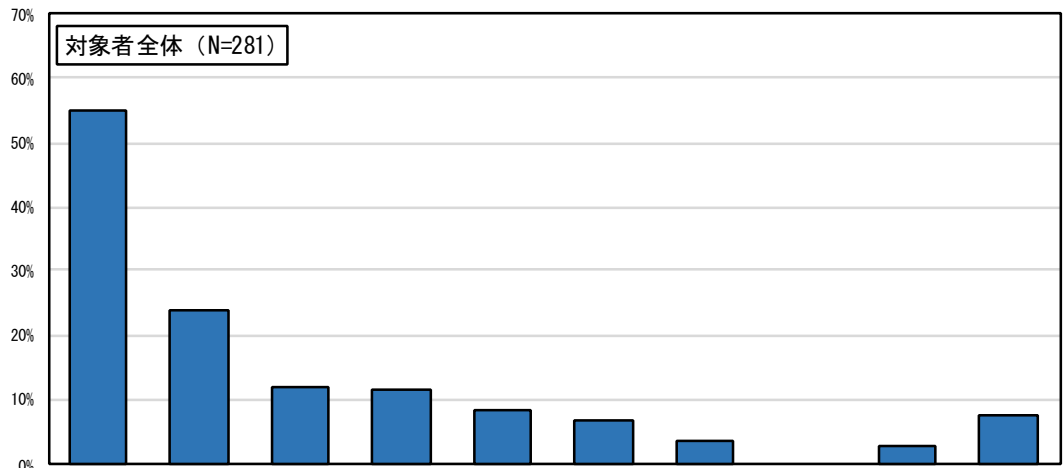
【年代別】 「名称は知っているが内容は知らない」が70歳以上（10.3%）で最も高く、次いで50歳代（8.3%）、60歳代（7.9%）となっている。

◇さぼーとほっと基金を知ったきっかけ

《問40で「1 よく知っている」、「2 ある程度知っている」、「3 名称は知っているが内容は知らない」と答えた方にお聞きします。》

問40-1 あなたが、さぼーとほっと基金を知ったきっかけは何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

さぼーとほっと基金を知ったきっかけは「札幌市が発行している冊子やパンフレット」が55.2%



		対象者数	冊子やパンフレット	テレビ・ラジオ・新聞	札幌市公式ホームページ	家族や知人からの口コミ	さぼーとほっと基金に寄付している企業の活動を通じて	イベントや展示など	市民まちづくり活動を行っている団体から紹介された	他の窓口などで紹介された	その他	無回答
		(%)										
対象者全体		281	55.2	23.8	12.1	11.4	8.2	6.8	3.6	-	2.8	7.5
性別	男性	124	54.8	26.6	13.7	10.5	9.7	4.0	5.6	-	4.0	7.3
	女性	151	54.3	20.5	11.3	12.6	7.3	7.9	2.0	-	1.3	7.9
	その他	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年代別	29歳以下	8	12.5	12.5	12.5	37.5	-	12.5	-	-	25.0	-
	30～39歳	20	25.0	15.0	15.0	15.0	10.0	10.0	-	-	15.0	5.0
	40～49歳	37	64.9	18.9	21.6	8.1	13.5	8.1	2.7	-	-	2.7
	50～59歳	44	61.4	6.8	9.1	15.9	13.6	2.3	-	-	4.5	-
	60～69歳	56	55.4	21.4	14.3	14.3	7.1	3.6	5.4	-	-	5.4
	70歳以上	112	56.3	33.9	8.9	7.1	5.4	7.1	5.4	-	0.9	14.3

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】さぼーとほっと基金を知ったきっかけは、「札幌市が発行している冊子やパンフレット」が55.2%、「テレビ・ラジオ・新聞」が23.8%、「札幌市公式ホームページ」が12.1%となっている。

【性別】「テレビ・ラジオ・新聞」は、男性が26.6%と、女性の20.5%より6.1ポイント高くなっている。

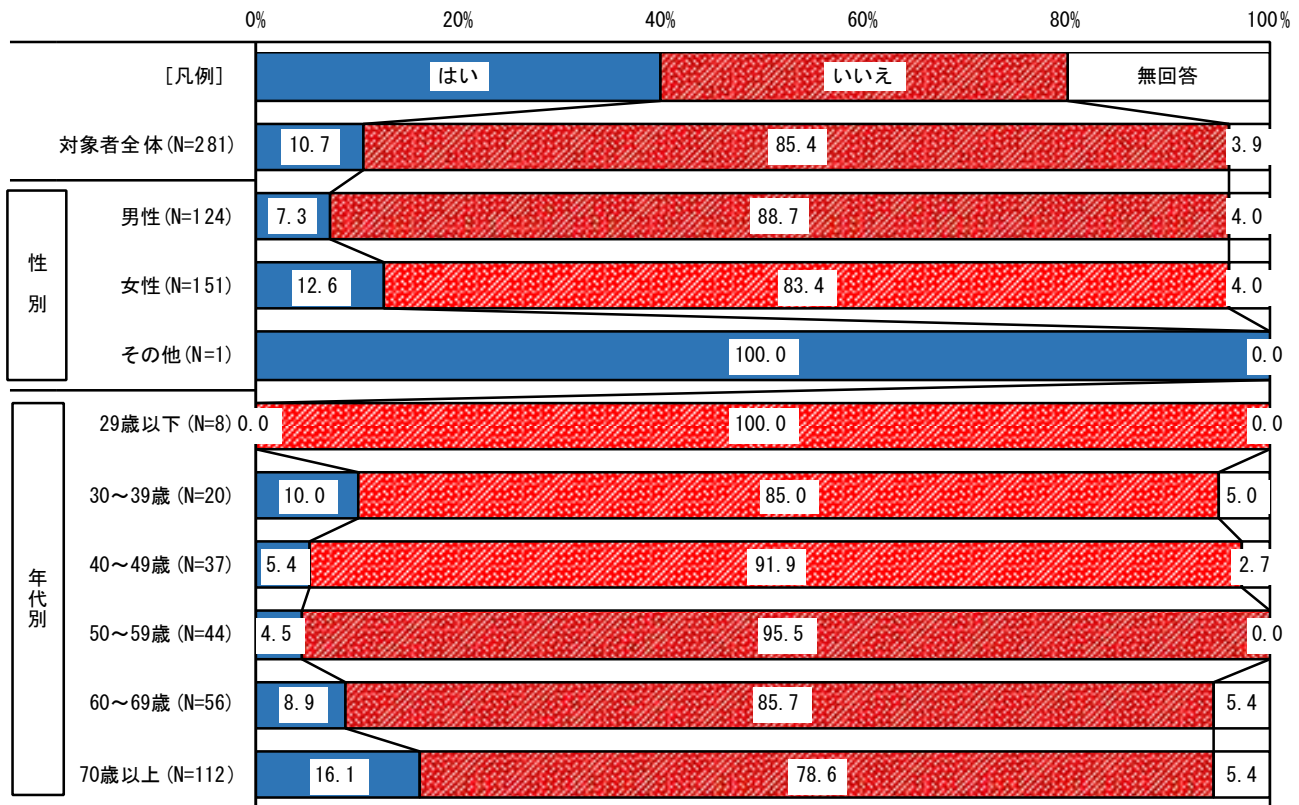
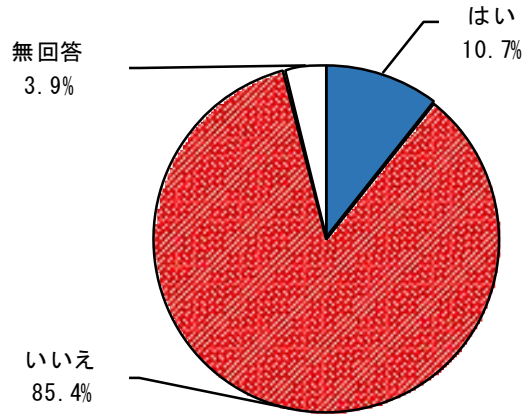
【年代別】「札幌市が発行している冊子やパンフレット」が40歳代(64.9%)で最も高く、最も低い29歳以下(12.5%)と比べると52.4ポイントの差となっている。

◇さぼーとほっと基金への寄付の有無

問 4 0 - 2 あなたは、さぼーとほっと基金に寄付をしたことがありますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

さぼーとほっと基金への寄付の有無は「いいえ」が 85.4%

対象者全体 (N=281)



【全 体】 さぼーとほっと基金への寄付の有無は、「はい」が 10.7%、「いいえ」が 85.4%となっている。

【性 別】 「はい」は、女性が 12.6%と、男性の 7.3%より 5.3ポイント高くなっている。また、「いいえ」は、男性が 88.7%と、女性の 83.4%より 5.3ポイント高くなっている。

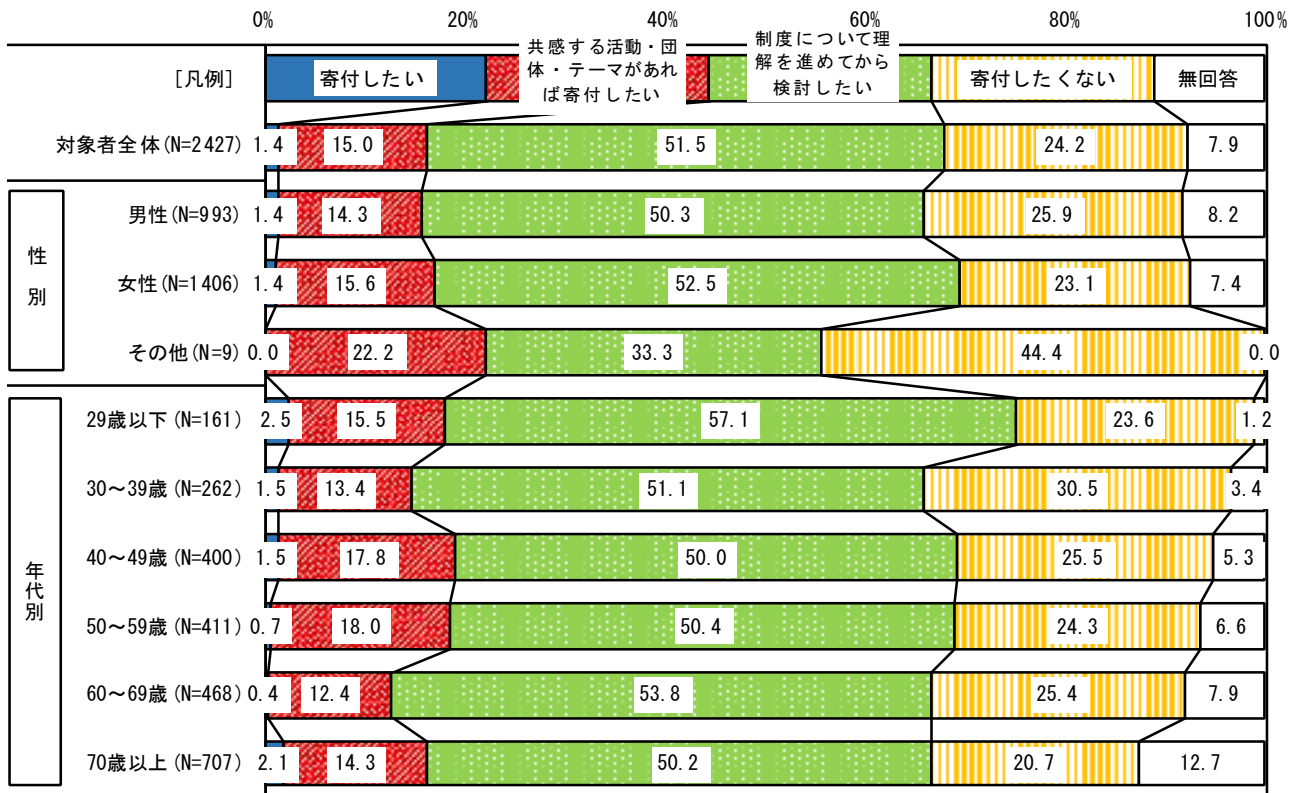
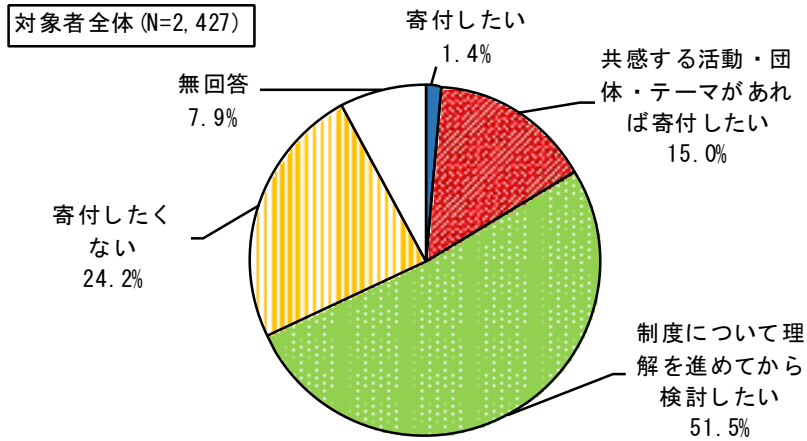
【年代別】 「はい」が 70歳以上 (16.1%) で最も高く、次いで 30歳代 (10.0%)、60歳代 (8.9%) となっている。

◇今後のさぼーとほっと基金への寄付

《皆さまにお聞きします。》

問 4 1 あなたは、今後さぼーとほっと基金に寄付をしたいと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

今後のさぼーとほっと基金への寄付は「制度について理解を進めてから検討したい」が51.5%



【全 体】 今後のさぼーとほっと基金への寄付は、「制度について理解を進めてから検討したい」が51.5%、「寄付したくない」が24.2%となっている。

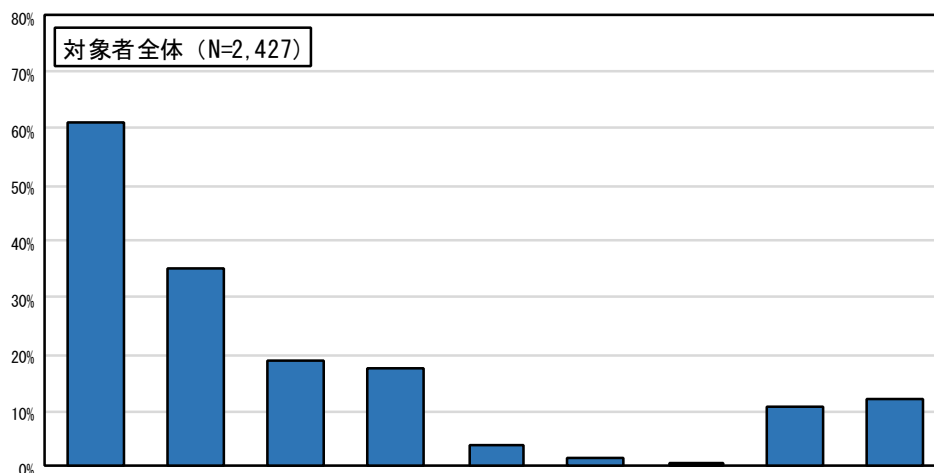
【性 別】 男女で大きな差は見られない。

【年代別】 「制度について理解を進めてから検討したい」が29歳以下（57.1%）で最も高く、次いで60歳代（53.8%）、30歳代（51.1%）となっている。

◇寄付をする際に重要だと思うこと

問 4 2 あなたが、寄付をする際に重要だと思うことは何ですか。あてはまるものに2つまで○をつけてください。

寄付をする際に重要だと思うことは「使い道の透明性が担保されている」が 60.9%



		対象者数	使い道の透明性が担保されている (%)	活動内容に共感できる (%)	活動成果が具体的である (%)	情報発信・報告がしつかりしている (%)	身近に活動していて親しみが持てる (%)	寄付することで感謝状などの特典がある (%)	その他 (%)	特にない (%)	無回答 (%)
対象者全体		2,427	60.9	35.1	19.2	17.4	4.0	1.6	0.9	11.0	11.9
性別	男性	993	59.0	34.2	20.1	16.5	3.6	2.4	1.1	12.2	11.9
	女性	1,406	62.7	35.9	18.6	18.1	4.1	1.1	0.8	10.0	11.7
	その他	9	44.4	11.1	-	22.2	11.1	-	11.1	44.4	-
年代別	29歳以下	161	61.5	31.7	24.2	14.9	2.5	13.7	1.2	9.3	8.1
	30~39 歳	262	66.4	40.1	22.9	15.3	4.6	2.3	2.3	8.0	8.8
	40~49 歳	400	65.3	37.5	23.3	16.8	4.3	1.5	0.8	9.0	9.8
	50~59 歳	411	65.5	41.8	18.7	20.0	3.9	0.7	0.2	8.5	10.5
	60~69 歳	468	63.7	36.3	19.0	17.9	3.4	0.2	0.6	11.3	10.0
	70 歳以上	707	52.6	28.1	14.6	17.5	4.1	0.3	1.1	14.9	16.7

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】 寄付をする際に重要だと思うことは、「使い道の透明性が担保されている」が 60.9%、「活動内容に共感できる」が 35.1%となっている。

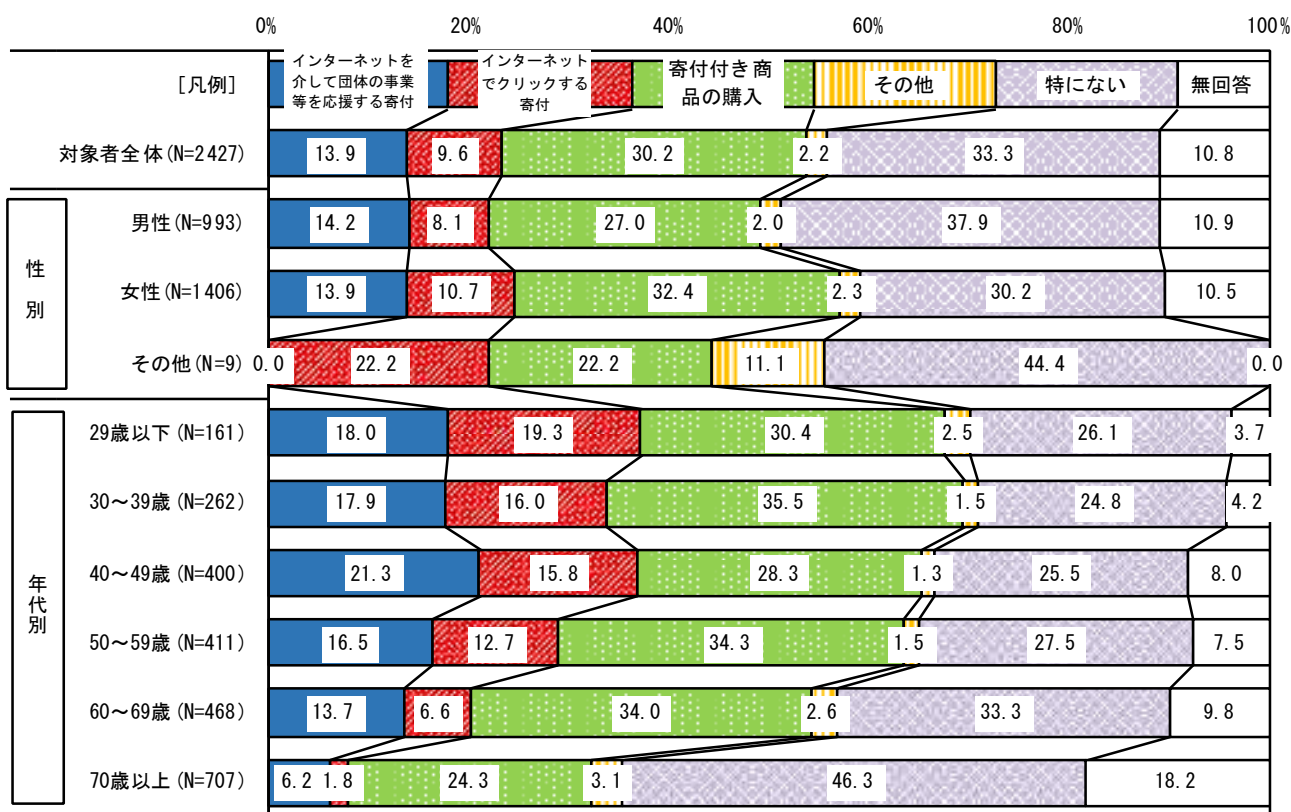
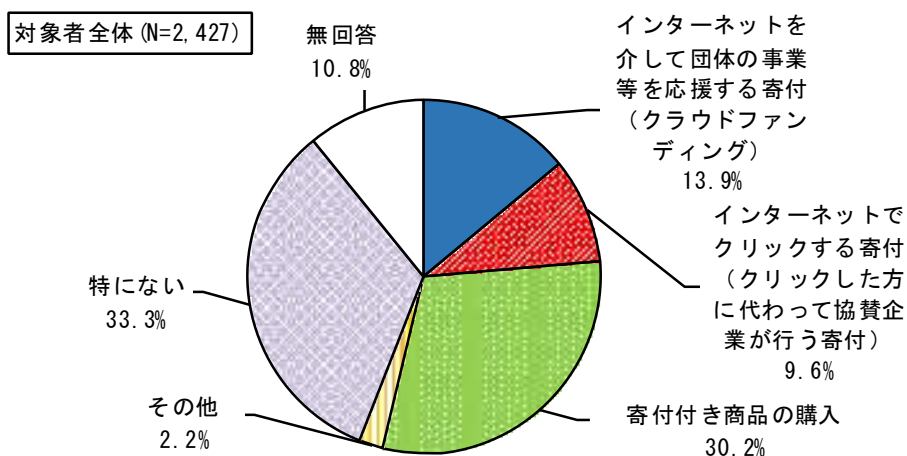
【性 別】 男女で大きな差は見られない。

【年代別】 「寄付することで感謝状などの特典がある」が 29 歳以下 (13.7%) で最も高く、最も低い 60 歳代 (0.2%) と比べると 13.5 ポイントの差となっている。

◇寄付の方法や機会について

問 4 3 あなたは、どのような寄付の方法や機会があるとよいと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

寄付の方法や機会については「寄付付き商品の購入」が30.2%



【全 体】寄付の方法や機会については、「寄付付き商品の購入」が30.2%、「インターネットを介して団体の事業等を応援する寄付 (クラウドファンディング)」が13.9%となっている。

【性 別】「寄付付き商品の購入」は、女性が32.4%と、男性の27.0%より5.4ポイント高くなっている。

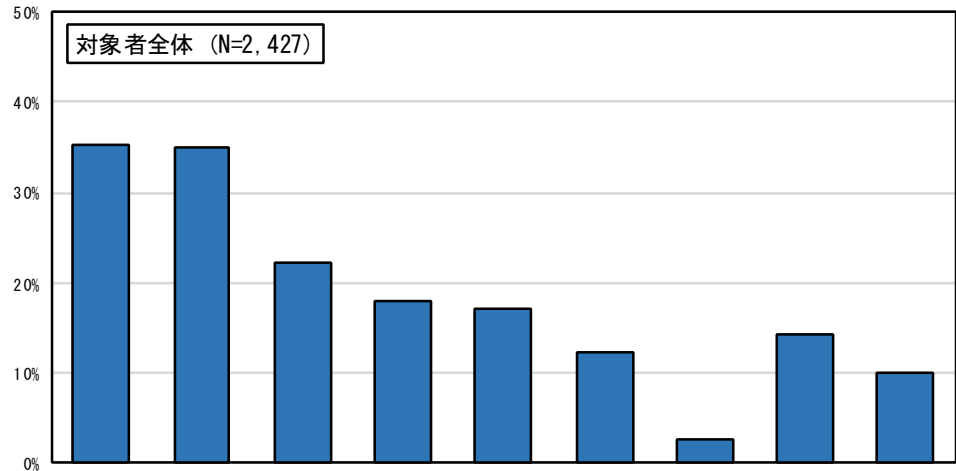
【年代別】「インターネットでクリックする寄付 (クリックした方に代わって協賛企業が行う寄付)」は年代が下がるにつれて割合が高くなっている。

◇寄付したい分野・テーマ

問 4 4 あなたが寄付をしたいと思う市民まちづくり活動※は以下のどのような分野・テーマの活動ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

※市民が営利を目的とせず、市内において町内会、自治会、ボランティア団体、特定非営利活動法人等又は個人により自発的に行う公益的な活動

寄付したい分野・テーマは「保健、医療、福祉の増進を図る活動」が 35.3%



		対象者数	保健、医療、福祉の増進を図る活動	子どもの健全育成を図る活動	被災者支援活動（新型コロナウイルス感染症対策市民活動、その他の災害被災者支援）	まちづくりの推進を図る活動	文化・スポーツ・観光・経済等の振興を図る活動	寄附したいと思うが、分野・テーマにこだわらないと思うが、	その他	市民まちづくり活動に寄附したいと思わない	無回答
		(%)									
対象者全体		2,427	35.3	35.2	22.2	18.0	17.1	12.4	2.6	14.4	10.0
性別	男性	993	34.5	33.0	20.5	20.1	20.0	11.5	2.1	16.4	11.3
	女性	1,406	35.9	36.9	23.5	16.6	15.1	13.3	3.0	12.9	8.7
	その他	9	22.2	33.3	33.3	22.2	22.2	-	-	55.6	-
年代別	29歳以下	161	39.1	41.0	23.6	15.5	21.7	13.0	2.5	13.7	2.5
	30～39 歳	262	37.0	48.1	17.9	23.3	20.2	8.8	2.7	14.9	3.4
	40～49 歳	400	32.5	40.5	19.5	19.3	21.0	14.5	2.5	15.0	5.5
	50～59 歳	411	37.0	27.5	23.1	18.2	19.5	14.8	2.4	15.3	7.3
	60～69 歳	468	32.3	30.6	28.0	15.2	16.0	14.1	3.0	16.5	8.1
	70 歳以上	707	36.4	34.1	21.1	18.1	12.3	10.0	2.5	12.3	18.8

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】 寄付したい分野・テーマは、「保健、医療、福祉の増進を図る活動」が 35.3%、「子どもの健全育成を図る活動」が 35.2%、「被災者支援活動（新型コロナウイルス感染症対策市民活動、その他の災害被災者支援）」が 22.2%となっている。

【性 別】 男女で大きな差は見られない。

【年代別】「子どもの健全育成を図る活動」が 30 歳代（48.1%）で最も高く、次いで 29 歳以下（41.0%）、40 歳代（40.5%）となっている。

資料 調査票

令和5年度第1回市民意識調査票

「市民意識調査」へのご協力のお願い

～あなたの声をまちづくりに～

日頃から、札幌市政にご協力いただき、誠にありがとうございます。

札幌市では、市民の皆さまのお考えやご要望を市政に反映させるために、札幌市民5千人の方々にご回答をお願いする調査を実施しております。

突然のお願いで恐縮ではございますが、趣旨をご理解いただき、ご回答くださいますようお願いいたします。

● あなたにお願いしたいこと

「市民意識調査票」にご記入のうえ、同封の返信用封筒に入れて返送してください。

● 5千人の選び方

18歳以上の市民の皆さまの中から、無作為抽出法（くじ引きのような方法）で選ばせていただきました。

● 今回お送りしたもの

市民意識調査票、返信用封筒、チラシ（※）

（※ チラシはPR用で市民意識調査とは関係ありません。）

● プライバシーの保護について

この調査は、皆さまから無記名でご回答いただくものであり、また、回答結果は統計的に処理し、「こういうご意見が何%」というように数値、表にまとめますので、個人のお名前が公表されることは、決してございません。

また、調査をお願いした方の名簿は、この調査以外には使用いたしません。

【ご回答にあたって】

ご使用いただく筆記用具は、どのようなものでも構いません。

ご回答は、あてはまる番号に○印をつけるか、あるいは具体的な内容をご記入ください。

記入されました市民意識調査票は、折りたたんで同封の返信用封筒に入れ、無記名のまま切手を貼らずに令和5年7月7日（金）までに、郵便ポストへ投函してください。

ご不明な点やお問い合わせは

札幌市総務局広報部市民の声を聞く課

担当 葛西 ☎ 011-211-2045 まで

< 市民意識調査に関するよくある質問 (FAQ) >

https://www.city.sapporo.jp/somu/shiminnoe/citi_enq/faq.html



テーマ1 札幌市民の自転車利用について

札幌市では、交通徳の向上と交通環境の改善を図るために市民運動を展開し、札幌市を明るく快適な交通安全都市とすることを目的として様々な活動を実施しております。

そこで、皆さまの自転車利用の状況をお伺いし、今後の活動の参考とさせていただきます。

問1 自転車利用時の交通ルールについてお聞きます。以下に示した正しいルールのうち、あなたが知っているものにいくつでも○をつけてください。

- 1 原則として自転車は車道の左側を走る
- 2 自転車で歩道を走る時は歩道の車道側を走る
- 3 自転車で歩道を走る時は歩行者が優先
- 4 自転車で歩道を走る際に自転車が歩行者の妨げになりそうな時は一時停止する
- 5 全年齢の自転車利用者が自転車乗車用ヘルメット（以下「ヘルメット」という）の着用を努めなければならない

問2 あなたが自転車を利用する頻度はどのくらいですか。夏期(4月～10月)の状況について、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- | | | |
|---------|---------------|-----------------------------|
| 1 ほぼ毎日 | 2 週3～4日 | } ⇒ 問3 ~ 問7 へ |
| 3 週1～2日 | 4 週1回未満 | |
| 5 利用しない | ⇒ 問8 へ | |

◀ **問2** で「1～4」のいずれかに○をつけた方にお聞きます。▶

問3 あなたの自転車の利用目的について、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- | | | | |
|-----------|------|-------|---------|
| 1 通勤 | 2 通学 | 3 買い物 | 4 仕事・業務 |
| 5 通院 | 6 送迎 | 7 習い事 | 8 レジャー |
| 9 その他 () | | | |

問4 あなたの自転車利用時の様子について、あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

ア あなたが自転車利用時に、原則として走行する場所

- | | | |
|------|------|-----------|
| 1 車道 | 2 歩道 | 3 その他 () |
|------|------|-----------|

イ あなたが自転車で車道を走る時の走行位置

- | | | |
|---------------|---------------|-----------|
| 1 左側 (自動車と並走) | 2 右側 (自動車と対面) | 3 その他 () |
|---------------|---------------|-----------|

ウ あなたが自転車で歩道を走る時の走行位置

- | | | |
|-----------|----------|-----------|
| 1 車道から遠い側 | 2 車道に近い側 | 3 その他 () |
|-----------|----------|-----------|

エ あなたが自転車で歩道を走る時のスピード

- | | | |
|---------|---------|-----------|
| 1 抑えて走行 | 2 いつも通り | 3 その他 () |
|---------|---------|-----------|

テーマ2 応急手当について

命の危機にひんした方を救命・社会復帰させるために必要な一連の行動を「救命の連鎖」といいます。救命の連鎖をつなぐためには、その場に居合わせた方による応急手当が非常に重要です。札幌市では、市民向けの応急手当講習の開催や、小学校での体験型授業などを行い、広く市民の皆さまに応急手当に関する正しい知識と技術の普及啓発を行うとともに、応急手当を行う方の不安を解消するための仕組みづくりを検討しています。

そこで、市民の皆さまの応急手当に対する意識をお聞きし、今後の応急手当の普及啓発への取り組みの参考とさせていただきます。

<救命の連鎖>



問9 あなたは、これまでに、どのような方法で応急手当を学んだことがありますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 小・中学校及び高等学校の授業
- 2 運転免許教習の応急救護講習
- 3 医療・介護・福祉に関する資格取得時
- 4 職場での研修
- 5 消防局が行っている応急手当講習
- 6 日本赤十字社が行っている救急法などの講習
- 7 応急手当 WEB 講習や関連動画の視聴
- 8 その他 ()
- 9 学んだことはあるが、方法は覚えていない
- 10 学んだことはない

問10 あなたが、これから消防局が行う応急手当講習を受けるとしたら、どのような講習を受けてみたいと思いますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 救命入門コース (45分間で胸骨圧迫・AEDの使い方を学ぶ短時間講習)
- 2 普通救命講習Ⅰ (成人に対する応急手当を学ぶ3時間の講習)
- 3 普通救命講習Ⅲ (小児・乳幼児に対する応急手当を学ぶ3時間の講習)
- 4 応急手当 WEB 講習 (パソコンやスマートフォンなどで動画を見ながら学べるコンテンツ)
- 5 ZOOMなどのWEB会議システムをつかった非対面式の講習
- 6 その他 ()
- 7 特に受けない講習はない

問 1 1 あなたは、外出先などの自宅外において応急手当が必要な場面に居合わせたときに、胸骨圧迫（心臓マッサージ）や、AED を使った応急手当ができますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- 1 できると思う
- 2 たぶんできると思う
- 3 たぶんできないと思う
- 4 できないと思う
- 5 わからない

問 1 2 あなたが、応急手当をしようとするときに、不安なことや心配に思うことは何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 知識や技術が足りないこと
- 2 他人に手を触れたくない・こわい
- 3 やり方を間違えて症状を悪化させないか心配
- 4 責任を問われそうで不安
- 5 接触による感染が心配
- 6 ストレスで自分の体調を崩さないか不安
- 7 周りの注目を集めること
- 8 その他（）
- 9 特にない

問 1 3 あなたが、応急手当をしようとする際、受けたいと思うサポートは何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 119番通報時に、消防職員から応急手当の方法を口頭で教えること
- 2 119番通報時に、消防職員から近くにある AED の場所を口頭で教えること
- 3 応急手当に関わったことで起きた心身の不調を相談できる体制があること
- 4 接触による感染が不安なときに、検査を受けられる体制があること
- 5 その他（）
- 6 特にない

《皆さまにお聞きします。》

問 1 5 あなたは、札幌市立大学がどのような大学であってほしいと思いますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 地域の医療、福祉、産業等に必要の人材を育成する大学
- 2 超高齢化や人口減少といった地域課題への対応に取り組む大学
- 3 新しい技術・製品の開発や企業誘致を通じて地域経済に貢献する大学
- 4 市民の実感に結びつく先進的で質の高い研究を行う大学
- 5 全国で活躍する技術者や専門職を育成する大学
- 6 市民が学び直しやスキルアップのために利用できる大学（公開講座等も含む）
- 7 世界で活躍できる人材を育成する大学
- 8 世界最先端の研究が行われる大学
- 9 その他（）
- 10 特にない
- 11 わからない

問 1 6 あなたが、札幌市立大学に期待する活動はありますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 医療、福祉と連携した健康増進に向けた取り組み
- 2 企業が必要とする多様な人材の供給
- 3 経済の発展への貢献
- 4 市民が学ぶ機会の提供
- 5 行政と連携した公共事業の効率化の研究
- 6 産業界や行政機関との連携の促進
- 7 その他（）
- 8 特にない
- 9 わからない

問 1 7 札幌市立大学の研究や活動の中で、あなたが関心のある（詳しく知りたいと思う）ものはありますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 デザイン学部と看護学部の連携教育
- 2 デザイン学部で行っている教育・研究
- 3 看護学部で行っている教育・研究
- 4 AI・ITに関する研究
- 5 市民が自由に参加できる公開講座やイベント
- 6 企業や研究機関、行政、病院との連携
- 7 その他（）
- 8 特にない
- 9 わからない

問 2 3 あなたが外出するときの目的はどんなことですか。ここ1年の間に、1か月に1回以上機会があった外出について、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- | | | |
|------------|------------|-----------------|
| 1 仕事（通勤） | 2 学校（通学） | 3 ボランティア・PTA 活動 |
| 4 町内会・自治会 | 5 飲食（外食） | 6 買い物 |
| 7 通院 | 8 健診・検診 | 9 デイサービス |
| 10 体育館 | 11 図書館 | 12 10・11以外の公共施設 |
| 13 運動・スポーツ | 14 散歩・街歩き | 15 クラブ・サークル活動 |
| 16 習い事・趣味 | 17 レジャー | 18 友人・知人と会う |
| 19 親族との交流 | 20 家族の付き添い | 21 目的はない |
| 22 その他（ | | ） |
| 23 外出はしない | | |

問 2 4 あなたが、ここ1年の間に、同居する家族以外で1週間に1回以上会って話す機会があった相手はどのような方ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- | | | |
|----------------|------------|-------------|
| 1 親 | 2 子・孫 | 3 祖父母 |
| 4 兄弟姉妹 | 5 子の配偶者 | 6 1～5以外の親族 |
| 7 交際相手・パートナー | 8 友人・知人 | 9 同僚・クラスメイト |
| 10 顧客・取引先 | 11 店員・従業員 | 12 講師・指導員 |
| 13 近所の住人 | 14 主治医・看護師 | 15 介護士・ヘルパー |
| 16 その他（ | | ） |
| 17 そのような相手はいない | | |

問 2 5 あなたは、新型コロナウイルスの感染拡大前と現在を比較して、次に掲げる行動の頻度がどのように変化しましたか。ア～クについて、1つずつ選んで○をつけてください。

	増えた	少し増えた	変わらない	少し減った	減った
ア 通勤や通学	1	2	3	4	5
イ ボランティア活動	1	2	3	4	5
ウ 通院や健診・検診	1	2	3	4	5
エ 運動・スポーツ	1	2	3	4	5
オ 歩く時間や距離	1	2	3	4	5
カ 習い事や趣味活動	1	2	3	4	5
キ 人との交流の機会	1	2	3	4	5
ク 外出の機会	1	2	3	4	5

【健康寿命】

健康寿命とは、「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」を言います。

問 2 6 あなたは、適度な運動や人との交流など、「健康寿命の延伸」につながると考えられる取り組みに興味がありますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- 1 興味がある
- 2 少し興味がある
- 3 あまり興味がない
- 4 興味がない
- 5 わからない

問 2 7 あなたは、普段から「健康寿命の延伸」を意識した行動をしていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- 1 している
- 2 まあしている
- 3 あまりしていない
- 4 していない
- 5 わからない

問 2 8 あなたは、「健康寿命の延伸」につながると考えられる取り組みについて、きっかけや札幌市役所などの行政から何かの働きかけがあれば、行動の回数をさらに増やしたり、新たに始めたりしたいと思いますか。ア～キについて、1つずつ選んで○をつけてください。

	そう思う	少しそう思う	あまり思わない	思わない	わからない
ア ボランティアなど社会貢献活動に参加すること	1	2	3	4	5
イ 定期的に健診や検診を受けること	1	2	3	4	5
ウ 運動・スポーツをすること	1	2	3	4	5
エ 歩くこと	1	2	3	4	5
オ 習い事や趣味活動をすること	1	2	3	4	5
カ 積極的に人と交流すること	1	2	3	4	5
キ 外出すること	1	2	3	4	5

テーマ5 雪対策に関する取り組みについて

札幌市では、安心・安全で持続可能な冬の道路環境の実現に向けて、市民の皆さまや企業などと協働して雪対策に取り組んでいます。そこで、札幌市による道路の除雪作業に関する認識や、市民の皆さまによる取り組みの現状などについてお聞きし、今後の雪対策の参考とさせていただきます。

札幌市では、市内の道道・市道（国道以外）において、道路種別に応じた除雪を行っています。

- 幹線道路：地域と地域を結ぶ、交通量の多い道路
- 生活道路：住宅街の道路

問 2 9 札幌市では、交通量や公共交通の利便性を考え、以下の通り、皆さまにより多く利用される道路・場所の除雪を強化しています。次のうち、あなたが今後最も力を入れてほしいと思う道路・場所はどこですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- 1 バス路線
- 2 地下鉄・JR駅周辺
- 3 病院・福祉施設周辺
- 4 公共施設周辺
- 5 小学校周辺
- 6 特にない

問 3 0 冬期間の生活道路の状況をより良くするために、以下のうちあなたが最も重視すべきだと思うものは何ですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- 1 道路の幅
- 2 路面の凸凹や段差、気温の上昇によるザクザク路面
- 3 道路脇の雪山の高さや交差点の見通し
- 4 特にない

札幌市では、幅が2m以上で、地下鉄・JR駅周辺や公共施設周辺などで歩行者が多い歩道の除雪を行っています。

問 3 1 除雪の対象となっている歩道の状況について、以下のうちあなたが最も重視すべきだと思うものは何ですか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- 1 通行幅
- 2 路面の凸凹や段差
- 3 交差点を渡る際の見通し
- 4 つるつる路面
- 5 特にない

札幌市では、札幌管区気象台が発表する大雪警報や暴風雪警報時において、広報媒体を活用し市民の皆さまへの注意喚起を図っています。

問 3 2 あなたは、警報発令などの大雪時や大雪が想定されるときにどのような行動をとっていますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 通勤通学などの外出時に、移動手段を変更している
- 2 通勤通学などの外出時に、出発時間を早めるなど、時間に余裕を持った行動を取っている
- 3 時差出勤、在宅勤務、オンライン授業、電話・オンライン診療などを活用している
- 4 不要不急の車による外出を控えている
- 5 特に普段と違う行動をとっていない

ご自宅前の雪の処理及び除雪ボランティアについてお伺いします。

問 3 3 札幌市と町内会等で利用条件などに関する覚書を交わした公園については、ルールを守って雪置き場として利用することができます。あなたは、公園を雪置き場として利用していますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- 1 覚書のルールを守って雪置き場として利用している
- 2 覚書を交わしているかどうかは分からないが、公園を雪置き場として利用している
- 3 公園を雪置き場として利用していない
- 4 除雪をする機会がない

問 3 4 あなたは、冬期間に玄関前等に堆積する雪を処理するため、融雪施設等の設置・購入を検討(予定)していますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- | | |
|---------------|------------------------|
| 1 設置・購入済み | } ⇒ 問 3 4 - 1 へ |
| 2 検討(予定)している | |
| 3 検討(予定)していない | ⇒ 問 3 5 へ |

◀ **問 3 4** で「1 設置・購入済み」、「2 検討(予定)している」と答えた方にお聞きます。▶

問 3 4 - 1 あなたが設置・購入または検討(予定)している融雪施設等について、次の中から、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 融雪槽・融雪機
- 2 ロードヒーティング
- 3 小型除雪機
- 4 その他 ()

問 3 5 あなたは、昨年度の冬に自宅前の雪を処理するため、民間企業などによる有料除排雪サービス(福祉除雪を除く)を利用しましたか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- 1 利用した
- 2 利用していない

問 3 6 札幌市では、市民の皆さまに『除雪ボランティア』への協力を呼び掛けています。以下のうち、あなたがこれまでに取り組んだことがある除雪ボランティアについて、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 転倒防止のため、つるつる路面に砂袋やペットボトルで滑り止めの砂をまく
- 2 ごみを出しやすいようにごみステーション周りの除雪をする
- 3 福祉除雪の地域協力員に登録し、高齢者宅等の玄関前除雪を行う
- 4 近所で困っている人の除雪を自発的に手伝う
- 5 消火栓周りの除雪を行う
- 6 雪どけ後に、雪置き場として利用した公園の清掃や、滑り止めの砂の回収を行う
- 7 除雪ボランティアに取り組んだことはない

札幌市では、市民の皆さまと協力して快適な冬を過ごせるよう、冬の暮らしのルールに関する情報発信を行っています。

- 敷地内の雪を道路に出してはいけない
- 除雪作業の支障になるため、路上駐車をしてはいけない

問 3 7 あなたは、「敷地内の雪を道路に出してはいけない」というルールを守っていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- 1 守っている
- 2 守っていない
- 3 除雪をする機会がない

問 3 8 あなたは、「路上駐車をしてはいけない」というルールを守っていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- 1 守っている
- 2 守っていない
- 3 車を運転する機会がない

問 3 9 昨年度、冬の暮らしに関する情報(札幌市の除雪に関する情報や冬のルール、除雪の出動情報など)を以下のように発信しました。あなたが、見たことがあるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 冬の暮らしガイド(広報さっぽろ12月号綴じ込み)
- 2 札幌市公式ホームページ(冬の暮らし・除雪)
- 3 テレビのデータ放送(HTB、NHK、HBC、UHB)
- 4 札幌市公式 SNS(Twitter、LINE)
- 5 札幌市公式 YouTube 動画(「札幌市民の皆さまへ大雪時のご協力をお願い」等)
- 6 インターネット・アプリ広告(Yahoo トップページ、LINE アプリ)
- 7 札幌市の広報番組(スマイルさっぽろリターンズ、ウォッチング札幌 NEXT100)
- 8 テレビのニュース番組、情報番組
- 9 テレビ CM(「札幌市は大雪時の対策を強化します」)
- 10 デジタルサイネージ(チカホ、各区役所、市電、HILOSHI、SAPPORO SNOW VISION 等)
- 11 札幌市のイベント(ジモトのシゴト ワク! WORK!、サッポロスマイルトーク、建設産業ふれあい展、雪と暮らすおはなし発表会)
- 12 劇場 CM(上映作品「月の満ち欠け」)
- 13 その他刊行物(啓発チラシ、パンフレット、ポスター、「さっぽろ雪の絵本」など)
- 14 見たことがない

テーマ6 さぼーとほっと基金について

札幌市のさぼーとほっと基金は、皆さまからの寄付を募り、町内会・ボランティア団体・NPOなどが行うまちづくり活動に助成することで、札幌のまちづくり活動を支援しています。

【さぼーとほっと基金の特長】

特長1 思いにかなう寄付の行き先を選べます

寄付の際、応援したい【さぼーとほっと基金登録団体】

【活動分野】【活動テーマ】を指定することができます

特長2 税負担が軽減されます

法人であれば法人税が、個人であれば所得税と個人住民税が軽減されます



問40 あなたは、さぼーとほっと基金を知っていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- | | | |
|--------------------|---|---------------------------------|
| 1 よく知っている | } | ⇒ 問40-1 、 問40-2 へ |
| 2 ある程度知っている | | |
| 3 名称は知っているが内容は知らない | | |
| 4 知らない | | ⇒ 問41 へ |

◀ **問40** で「1 よく知っている」、「2 ある程度知っている」、「3 名称は知っているが内容は知らない」と答えた方にお聞きします。▶

問40-1 あなたが、さぼーとほっと基金を知ったきっかけは何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

- 1 札幌市が発行している冊子やパンフレット
- 2 札幌市公式ホームページ
- 3 さぼーとほっと基金に寄付している企業の活動を通じて
- 4 市民まちづくり活動を行っている団体から紹介された
- 5 イベントや展示など
- 6 テレビ・ラジオ・新聞
- 7 家族や知人からの口コミ
- 8 他の窓口などで紹介された
- 9 その他 ()

問40-2 あなたは、さぼーとほっと基金に寄付をしたことがありますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- 1 はい
- 2 いいえ

《皆さまにお聞きます。》

問 4 1 あなたは、今後さぼーとほっと基金に寄付をしたいと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- 1 寄付したい
- 2 共感する活動・団体・テーマがあれば寄付したい
- 3 制度について理解を進めてから検討したい
- 4 寄付したくない

問 4 2 あなたが、寄付をする際に重要だと思うことは何ですか。あてはまるものに2つまで○をつけてください。

- 1 使い道の透明性が担保されている
- 2 情報発信・報告がしっかりしている
- 3 活動内容に共感できる
- 4 活動成果が具体的である
- 5 身近に活動していて親しみが持てる
- 6 寄付することで感謝状などの特典がある
- 7 その他 ()
- 8 特にない

問 4 3 あなたは、どのような寄付の方法や機会があるとよいと思いますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- 1 インターネットを介して団体の事業等を応援する寄付（クラウドファンディング）
- 2 インターネットでクリックする寄付（クリックした方に代わって協賛企業が行う寄付）
- 3 寄付付き商品の購入
- 4 その他 ()
- 5 特にない

問 4 4 あなたが寄付をしたいと思う市民まちづくり活動[※]は以下のどのような分野・テーマの活動ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

※市民が営利を目的とせず、市内において町内会、自治会、ボランティア団体、特定非営利活動法人等又は個人により自発的に行う公益的な活動

- 1 保健、医療、福祉の増進を図る活動
- 2 まちづくりの推進を図る活動
- 3 文化・スポーツ・観光・経済等の振興を図る活動
- 4 子どもの健全育成を図る活動
- 5 被災者支援活動（新型コロナウイルス感染症対策市民活動、その他の災害被災者支援）
- 6 寄付したいと思うが、分野・テーマにこだわらない
- 7 その他 ()
- 8 市民まちづくり活動に寄付したいと思わない

